

「改定常用漢字表」に関する答申案 (案)

「改定常用漢字表」に関する答申案（案）

目 次

はじめに	(1)
I 基本的な考え方	
1 情報化社会の進展と漢字政策の在り方	
(1) 改定常用漢字表作成の経緯	(3)
(2) 国語施策としての漢字表の必要性	(3)
(3) J I S漢字と、国語施策としての漢字表	(4)
(4) 漢字を手書きすることの重要性	(5)
(5) 名付けに用いる漢字	(6)
(6) 固有名詞における字体についての考え方	(6)
2 改定常用漢字表の性格	
(1) 基本的な性格	(7)
(2) 固有名詞に用いられる漢字の扱い	(8)
3 字種・音訓の選定について	
(1) 字種選定の考え方・選定の手順	(9)
(2) 字種選定における判断の観点と検討の結果	(11)
(3) 字種選定に伴って検討したその他の問題	(12)
(4) 音訓の選定	(12)
4 追加字種の字体について	
(1) 字体・書体・字形について	(13)
(2) 追加字種における字体の考え方	(13)
(3) 手書き字形に対する手当て等	(15)
5 その他関連事項	
(1) 漢字政策の定期的な見直し	(16)
(2) 学校教育における漢字指導	(16)
(3) 国語の表記にかかわる基準等	(16)
(付) 字体についての解説	(17)

Ⅱ 漢字表

1	表の見方	1
2	本 表	3
3	付 表	140

Ⅲ 参 考

1	追加字種（196字）表	143
	付 追加及び削除字種の一覧	153
2	「改定常用漢字表」に関する試案からの変更点一覧 （前文・字種・音訓・語例・備考欄・付表など）	154
	付 前文「基本的な考え方」の修正箇所	157
3	現行「常用漢字表」からの変更点一覧	171
4	「異字同訓」の漢字の用法例（追加字種・追加音訓関連）	173

<参考資料>

(1)	文化審議会国語分科会委員名簿	175
(2)	漢字小委員会委員名簿	177
(3)	文部科学大臣諮問（平成17年3月30日）	178
(4)	文部科学大臣諮問理由説明	181
(5)	審議経過	183

はじめに

平成17年3月30日に、文部科学大臣から文化審議会（以下、「審議会」という。）に対して、「敬語に関する具体的な指針の作成について」及び「情報化時代に対応する漢字政策の在り方について」が諮問され、文化審議会国語分科会（以下、「分科会」という。）において検討することとされた。

分科会では、平成17年5月16日に開催された第29回分科会以降、継続して上記の諮問事項の検討を行い、平成17年7月5日の第30回分科会では、この諮問事項に対応するために、分科会に敬語小委員会及び漢字小委員会を設置した。「敬語に関する具体的な指針の作成について」は敬語小委員会、「情報化時代に対応する漢字政策の在り方について」は漢字小委員会でそれぞれ検討することとされた。このうち、敬語に関しては、敬語小委員会の検討に基づいて分科会でまとめられた「答申案」が、平成19年2月2日に開かれた審議会総会で了承され、「敬語の指針」として、文部科学大臣に答申された。

漢字小委員会では、「国語施策として示される漢字表」の必要性から検討を始め、現行の常用漢字表が、現在の文字生活の実態から既に乖離していることを踏まえて、その改定作業に入ることとした。そのために、種々の漢字調査を行いつつ、周到かつ慎重に審議を進めた。審議に伴う具体的な作業に対応するため、平成19年10月17日に開催された第17回漢字小委員会では、「漢字小委員会ワーキンググループ」の設置を決めた。その後、漢字小委員会は、字種、音訓、字体等についての考え方を整理しつつ、議論を深め、「新常用漢字表（仮称）」に関する試案」の案を平成21年1月16日の委員会において取りまとめた。この案は、同年1月27日の分科会で了承され、同年3月16日から4月16日まで広く一般からの意見募集を行った。ここで寄せられた意見については、漢字小委員会で丁寧に検討し、新たに9字追加、4字削除するなど必要な修正を施した「改定常用漢字表」に関する試案」の案を同年10月23日に取りまとめた。

この案は、同年11月10日の分科会で了承され、同年11月25日から12月24日まで2度目の意見募集を行った。ここで寄せられた意見についても、漢字小委員会で十分に精査した上で、更に必要な修正を施し、「改定常用漢字表」に関する答申案（素案）」を同年4月23日に取りまとめた。この素案は、同年〇月〇〇日の分科会で、「答申案」として了承された。

なお、ここまでに開催された漢字小委員会、漢字小委員会ワーキンググループ等の回数は計94回（漢字小委員会：42回、同ワーキンググループ：49回、このほかに漢字小委員会・懇談会：3回）に上る。

本案は、「Ⅰ 基本的な考え方」「Ⅱ 漢字表」「Ⅲ 参考」から成る。このうち「基本的な考え方」においては、「情報化社会の進展と漢字政策の在り方」「改定常用漢字表の性格」などについて述べるとともに、これに関連する「漢字政策の定期的な見直し」「学校教育における漢字指導」などについての見解を述べる。また、「参考」には、「現行「常用漢字表」からの変更点一覧」「異字同訓」の漢字の用法例（追加字種・追加音訓関連）」などを掲げる。

I 基本的な考え方

I 基本的な考え方

1 情報化社会の進展と漢字政策の在り方

(1) 改定常用漢字表作成の経緯

改定常用漢字表の作成は、「はじめに」で述べたように平成17年3月30日の文部科学大臣諮問に基づくものである。この諮問に添えられた理由には、

種々の社会変化の中でも、情報化の進展に伴う、パソコンや携帯電話などの情報機器の普及は人々の言語生活とりわけ、その漢字使用に大きな影響を与えている。このような状況にあつて「法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安」である常用漢字表（昭和56年内閣告示・訓令）が、果たして、情報化の進展する現在においても「漢字使用の目安」として十分機能しているのかどうか、検討する時期に来ている。

常用漢字表の在り方を検討するに当たっては、JIS漢字や人名用漢字との関係を踏まえて、日本の漢字全体をどのように考えていくかという観点から総合的な漢字政策の構築を目指していく必要がある。その場合、これまで国語施策として明確な方針を示してこなかった固有名詞の扱いについても、基本的な考え方を整理していくことが不可欠となる。

また、情報機器の広範な普及は、一方で、一般の文字生活において人々が手書きをする機会を確実に減らしている。漢字を手で書くことをどのように位置付けるかについては、情報化が進展すればするほど、重要な課題として検討することが求められる。検討に際しては、漢字の習得及び運用面とのかかわり、手書き自体が大切な文化であるという二つの面から整理していくことが望まれる。（平成17年3月30日文部科学大臣諮問理由）

と述べられている。

分科会においては、上述の理由を踏まえて、「総合的な漢字政策」の核となるものが「国語施策として示される漢字表」であること、また、昭和56年に制定された現行の常用漢字表が近年の情報機器の広範な普及を想定せずに作成されたものであることから、「漢字使用の目安」としては見直しが必要であることを確認した。このため、常用漢字表の内容に急激な変化を与えて社会的な混乱を来すことのないよう留意しながら、常用漢字表に代わる漢字表を作成することとした。

(2) 国語施策としての漢字表の必要性

国語施策として示される漢字表は、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示すものであるが、情報機器による漢字使用が一般化し、社会生活で目にする漢字の量が確実に増えていると認められる現在、このよう

な目安としての漢字表があることは大きな意味がある。すなわち一般の社会生活における漢字使用を考えるとときには「コミュニケーションの手段としての漢字使用」という観点が極めて重要であり、その観点を十分に踏まえて作成された漢字表は、国民の言語生活の円滑化、また、漢字習得の目標の明確化に寄与すると考えられるためである。

言語生活の円滑化とは、当該の漢字表に基づく表記をすることによって、我が国の表記法として広く行われている漢字仮名交じり文による文字言語の伝達をより分かりやすく、効率的なものとすることができ、同時に、表現そのものの平易化にもつながるということである。このことは、情報機器の使用による漢字の多用化傾向が認められる現在の情報化社会の中で、＜漢字使用の目安としての漢字表＞が存在しない状況を想像してみれば明らかである。

また、情報機器の広範な普及によって、書記環境は大きく変わったが、読む行為自体は基本的に変わっていない。端的に言えば、現時点において情報機器は「読む行為」よりも「書く行為」を支援する役割が大きい。情報機器が広く普及し、その使用が一般化した時代の漢字使用の特質は、この点と密接にかかわるものである。その意味で、情報化社会においては、これまで以上に「読み手」に配慮した「書き手」になるという注意深さが求められる。情報化時代と言われる現在は、これまでと比較して、受け取る情報量が圧倒的に増えているということからも、この考え方の重要性は了解されよう。

(3) J I S 漢字と、国語施策としての漢字表

現在、多くの情報機器に搭載されている J I S 漢字の数は、第 1 水準、第 2 水準合わせて 6355 字あり、現行の常用漢字表に掲げる 1945 字の 3 倍強となっている。さらに、既に 1 万字を超える漢字 (J I S 第 1～第 4 水準の漢字数は 10050 字) を搭載している情報機器も急速に普及しつつある。情報機器を利用することで、このような多数の漢字が簡単に使える現在、常用漢字表の存在意義がなくなったのではないかという見方もある。

しかし、このことは、既に述べたことから明らかなように、一般の社会生活における「漢字使用の目安」を定めている常用漢字表の意義を損なうものではない。むしろ簡単に漢字が使えることによって、漢字の多用化傾向が認められる中では、「一般の社会生活で用いる場合の、効率的で共通性の高い漢字を収め、分かりやすく通じやすい文章を書き表すための漢字使用の目安 (「常用漢字表」の答申前文)」となる常用漢字表の意義はかえって高まっていると考えるべきである。改定常用漢字表に求められる役割もこれと同様のものである。

現在の情報化社会の中で大きな役割を果たしている J I S 漢字については、その重要性を十分認識しつつ、一般のコミュニケーションにおける漢字使用という観点から、「国語施策としての漢字表」を確実に踏まえた対応が必要である。すなわち、分かりやすい日本語表記に不可欠な「国語施策としての漢字表」に基づいて、情報機器に搭載されている＜多数の漢字を適切に選択しつつ使いこなしていく＞という考え方を多くの国民が基本認識として持つ必要がある。

(4) 漢字を手書きすることの重要性

漢字を手で書くことをどのように位置付けていくかについては、情報機器の利用が一般化する中で、早急に整理すべき課題である。その場合、文部科学大臣の諮問理由で述べられていたように、「漢字の習得及び運用面とのかかわり、手書き自体が大切な文化であるという二つの面から整理していく」必要がある。

このうち前者については、漢字の習得時と運用時に分けて考えることができる。情報機器を利用する場合にも、後述するように、情報機器の利用に特有な漢字習得が行われていると考えられるが、情報機器の利用が今後、更に日常化・一般化しても、習得時に当たる小学校・中学校では、それぞれの年代を通じて書き取りの練習を行うことが必要である。それは、書き取り練習の中で繰り返し漢字を手書きすることで、視覚、触覚、運動感覚など様々な感覚が複合する形でかかわることになるためである。これによって、脳が活性化されるとともに、漢字の習得に大きく寄与する。このような形で漢字を習得していくことは、漢字の基本的な運筆を確実に身に付けさせるだけでなく、将来、漢字を正確に弁別し、的確に運用する能力の形成及びその伸長・充実に結び付くものである。

運用時については、近年、手で書く機会が減り、情報機器を利用して漢字を書くことが多いが、その場合は複数の変換候補の中から適切な漢字を選択できることが必要となる。この選択能力は、基本的には、習得時の書き取り練習によって、身に付けた種々の感覚が一体化されることで、瞬時に、漢字を図形のように弁別できるようになることから獲得されていくものであると考えられる。

情報機器の利用は、複数の変換候補の中から適切な漢字を選択することにより、それ自体が特有の漢字習得につながっている。この場合、様々な感覚が複合する形でかかわる書き取りの反復練習とは異なって、視覚のみがかかわった習得となる。今後、情報機器の利用による習得機会は一層増加すると考えられるが、視覚のみがかかわる漢字習得では、主に漢字を図形のように弁別できる能力を強化することにしかならず、繰り返し漢字を手書きすることで身に付く、漢字の基本的な運筆や、図形弁別の根幹となる認知能力などを育てることはできない。

以上のように、漢字を手書きすることは極めて重要であり、漢字を習得し、その運用能力を形成していく上で不可欠なものと位置付けられる。

平成14年度に実施した文化庁の「国語に関する世論調査」の中で、「あなたの経験から漢字を習得する上で、どのようなことが役に立ちましたか。」と尋ねているが、第1位は「何度も手で書くこと」(74.3%)であり、上述の考えを裏付ける結果となっている。

後者の、手書き自体が大切な文化であるということに関連する調査として、同じ平成14年度実施の文化庁「国語に関する世論調査」の中で、「あなたは、漢字についてどのような意識を持っていますか。」ということを探っている。この結果は、「日本語の表記に欠くことのできない大切な文字である。」を選んだ人が71.0%で最も多く、逆に、最も少なかったのは「ワープロなどがあるので、これからは漢字を書く必要は少なくなる。」の3.4%であった。漢字を書く必要性は今後もなくなると考えている人が多数を占めていることは注目に値する。パソコンや携帯電話などの情報機器の使用が日常化し、一般化する中で、手書きの重要性が再認識され

つつあるが、一方で、手書きでは相手（＝読み手）に申し訳ないといった価値観も同時に生じていることに目を向ける必要がある。

上述のような状況を踏まえて、効率性が優先される実用の世界は別として、＜手で書くということは日本の文化としても極めて大切なものである＞という考え方を社会全体に普及していくことが重要である。また、手で書いた文字には、書き手の個性が現れるが、その意味でも、個性を大事にしようとする時代であるからこそ、手で書くことが一層大切にされなければならないという考え方が強く求められているとも言えよう。情報機器が普及すればするほど、手書きの価値を改めて認識していくことが大切である。

（５）名付けに用いる漢字

人名用漢字は、平成16年9月27日付けの戸籍法施行規則の改正により、それ以前と比較して、その数が大幅に増えた。このこと自体は名付けに用いることのできる漢字の選択肢が広がったということであるが、一方で、このような状況を踏まえると、名の持つ社会的な側面に十分配慮した、適切な漢字を使用していくという考え方がこれまで以上に社会全体に広がっていく必要がある。具体的には「子の名というものは、その社会性の上からみて、常用平易な文字を選んでつけることが、その子の将来のためであるということは、社会通念として常識的に了解されることであろう。（国語審議会「人名漢字に関する声明書」、昭和27年）」という認識を基本的に継承し、

- ① 文化の継承、命名の自由という観点を踏まえつつも、社会性という観点を併せ考え、読みやすく分かりやすい漢字を選ぶ。
- ② その漢字の意味や読み方を十分に踏まえた上で、子の名にふさわしい漢字を選ぶ。

という考え方が社会一般に共有される必要がある。

（６）固有名詞における字体についての考え方

固有名詞（人名・地名）における漢字使用については、特にその字体の多様性が問題となるが、その中でも姓や名に用いている漢字の字体には強いこだわりを持つ人が多い。そこに用いられている各種の異体字は、その個人のアイデンティティーの問題とも密接に絡んでおり、基本的には尊重されるべきである。しかしながら、一般の社会生活における「コミュニケーションの手段としての漢字使用」という観点からは、その個人固有の字体に固執して、他人にまで、その字体の使用を過度に要求することは好ましいことではない。

公共性の高い、一般の文書等での漢字使用においては、「1字種1字体」が基本であることを確認していくことは「コミュニケーションの手段としての漢字使用」という観点からは極めて大切である。姓や名だけでなく、新たに地名を付ける場合などにおいても、漢字の持つ社会的な側面を併せ考えていくという態度が社会全体の共通認識となっていくことが何より重要である。

2 改定常用漢字表の性格

(1) 基本的な性格

改定常用漢字表は、現行の常用漢字表と同じく、法令・公用文書・新聞・雑誌・放送等、一般の社会生活で用いる場合の、効率的で共通性の高い漢字を取め、分かりやすく通じやすい文章を書き表すための、新たな漢字使用の目安となることを目指したものである。一般の社会生活における漢字使用とは、義務教育における学習を終えた後、ある程度実社会や学校での生活を経た人を対象として考えたもので、この点も現行の常用漢字表と同様である。端的には、

- 1 法令、公用文書、新聞、雑誌、放送等、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示すものである。
- 2 科学、技術、芸術その他の各種専門分野や、個々人の表記にまで及ぼそうとするものではない。ただし、専門分野の語であっても、一般の社会生活と密接に関連する語の表記については、この表を参考とすることが望ましい。
- 3 固有名詞を対象とするものではない。ただし、固有名詞の中でも特に公共性の高い都道府県名に用いる漢字及びそれに準じる漢字は例外として扱う。
- 4 過去の著作や文書における漢字使用を否定するものではない。
- 5 運用に当たっては、個々の事情に応じて、適切な考慮を加える余地のあるものである。

という性格の漢字表と位置付けて作成するものである。また、「漢字使用の目安」における「目安」についても、現行の常用漢字表と同趣旨のものである。具体的には、「① 法令・公用文書・新聞・雑誌・放送等、一般の社会生活において、この表を無視してほしいままに漢字を使用してもよいというのではなく、この表を努力目標として尊重することが期待されるものであること。」、「② 法令・公用文書・新聞・雑誌・放送等、一般の社会生活において、この表を基に、実情に応じて独自の漢字使用の取決めをそれぞれ作成するなど、分野によってこの表の扱い方に差を生ずることを妨げないものであること。」（「常用漢字表」答申前文）という意味の語として用いているものである。

上述のように、改定常用漢字表は一般の社会生活における漢字使用の目安となることを目指すものであるから、表に掲げられた漢字だけを用いて文章を書かなければならないという制限的なものでなく、必要に応じ、振り仮名等を用いて読み方を示すような配慮を加えるなどした上で、表に掲げられていない漢字を使用することもできるものである。文脈や読み手の状況に応じて、振り仮名等を活用することについては、表に掲げられている漢字であるか否かにかかわらず、配慮すべきことであろう。このような配慮をするに当たっては、文化庁が平成22年2月から3月に実施した追加及び削除字種にかかわる国民の意識調査の結果も参考となろう。

なお、情報機器の使用が一般化・日常化している現在の文字生活の実態を踏まえるならば、漢字表に掲げるすべての漢字を手書きできる必要はなく、また、それを求めるものでもない。

(2) 固有名詞に用いられる漢字の扱い

改定常用漢字表の中に、専ら固有名詞（主に人名・地名）を表記するのに用いられる漢字を取り込むことは、一般用の漢字と固有名詞に用いられる漢字との性格の違いから難しい。したがって、これまでどおり漢字表の適用範囲からは除外する。ただし、都道府県名に用いる漢字及びそれに準じる漢字は例外として扱う。

適用の対象としない理由は、既に述べた両者の性格の違いからということであるが、もう少し具体的に述べれば、使用字種及び使用字体の多様性に加え、使用音訓の多様性までもが絡んでくるためである。一般の漢字表記にはほとんど使われず、固有名詞の漢字表記にだけ使われるく固有名詞用の字種や字体及び音訓はかなり多いというのが実情である。

3 字種・音訓の選定について

(1) 字種選定の考え方・選定の手順

現行の常用漢字表に掲げる漢字と、現在の社会生活における漢字使用の実態との間にはずれが生じており、このずれを解消するという観点から、字種の選定を行うこととした。そのため改定常用漢字表における字種としては、基本的に、一般社会においてよく使われている漢字（＝出現頻度数の高い漢字）を選定することとし、具体的には、最初に常用漢字を含む 3500 字程度の漢字集合を特定し、そこから、必要な漢字を絞り込むこととした。この選定過程では、以下の①を基本として、②以下の項目についても配慮しながら、単に漢字の出現頻度数だけではなく、様々な要素を総合的に勘案して選定していくことを基本方針とした。

- ① 教育等の様々な要素はいったん外して、日常生活でよく使われている漢字を出現頻度数調査の結果によって機械的に選ぶ。
 - ② 固有名詞専用字ということで、これまで外されてきた「阪」や「岡」等についても、出現頻度数が高ければ最初から排除はしない。（これについては最終的に上記 2 の（1）3 のように扱うこととした。）
 - ③ 出現頻度数が低くても、文化の継承という観点等から、一般の社会生活に必要と思われる漢字については取り上げていくことを考える。
 - ④ 漢字の習得の観点から、漢字の構成要素等を知るための基本となる漢字を選定することも考える。
- ①の考え方に基づいた漢字集合を特定するために、以下のような「漢字出現頻度数調査」を実施した。

	対象総漢字数	調査対象としたデータ
A 漢字出現頻度数調査(3)※1	49,072,315	書籍 860 冊分の凸版組版データ
B 上記Aの第2部調査	3,290,795	Aのうち教科書分の抽出データ
C 漢字出現頻度数調査(新聞)※2	3,674,613	朝日新聞2か月分の紙面データ
D 漢字出現頻度数調査(新聞)※2	3,428,829	読売新聞2か月分の紙面データ
E 漢字出現頻度数調査(ウェブサイト)※3	1,390,997,102	ウェブサイト調査の抽出データ

※1 Aの調査対象総文字数は「169,050,703」。また、Bとは別に、第3部として月刊誌4誌の抽出調査も実施している。これらの組版データは、いずれも平成16年、17年、18年に凸版印刷が作成したものである。

※2 C、Dは、いずれも平成18年10月1日～11月30日までの朝刊・夕刊の最終版を調査したデータである。

※3 調査全体の漢字数は「3,128,388,952」。このうち「電子掲示板サイトにおける投稿本文」のデータを除いたもの。

これらの調査結果のうち、Aを基本資料、B以下を補助資料と位置付けて、上記の 3500 字の漢字集合に入った漢字の 1 字 1 字について、改定常用漢字表に入れるべきかどうかを判断した。実際に検討した漢字は、調査Aにおいて、常用漢字としては、最も出現順位の低かった「銑」（4004 位）と同じ出現回数を持つ漢字までとしたので、4011 字に上る。

この漢字集合に入った漢字については、常用漢字であるか、表外漢字であるかによって、次のような方針に従い、かつ常用漢字表における字種選定の考え方を参考としながら選定作業を進めた。

<方針：常用漢字・表外漢字の扱い>

- ① 常用漢字のうち、2500 位以内のものは残す方向で考える（個別の検討はしない）。
- ② 常用漢字で、2501 位以下のものは「候補漢字A」とし、個別に検討を加える（→該当する常用漢字は60字）。
- ③ 表外漢字のうち、1500 位以内の漢字を「候補漢字S」とし、個別に検討する。
- ④ 表外漢字のうち、1501～2500 位のものを「候補漢字A」とし、個別に検討する。
- ⑤ 表外漢字のうち、2501～3500 位のものを「候補漢字B」とし、個別に検討する。

なお、3501～4011 位までの表外漢字のうち、特に検討する必要を認めた漢字については「候補漢字B」に準じて扱うこととした。また、常用漢字の異体字（「嶋」、「國」など）は検討対象から外した。候補漢字については、

- ・候補漢字S：基本的に新漢字表に加える方向で考える。
- ・候補漢字A：基本的に残す方向で考えるが、不要なものは落とす。
- ・候補漢字B：特に必要な漢字だけを拾う。

と考えたが、これは、検討を効率的に進めるための便宜的な区分であり、実際には対象漢字の1字1字を常用漢字表の選定基準に照らしつつ総合的に判断した。選定基準の3に関して、都道府県名に用いる漢字及びそれに準じる漢字は例外とした。

<選定基準：昭和56年3月23日国語審議会答申「常用漢字表」前文>

字種や音訓の選定に当たっては、語や文を書き表すという観点から、現代の国語で使用されている字種や音訓の実態に基づいて総合的に判断した。主な考え方は次のとおりである。

- 1 使用度や機能度（特に造語力）の高いものを取り上げる。なお、使用分野の広さも参考にする。
- 2 使用度や機能度がさほど高くなくても、概念の表現という点から考えた場合に、仮名書きでは分かりにくく、特に必要と思われるものは取り上げる。
- 3 地名・人名など、主として固有名詞として用いられるものは取り上げない。
- 4 感動詞・助動詞・助詞のためのものは取り上げない。
- 5 代名詞・副詞・接続詞のためのものは広く使用されるものを取り上げる。
- 6 異字同訓はなるべく避けるが、漢字の使い分けのできるもの及び漢字で書く習慣の強いものは取り上げる。
- 7 いわゆる当て字や熟字訓のうち、慣用の久しいものは取り上げる。

なお、当用漢字表に掲げてある字種は、各方面への影響も考慮して、すべて取り上げた。

(2) 字種選定における判断の観点と検討の結果

上記(1)に述べた作業の結果、現行の常用漢字表に追加する字種の候補として220字、現行の常用漢字表から削除する字種の候補として5字を選定した。その後、『出現文字列頻度数調査』を用いて、追加候補及び削除候補の1字1字の使用実態を確認しながら、追加字種候補を188字とした。『出現文字列頻度数調査』とは、(1)の「漢字出現頻度数調査A」に出現している漢字のうち、検討対象とした漢字を中心として前後1文字(全体で3文字)の文字列を抽出し、当該の漢字の出現状況を見ようとしたものである。この『出現文字列頻度数調査』によって、当該の漢字の出現状況が明らかになり、その漢字の具体的な使われ方を正確に確認することができた。その上で、当該の漢字を追加候補とするかどうかについては、基本的には前述の常用漢字表の選定基準と重なるものであるが、以下のような観点に照らして判断した。

<入れると判断した場合の観点>

- ① 出現頻度が高く、造語力(熟語の構成能力)も高い
→ 音と訓の両方で使われるものを優先する(例:眉, 溺)
- ② 漢字仮名交じり文の「読み取りの効率性」を高める
→ 出現頻度が高い字を基本とするが、それほど高くなくても漢字で表記した方が分かりやすい字(例:謙遜の「遜」、堆積の「堆」)
→ 出現頻度が高く、広く使われている代名詞(例:誰, 俺)
- ③ 固有名詞の例外として入れる
→ 都道府県名(例:岡, 阪)及びそれに準じる字(例:畿, 韓)
- ④ 社会生活上よく使われ、必要と認められる
→ 書籍や新聞の出現頻度が低くても、必要な字(例:訃報の「訃」)

<入れないと判断した場合の観点>

- ① 出現頻度が高くても造語力(熟語の構成能力)が低く、訓のみ、あるいは訓中心に使用(例:濡, 覗)
- ② 出現頻度が高くても、固有名詞(人名・地名)中心に使用(例:伊, 鴨)
- ③ 造語力が低く、仮名書き・ルビ使用で、対応できると判断(例:醬, 顛)
- ④ 造語力が低く、音訳語・歴史用語など特定分野で使用(例:菩, 揆)

188字の追加字種候補を選定した後、追加字種の音訓を検討する過程で、字種についても若干の見直し(追加4字, 削除1字)を行い、「新常用漢字表(仮称)」に関する試案」では191字を追加することとした。さらに、平成21年3月から4月に実施した、一般国民及び各府省等を対象とした意見募集で寄せられた意見を踏まえて再度の見直し(追加9字, 削除4字)を行い、「改定常用漢字表」に関する試案」では196字を追加字種とした。また、平成21年11月から12月には2度目の意見募集を実施し、寄せられた意見を精査した上で更に検討を加えたが、本答申案(素案)でも、この196字の追加字種をそのまま踏襲することとした。

さらに、選定した196字の追加字種と5字の削除字種については、平成22年の2月から3月に、意識調査（16歳以上の国民約4100人から回答）を実施し、その結果は、字種の選定が妥当であったことを裏付けるものと言えよう。

なお、2度の意見募集に際し、関係者から追加要望のあった「碍（障碍）」は、上述の字種選定基準に照らして、現時点では追加しないが、政府の「障がい者制度改革推進本部」において、「障害」の表記の在り方に関する検討が行われているところであり、その検討結果によっては、改めて検討することとする。

（3）字種選定に伴って検討したその他の問題

字種の選定に伴って、検討の過程では、「準常用漢字（仮称＝情報機器を利用して書ければよい漢字）」や「特別漢字（仮称＝出現頻度は低くても日常生活に必要な漢字）」を設定するかどうか、また、現行の常用漢字表にある「付表」（当て字や熟字訓などを語の形で掲げた表）に加え、例えば、「挨拶」の「挨」と「拶」のように、「挨拶」という特定の熟語でしか使わなく頻度の高い表外漢字の熟語や、「元旦」のように表外漢字の「旦」を含む熟語等について、その特定の語に限って常用漢字と同様に認める熟語の表を「付表2（仮称）」あるいは「別表（仮称）」として設定するかどうかなどについても時間を掛けて検討したが、最終的にはなるべく単純明快な漢字表を作成するという考え方を優先し、これらについては設定しないこととした。

（4）音訓の選定

「新常用漢字表（仮称）」に関する試案で追加字種とした191字については、既に述べた「常用漢字表の選定基準」及び『出現文字列頻度数調査』の結果を併せ見ながら、採用すべき音訓を決めた。また、現行の常用漢字表にある字についても、その音訓をすべて再検討し、現在の文字生活の実態から考えて必要な音訓を追加し、必要ないと判断された訓（疲：つからす）を削除した。「付表」についても同様の観点から再検討し、若干の手直しを施した。

なお、音訓の選定に当たっては、独立行政法人国立国語研究所から提供を受けた資料（『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の生産実態サブコーパス・書籍データのうち、平成20年9月9日の時点で、利用可能な約1730万語のデータに基づく調査結果）を併せ参照した。

その後、（2）の「字種選定における判断の観点と検討の結果」で述べた2度の意見募集によって寄せられた意見を踏まえ、音訓についても2度の見直しを行い、必要な音訓の追加及び削除を行った。

4 追加字種の字体について

(1) 字体・書体・字形について

字体・書体・字形については、現行常用漢字表の「字体は文字の骨組みである」という考え方を踏襲し、この3者の関係を分析・整理した「表外漢字字体表」（国語審議会答申，平成12年12月）の考え方に従っている。以下に、3者の関係を改めて述べる。

文字の骨組みである字体とは、ある文字をある文字たらしめている点画の抽象的な構成の在り方のことで、他の文字との弁別にかかわるものである。字体は抽象的な形態上の観念であるから、これを可視的に示そうとすれば、一定のスタイルを持つ具体的な文字として出現させる必要がある。

この字体の具体化に際し、視覚的な特徴となって現れる一定のスタイルの体系が書体である。例えば、書体の一つである明朝体^{みん}の場合は、縦画を太く横画を細くして横画の終筆部にウロコという三角形の装飾を付けるなど、一定のスタイルで統一されている。すなわち、現実の文字は、例外なく、骨組みとしての字体を具体的に出現させた書体として存在しているものである。書体には、印刷文字で言えば、明朝体、ゴシック体、正楷書体、教科書体等がある。

また、字体、書体のほかに字形という語があるが、これは印刷文字、手書き文字を問わず、目に見える文字の形そのものを総称して言う場合に用いる。総称してというのは、様々なレベルでの文字の形の相違を包括して称するということである。したがって、「論」と「論」などの文字の違いや「談(明朝体)」と「談(ゴシック体)」などの書体の違いを字形の相違と言うことも可能であるし、同一字体・同一書体であっても生じ得るような微細な違いを字形の相違と言うことも可能である。

なお、ここで言う手書き文字とは、主として、楷書（楷書に近い行書を含む。）で書かれた字形を対象として用いているものである。

(2) 追加字種における字体の考え方

現行常用漢字表では、「主として印刷文字の面から現代の通用字体（答申前文）」が示され、筆写における「手書き文字」は別のこととしている。本試案でも、この考え方を踏襲し、本表の漢字欄には、印刷文字としての通用字体を示した。具体的には、「表外漢字字体表」の「印刷標準字体」と、「人名用漢字字体」を通用字体として掲げた。ただし、同表で「簡易慣用字体」とした「曾」「瘦」「麵」はその字体を掲げ、人名用漢字字体の「瘦」は「瘦」を掲げた関係で採用していない。なお、現行の常用漢字表制定時に追加した95字については、表内の字体に合わせ、一部の字体を簡略化したが、今回は追加字種における字体が既に「印刷標準字体」及び「人名用漢字字体」として示され、社会的に極めて安定しつつある状況を重視し、そのような方針は採らなかった。より具体的に述べれば、以下のとおりである。

① 当該の字種における「最も頻度高く使用されている字体」を採用する。

- 「表外漢字字体表」の「印刷標準字体」及び「人名用漢字字体」がそれに該当する。（「表外漢字字体表」の「簡易慣用字体」を採用するものは、頻度数に優先して、生活漢字としての側面を重視したことによる。）

- ・ 教科書や国語辞典をはじめ、一般の書籍でも当該字種の字体として広く用いられている。例えば、上述の「漢字出現頻度数調査A」では、
 (類：8回，頰：6685回) (亀：6695回，龜：4回)
 (遡：2回，遡：753回) (餌：3回，餌：1377回)
 という結果（出現回数）となっている。
- ・ 情報機器でも近い将来この字体に収束していくものと考えられる。

② 国語施策としての一貫性を大切にす。

- ・ 今回、追加する字種の標準の字体が、既に「印刷標準字体」及び「人名用漢字字体（＝昭和26年以降平成9年までに示された字体。なお、平成16年9月に追加された人名用漢字においては、印刷標準字体がそのまま採用されている。）」として示されており、表内に入るからといって、その標準の字体を変更することは、安定している字体の使用状況に大きな混乱をもたらすことが予想される。このことは、表外に出る漢字にも同様に当てはまることであり、標準の字体は表内か表外かで変わるものではない。
- ・ 社会的な慣用（字体の安定性）を重んじ、一般の文字生活の現実を混乱させないという考え方が国語施策の基本的な態度である。

③ 「改定常用漢字表」の「目安」としての性格を考慮する。

- ・ 目安としての漢字表である限り、表外漢字との併用が前提となる。この点から表内の字体の整合を図る意味が、制限漢字表であった当用漢字表に比べて相対的に低下している。
- ・ 今後、常用漢字が更に増えたとしても表外漢字との併用が前提となる。その表外漢字の字体は基本的に印刷標準字体であるので、表内に入れば、字体を変更するということが繰り返されると、社会における字体の安定性という面で大きな問題となる。

④ J I S規格（JIS X 0213）における改正の経緯を考慮する。

- ・ 表外漢字字体表の「答申前文」にある以下の記述に沿って、J I S規格（JIS X 0213）が平成16年2月に改正され、印刷標準字体及び簡易慣用字体が既に採用されていることを考慮する必要がある。

今後、情報機器の一層の普及が予想される中で、その情報機器に搭載される表外漢字の字体については、表外漢字字体表の趣旨が生かされることが望ましい。このことは、国内の文字コードや国際的な文字コードの問題と直接かかわっており、将来的に文字コードの見直しがある場合、表外漢字字体表の趣旨が生かせる形での改訂が望まれる。改訂に当たっては、関係各機関の十分な連携と各方面への適切な配慮の下に検討される必要がある。（平成12年12月8日 国語審議会答申「表外漢字字体表」前文）

- ・ 今回、字体を変更することは、表外漢字字体表に従って改正された文字コード及びそれに基づいて搭載される情報機器の字体に大きな混乱をもたらすことになる。

また、個々の漢字の字体については、現行の常用漢字表同様、印刷文字として、明朝体が現在最も広く用いられているので、便宜上、そのうちの一種を例に用いて示した。このことは、ここに用いたものによって、現在行われている各種の明朝体のデザイン上の差異を問題にしようとするものではない。この点についても、現行の常用漢字表と同様である。（「(付) 字体についての解説」参照）

なお、現行の常用漢字表に示されている通用字体については一切変更しないが、これも上記の理由（特に①及び②）に基づく判断である。

（3）手書き字形に対する手当て等

上記（2）で述べた方針を採った場合、現行の常用漢字表で示す「通用字体」と異なるものが一部採用されることになる。特に「しんにゅう」「しょくへん」については、同じ「しんにゅう／しょくへん」でありながら、現行の「讠／食」の字形に対して「讠／食」の字形が混在することになる。

この点に関し、印刷文字に対する手当てとしては、

「しんにゅう／しょくへん」にかかわる字のうち、「讠／食」の字形が通用字体であるものについては、「讠／食」の字形を角括弧に入れて許容字体として併せ示した。当該の字に関して、現に印刷文字として許容字体を用いている場合、通用字体である「讠／食」の字形に改める必要はない。

という「字体の許容」を行い、更に当該の字の備考欄には、角括弧を付したものが「許容字体」であることを注記した。「字体の許容」を適用するのは、具体的には「遜（遜）・遡（遡）・謎（謎）・餌（餌）・餅（餅）」の5字（いずれも括弧の中が許容字体）である。

また、手書き字形（＝「筆写の楷書字形」）に対する手当てとしては、「しんにゅう」「しょくへん」に限らず、印刷文字字形と手書き字形との関係について、現行常用漢字表にある「(付) 字体についての解説」、表外漢字字体表にある「印刷文字字形（明朝体字形）と筆写の楷書字形との関係」を踏襲しながら、実際に手書きをする際の参考となるよう、更に具体例を増やして記述した。

「しんにゅう」の印刷文字字形である「讠／讠」に関して付言すれば、どちらの印刷文字字形であっても、手書き字形としては同じ「讠」の形で書くことが一般的である、という認識を社会全般に普及していく必要がある。（「(付) 字体についての解説」参照）

5 その他関連事項

以上のとおり改定常用漢字表を作成することに伴って、これに関連する漢字政策の定期的な見直しの必要性や、学校教育にかかわる漢字指導の扱いなどの問題については、次のように考えた。

(1) 漢字政策の定期的な見直し

現代のような変化の激しい時代にあっては、「言葉に関する施策」についても、定期的な見直しが必要である。特に漢字表のように現在進行しつつある書記環境の変化と密接にかかわる国語施策については、この点への配慮が必要である。今後、定期的に漢字表の見直しを行い、必要があれば改定していくことが不可欠となる。

この意味で、定期的・計画的な漢字使用の実態調査を実施していくことが重要である。漢字表の改定が必要かどうかについては、その調査結果を踏まえ、

- ① 言語そのものの変化という観点
- ② 言語にかかわる環境の変化という観点

という二つの観点に基づいて、社会的な混乱が生じないように、慎重に判断すべきである。なお、②の変化とは具体的には、情報機器の普及によって生じた書記手段の変化等を指すものである。

(2) 学校教育における漢字指導

現行常用漢字表の「答申前文」に示された以下の考え方を継承し、改定常用漢字表の趣旨を学校教育においてどのように具体化するかについては、これまでどおり教育上の適切な措置にゆだねる。

常用漢字表は、その性格で述べたとおり、一般の社会生活における漢字使用の目安として作成したものであるが、学校教育においては、常用漢字表の趣旨、内容を考慮して漢字の教育が適切に行われることが望ましい。

なお、義務教育期間における漢字の指導については、常用漢字表に掲げる漢字のすべてを対象としなければならないものではなく、その扱いについては、従来の漢字の教育の経緯を踏まえ、かつ、児童生徒の発達段階等に十分配慮した、別途の教育上の適切な措置にゆだねることとする。

(昭和56年3月23日国語審議会答申「常用漢字表」前文)

(3) 国語の表記にかかわる基準等

現行の常用漢字表の実施に伴い、各分野で行われてきている国語の表記や表現についての基準等がある場合、改定常用漢字表の趣旨・内容を踏まえ、かつ、各分野でのこれまでの実施の経験等に照らして、必要な改定を行うなど適切な措置を取ることが望ましい。

第1 明朝体のデザインについて

改定常用漢字表では、個々の漢字の字体（文字の骨組み）を、明朝体のうちの一種を例に用いて示した。現在、一般に使用されている明朝体の各種書体には、同じ字でありながら、微細なところで形の相違の見られるものがある。しかし、各種の明朝体を検討してみると、それらの相違はいずれも書体設計上の表現の差、すなわちデザインの違いに属する事柄であって、字体の違いではないと考えられるものである。つまり、それらの相違は、字体の上からは全く問題にする必要のないものである。以下に、分類して、その例を示す。

なお、ここに挙げているデザイン差は、現実異なる字形がそれぞれ使われていて、かつ、その実態に配慮すると、字形の異なりを字体の違いと考えなくてもよいと判断したものである。すなわち、実態として存在する異字形を、デザインの差と、字体の差に分けて整理することがその趣旨であり、明朝体字形を新たに作り出す場合に適用し得るデザイン差の範囲を示したものではない。また、ここに挙げているデザイン差は、おおむね「筆写の楷書字形において見ることが出来る字形の異なり」ととらえることも可能である。

1 へんとつくり等の組み合わせ方について

(1) 大小、高低などに関する例

硬 硬 吸 吸 頃 頃

(2) はなれているか、接触しているかに関する例

睡 睡 異 異 挨 挨

2 点画の組み合わせ方について

(1) 長短に関する例

雪 雪 雪 満 満 無 無 斎 斎

(2) つけるか、はなすかに関する例

兪 兪 備 備 奔 奔 溺 溺
空 空 湿 湿 吹 吹 冥 冥

(3) 接触の位置に関する例

岸 岸 家 家 脈 脈 脈

蚕 蚕 印 印 蓋 蓋

(4) 交わるか、交わらないかに関する例

聽 聽 非 非 祭 祭

存 存 孝 孝 射 射

(5) その他

芽 芽 芽 夢 夢 夢

3 点画の性質について

(1) 点か、棒（画）かに関する例

帰 帰 班 班 均 均 麗 麗 蔑 蔑

(2) 傾斜，方向に関する例

考 考 値 値 望 望

(3) 曲げ方，折り方に関する例

勢 勢 競 競 頑 頑 頑 災 災

(4) 「筆押さえ」等の有無に関する例

芝 芝 更 更 伎 伎

八 八 八 公 公 公 雲 雲

(5) とめるか，はらうかに関する例

環 環 泰 泰 談 談

医 医 繼 繼 園 園

(6) とめるか、ぬくかに関する例

耳_↙耳_↙ 邦_↙邦_↙ 街_↙街_↙ 餌_↙餌_↙

(7) はねるか、とめるかに関する例

四_←四_← 配_↙配_↙ 換_←換_← 湾_↙湾_↙

(8) その他

→次→次 →姿→姿

4 特定の字種に適用されるデザイン差について

「特定の字種に適用されるデザイン差」とは、以下の(1)～(5)それぞれの字種にのみ適用されるデザイン差のことである。したがって、それぞれに具体的な字形として示されているデザイン差を他の字種にまで及ぼすことはできない。

なお、(4)に掲げる「叱」と「叱」は本来別字とされるが、その使用実態から見て、異体の関係にある同字と認めることができる。

(1) 牙_↙・牙_↙・牙_↙

(2) 韓_↙・韓_↙・韓_↙

(3) 茨_↙・茨_↙・茨_↙

(4) 叱_↙・叱_↙

(5) 枳_↙・枳_↙

第2 明朝体と筆写の楷書との関係について

改定常用漢字表では、個々の漢字の字体（文字の骨組み）を、明朝体のうちの一種を例に用いて示した。このことは、これによって筆写の楷書における書き方の習慣を改めようとするものではない。字体としては同じであっても、1、2に示すように明朝体の字形と筆写の楷書の字形との間には、いろいろな点で違いがある。それらは、印刷文字と手書き文字におけるそれぞれの習慣の相違に基づく表現の差と見るべきものである。

さらに、印刷文字と手書き文字におけるそれぞれの習慣の相違に基づく表現の差は、3に示すように、字体（文字の骨組み）の違いに及ぶ場合もある。

以下に、分類して、それぞれの例を示す。いずれも「明朝体—手書き（筆写の楷書）」という形で、左側に明朝体、右側にそれを手書きした例を示す。

1 明朝体に特徴的な表現の仕方があるもの

(1) 折り方に関する例

衣 — 衣 去 — 去 玄 — 玄

(2) 点画の組み合わせ方に関する例

人 — 人 家 — 家 北 — 北

(3) 「筆押さえ」等に関する例

芝 — 芝 史 — 史
入 — 入 八 — 八

(4) 曲直に関する例

子 — 子 手 — 手 了 — 了

(5) その他

之・之 — 之 心 — 心 心 — 心

2 筆写の楷書では、いろいろな書き方があるもの

(1) 長短に関する例

雨 — 雨 雨 戸 — 戸 戸 戸

無 — 無 無

(2) 方向に関する例

風 — 風 風 比 — 比 比

仰 — 仰 仰

糸 — 糸 糸 才 — 才 才 才 — 才 才

主 — 主 主 言 — 言 言 言

年 — 年 年 年

(3) つけるか、はなすかに関する例

又 — 又 又 文 — 文 文

月 — 月 月

条 — 条 条 保 — 保 保

(4) はらうか、とめるかに関する例

奥 — 奥 奥 公 — 公 公

角 — 角 角 骨 — 骨 骨

(5) はねるか、とめるかに関する例

切 — 切 切 切 改 — 改 改 改

酒 — 酒 酒 陸 — 陸 陸 陸

宀 — 宀 宀 宀

木 — 木 木

来 — 来 来

糸 — 糸 糸

牛 — 牛 牛

環 — 環 環

(6) その他

令 — 令 令

外 — 外 外 外

女 — 女 女

叱 — 叱 叱 叱

3 筆写の楷書字形と印刷文字字形の違いが、字体の違いに及ぶもの

以下に示す例で、括弧内は印刷文字である明朝体の字形に倣って書いたものであるが、筆写の楷書ではどちらの字形で書いても差し支えない。なお、括弧内の字形の方が、筆写字形としても一般的な場合がある。

(1) 方向に関する例

淫 — 淫 (淫)

恣 — 恣 (恣)

煎 — 煎 (煎)

嘲 — 嘲 (嘲)

溺 — 溺 (溺)

蔽 — 蔽 (蔽)

(2) 点画の簡略化に関する例

葛 — 葛 (葛)

嗅 — 嗅 (嗅)

僅 — 僅 (僅)

餌 — 餌 (餌)

箋 — 箋 (箋)

填 — 填 (填)

賭 — 賭 (賭)

頰 — 頰 (頰)

(3) その他

惧 - 惧 (惧)

稽 - 稽 (稽)

詮 - 詮 (詮)

涉 - 涉 (涉)

剥 - 剥 (剥)

喻 - 喻 (喻)



II 漢字表



1 表の見方

- 1 この表は、「本表」と「付表」とから成る。
- 2 「本表」には、字種2136字を掲げ、字体、音訓、語例等を併せ示した。
- 3 漢字欄には、字種と字体を示した。字種は字音によって五十音順に並べた。同音の場合はおおむね字画の少ないものを先にした。字音を取り上げていないものは字訓によった。
- 4 字体は、文字の骨組みであるが、便宜上、明朝体^{みん}のうちの一種を例に用いて<印刷文字における現代の通用字体>を示した。
- 5 「しんにゅう／しょくへん」にかかわる字のうち、「讠／食」の字形が通用字体であるものについては、「讠／食」の字形を角括弧に入れて許容字体として併せ示した。当該の字に関して、現に印刷文字として許容字体を用いている場合、通用字体である「讠／食」の字形に改める必要はない。これを「字体の許容」と呼ぶ。
なお、当該の字の備考欄には、角括弧に入れたものが許容字体であることを注記した。また、通用字体の「謎」における「謎」についても「しんにゅう／しょくへん」の扱いに準じるものとして、同様の注記を加えてある。
- 6 丸括弧に入れて添えたものは、いわゆる康熙字典^{かん}体である。これは明治以来行われてきた活字の字体とのつながりを示すために、参考として添えたものであるが、著しい差異のないものは省いた。
- 7 音訓欄には、音訓を示した。字音は片仮名で、字訓は平仮名で示した。1字下げで示した音訓は、特別なものか、又は用法のごく狭いものである。なお、1字下げで示した音訓のうち、備考欄に都道府県名を注記したものは、原則として、その都道府県名にのみ用いる音訓であることを示す。
- 8 派生の関係にあつて同じ漢字を使用する習慣のある次のような類は、適宜、音訓欄又は例欄に主なものを示した。

けむる	煙る	わける	分ける
けむり	煙	わかれる	分かれる
けむい	煙い、煙たい、煙たがる	わかる	分かる
		わかっ	分かっ

なお、次のような類は、名詞としてだけ用いるものである。

しるし	印	こおり	氷
-----	---	-----	---

- 9 例欄には、音訓使用の目安として、その字の当該音訓における使用例の一部を示した。なお、「案じる」「信じる」「力む」等のように字音を動詞として用いることのできるものについては、特に必要な場合を除き、示していない。
- 10 例欄の語のうち、副詞的用法、接続詞的用法として使うものであつて、紛らわしいものには、特に〔副〕、〔接〕という記号を付けた。

- 11 他の字又は語と結び付く場合に音韻上の変化を起こす次のような類は、音訓欄又は備考欄に示しておいたが、すべての例を尽くしているわけではない。

納得 (ナットク)	格子 (コウシ)
手綱 (タヅナ)	金物 (カナモノ)
音頭 (オンド)	夫婦 (フウフ)
順応 (ジュンノウ)	因縁 (インネン)
春雨 (ハルサメ)	

- 12 備考欄には、個々の音訓の使用に当たって留意すべき事項などを記した。
(1) 異字同訓のあるものを適宜⇨で示し、また、付表にある語でその漢字を含んでいるものを注記した。

- (2) 都道府県名については、音訓欄に「1字下げで掲げた音訓」が、原則として、その都道府県名を表記するために掲げた音訓であることを明示する場合に、「埼玉県」「栃木県」のように注記した。

また、都道府県名に用いられる漢字の読み方が、当該の音訓欄にない場合(例えば大分県の「分」、愛媛県の「愛」「媛」など)、その都道府県の読み方を備考欄に「大分(おおいた)県」「愛媛(えひめ)県」という形で注記した。

したがって、すべての都道府県名を備考欄に掲げるものではない。

- (3) 備考欄にある「*」は、「(付)字体についての解説」「第2 明朝体と筆写の楷書との関係について」の「3 筆写の楷書字形と印刷文字字形の違いが、字体の違いに及ぶもの」の中に参照すべき具体例があることを示す。当該字が具体例として挙げられている場合は、*の後に、[(23)ページ参照]と参照すべきページ数を掲げたが、具体例にない場合は[(23)ページ【剝】参照]として、同様に考えることができる具体例をページ数と併せ掲げた。

また、しんにゅうの字、及びしんにゅうを構成要素として含む字のうち通用字体が「し」で示されている字については、上記「第2 明朝体と筆写の楷書との関係について」の「1 明朝体に特徴的な表現の仕方があるもの」の中に「し・しーし」が示され、「し」も筆写では「し」と同様に「し」と書くことから、備考欄に「*」を付した。

なお、「*」の付いた字の多くは、昭和56年の制定当初から常用漢字表に入っていた字体とは、「臭⇨嗅」「歩⇨歩」「狭⇨頰」「道⇨遡」「芽⇨牙」「幣⇨蔽」などのように、同じ構成要素を持ちながら、通用字体の扱いに字体上の差異があるものである。

- 13 「付表」には、いわゆる当て字や熟字訓など、主として1字1字の音訓としては挙げにくいものを語の形で掲げた。便宜上、その読み方を平仮名で示し、五十音順に並べた。

付 情報機器に搭載されている印刷文字字体の関係で、本表の掲出字体とは異なる字体(掲出字体の「頰・賭・剝」に対する「頰・賭・剥」など)を使用することは差し支えない。

2 本 表

※下線は、現行常用漢字表に追加した字種、音訓等

アーイ

漢 字	音 訓	例	備 考
亜 (亞)	ア	亜流, 亜麻, 亜熱帯	
哀	アイ あわれ あわれむ	哀愁, 哀願, 悲哀 哀れ, 哀れな話, 哀れがる 哀れむ, 哀れみ	
挨	アイ	挨拶	
愛	アイ	愛情, 愛読, 恋愛	愛媛 (えひめ) 県
曖	アイ	曖昧	
悪 (惡)	アク オ わるい	悪事, 悪意, 醜悪 悪寒, 好悪, 憎悪 悪い, 悪さ, 悪者	
握	アク にぎる	握手, 握力, 掌握 握る, 握り, 一握り	
圧 (壓)	アツ	圧力, 圧迫, 気圧	
扱	あつかう	扱う, 扱い, 客扱い	
宛	あてる	宛てる, 宛先	⇨ 当てる, 充てる
嵐	あらし	嵐, 砂嵐	
安	アン やすい	安全, 安価, 不安 安い, 安らかだ	
案	アン	案文, 案内, 新案	
暗	アン くらい	暗示, 暗愚, 明暗 暗い, 暗がり	
以	イ	以上, 以内, 以後	
衣	イ ころも	衣服, 衣食住, 作業衣 衣, 羽衣	浴衣 (ゆかた)
位	イ くらい	位置, 第一位, 各位 位, 位取り, 位する	「三位一体」, 「従三位」は, 「サンミイッタ イ」, 「ジュサンミ」。
囲 (圍)	イ	囲碁, 包囲, 範囲	

	かこむ かこう	囲む, 囲み 囲う, 囲い	
医 (醫)	イ	医学, 医療, 名医	
依	イ エ	依頼, 依拠, 依然 帰依	
委	イ <u>ゆだねる</u>	委任, 委員, 委細 <u>委ねる</u>	
威	イ	威力, 威圧, 示威	
為 (爲)	イ	為政者, 行為, 作為	為替 (かわせ)
畏	<u>イ</u> <u>おそれる</u>	<u>畏敬, 畏怖</u> <u>畏れる, 恐れ</u>	⇒ <u>恐れる</u>
胃	イ	胃腸, 胃酸, 胃弱	
尉	イ	尉官, 一尉, 大尉	
異	イ こと	異論, 異同, 奇異 異にする, 異なる	
移	イ うつる うつす	移転, 移民, 推移 移る, 移り変わり 移す	
萎	<u>イ</u> <u>なえる</u>	<u>萎縮</u> <u>萎える</u>	
偉	イ えらい	偉大, 偉人, 偉観 偉い, 偉ぶる	
椅	<u>イ</u>	<u>椅子</u>	
彙	<u>イ</u>	<u>語彙</u>	* [(23)ページ【剝】参照]
意	イ	意見, 意味, 決意	意気地 (いくじ)
違	イ ちがう ちがえる	違反, 違法, 相違 違う, 違い, 間違う 違える, 見違える, 間違える	
維	イ	維持, 維新, 繊維	
慰	イ	慰安, 慰問, 慰労	

遺
緯
域
育

一

壹 (壹)

逸 (逸)

茨

芋

引

印

因

咽

姻

員

院

淫

なぐさめる
なぐさむ

イ
ユイ

イ

イキ

イク
そだつ
そだてる
はぐくむ

イチ
イツ
ひと
ひとつ

イチ

イツ

いばら

いも

イン
ひく
ひける

イン
しるし

イン
よる

イン

イン

イン

イン

イン
みだら

慰める, 慰め
慰む, 慰み

遺棄, 遺産, 遺失
遺言

緯度, 北緯, 経緯

域内, 地域, 区域

育児, 教育, 発育
育つ, 育ち
育てる, 育て親
育む

一度, 一座, 第一
一般, 同一, 統一
一息, 一筋, 一月目
一つ

壹万円

逸話, 逸品, 逸する

芋, 里芋, 焼き芋

引力, 引退, 索引
引く, 字引
引ける

印刷, 印象, 調印
印, 目印, 矢印

因果, 原因, 要因
因る, ……に因る

咽喉

姻族, 婚姻

満員, 定員, 社員

院内, 議院, 病院

淫欲, 淫乱
淫らだ

「遺言」は、「イゴン」とも。

一日 (ついたち)
一人 (ひとり)

茨城県

⇔ 弾く

* [(22)ページ参照]

陰

イン
かげ
かげる

陰気, 陰性, 光陰
陰, 日陰
陰る, 陰り

⇨ 影

飲

イン
のむ

飲料, 飲食, 痛飲
飲む, 飲み水

隠 (隠)

イン
かくす
かくれる

隠居, 隠忍, 隠語
隠す
隠れる, 雲隠れ

韻

イン

韻律, 韻文, 音韻

右

ウ
ユウ
みぎ

右岸, 右折, 右派
左右, 座右
右, 右手

宇

ウ

宇宙, 気宇, 堂宇

羽

ウ
は
はね

羽毛, 羽化, 羽翼
白羽の矢, 一羽(わ),
三羽(ば), 六羽(ば)
羽, 羽飾り

「羽(は)」は, 前に来る音によって「わ」,
「ば」, 「ぼ」になる。

雨

ウ
あめ
あま

雨量, 降雨, 梅雨
雨, 大雨
雨雲, 雨戸, 雨具

五月雨 (さみだれ)
時雨 (しぐれ)
梅雨 (つゆ)

「春雨」, 「小雨」, 「霧雨」などは, 「はるさ
め」, 「こさめ」, 「きりさめ」。

唄

うた

小唄, 長唄

⇨ 歌

鬱

ウツ

憂鬱

畝

うね

畝, 畝間, 畝織

浦

うら

浦, 津々浦々

運

ウン
はこぶ

運動, 運命, 海運
運ぶ

雲

ウン
くも

雲海, 風雲, 積乱雲
雲, 雲隠れ

永

エイ
ながい

永続, 永久, 永遠
永い, 日永

⇨ 長い

泳

エイ
およぐ

泳法, 水泳, 背泳
泳ぐ, 泳ぎ

英	エイ	英雄, 英断, 俊英	
映	エイ うつる うつす はえる	映画, 上映, 反映 映る, 映り 映す 映える, 夕映え	⇨ 写る ⇨ 写す ⇨ 栄える
榮 (榮)	エイ さかえる はえ はえる	栄枯, 栄養, 繁栄 栄える, 栄え 栄えある, 見栄え, 出来栄え 栄える	⇨ 映え ⇨ 映える
營 (營)	エイ いとなむ	営業, 経営, 陣営 営む, 営み	
詠	エイ よむ	詠嘆, 詠草, 朗詠 詠む	⇨ 読む
影	エイ かげ	影響, 陰影, 撮影 影, 影絵, 人影	⇨ 陰
銳	エイ するどい	銳利, 銳敏, 精銳 銳い, 銳さ	
衛 (衛)	エイ	衛生, 護衛, 守衛	
易	エキ イ やさしい	易者, 貿易, 不易 容易, 安易, 難易 易しい, 易しさ	
疫	エキ ヤク	疫病, 悪疫, 防疫 疫病神	
益	エキ ヤク	有益, 利益, 益する 御利益	
液	エキ	液体, 液状, 血液	
駅 (驛)	エキ	駅長, 駅伝, 貨物駅	
悦	エツ	悦楽, 喜悦	
越	エツ こす こえる	越境, 超越, 優越 越す, 年越し 越える, 山越え	⇨ 超す ⇨ 超える
謁 (謁)	エツ	謁見, 拝謁, 謁する	

閱	エツ	閱覽, 閱歴, 校閱	
円 (圓)	エン まるい	円卓, 円熟, 一円 円い, 円さ, 円み	⇨ 丸い
延	エン のびる のべる のばす	延長, 延期, 遅延 延びる 延べる, 延べ 延ばす	⇨ 伸びる ⇨ 伸べる ⇨ 伸ばす
沿	エン そう	沿海, 沿線, 沿革 沿う, 川沿い	⇨ 添う
炎	エン ほのお	炎上, 炎天, 火炎 炎	
宴	エン	宴会, 宴席, 酒宴	
怨	エン オン	怨恨 怨念	
媛	エン	才媛	愛媛 (えひめ) 県
援	エン	援助, 応援, 声援	
園	エン その	園芸, 公園, 楽園 学びの園, 花園	
煙	エン けむる けむり けむい	煙突, 煙霧, 喫煙 煙る 煙 煙い, 煙たい, 煙たがる	
猿	エン さる	野猿, 類人猿, 犬猿の仲 猿	
遠	エン オン とおい	遠近, 永遠, 敬遠 久遠 遠い, 遠出, 遠ざかる	
鉛	エン なまり	鉛筆, 皿鉛, 黒鉛 鉛, 鉛色	
塩 (鹽)	エン しお	塩分, 塩酸, 食塩 塩, 塩辛い	
演	エン	演技, 演奏, 講演	

縁 (縁)	エン ふち	縁故, 縁日, 血縁 縁, 縁取り, 額縁	「因縁」は、「インネン」。
艶 (艶)	エン つや	妖艶 艶, 色艶	
汚	オ けがす けがれる けがらわしい よごす よごれる きたない	汚点, 汚物, 汚名 汚す 汚れる, 汚れ 汚らわしい 汚す, 口汚し 汚れる, 汚れ, 汚れ物 汚い, 汚らしい	
王	オウ	王子, 帝王	「親王」, 「勤王」などは, 「シンノウ」, 「キンノウ」。
凹	オウ	凹凸, 凹面鏡, 凹レンズ	凸凹 (でこぼこ)
央	オウ	中央	
応 (應)	オウ <u>こたえる</u>	応答, 応用, 呼応 <u>応える</u>	「反応」, 「順応」などは, 「ハンノウ」, 「ジュンノウ」。 ⇨ <u>答える</u>
往	オウ	往復, 往来, 既往症	
押	オウ おす おさえる	押収, 押印, 押韻 押す, 押し 押さえる, 押さえ	⇨ 推す ⇨ 抑える
旺	オウ	旺盛	
欧 (歐)	オウ	欧文, 西欧, 渡欧	
殴 (殴)	オウ なぐる	殴打 殴る	
桜 (櫻)	オウ さくら	桜花, 観桜 桜, 桜色, 葉桜	
翁	オウ	老翁	
奥 (奥)	オウ おく	奥義, 深奥 奥, 奥底, 奥さん	「奥義」は, 「おくギ」とも。
横 (横)	オウ よこ	横断, 横領, 専横 横, 横顔, 横たわる	

岡屋	<p>おか</p> <p>オク や</p>	<p>屋上, 屋外, 家屋 屋根, 花屋, 楽屋</p>	<p>岡山県, 静岡県, 福岡県</p> <p>母屋 (おもや) 部屋 (へや) ⇨ 家</p>
億憶臆	<p>オク オク オク</p>	<p>億万, 一億 記憶, 追憶 臆説, 臆測, 臆病</p>	<p>「臆説」, 「臆測」は, 「憶説」, 「憶測」とも書く。</p>
虞乙俺卸	<p>おそれ オツ おれ おろす おろし</p>	<p>虞 乙種, 甲乙 俺 卸す 卸, 卸商</p>	<p>乙女 (おとめ) ⇨ 下ろす, 降ろす</p>
音	<p>オン イン おと ね</p>	<p>音楽, 発音, 騒音 福音, 母音 音, 物音 音, 音色</p>	<p>「観音」は, 「カンノン」。</p>
恩温 (温)	<p>オン オン あたたか あたたかい あたたまる あたためる</p>	<p>恩情, 恩人, 謝恩 温暖, 温厚, 气温 温かだ 温かい 温まる 温める</p>	<p>⇨ 暖か ⇨ 暖かい ⇨ 暖まる ⇨ 暖める</p>
穩 (穩)	<p>オン おだやか</p>	<p>穩和, 穩当, 平穩 穩やかだ</p>	<p>「安穩」は, 「アンボン」。</p>
下	<p>カ ゲ した しも もと さげる さがる くだる くだす</p>	<p>下流, 下降, 落下 下水, 下車, 上下 下, 下見 下, 川下 下, 足下 下げる 下がる 下る, 下り 下す</p>	<p>下手 (へた) ⇨ 元, 本, 基 ⇨ 提げる</p>

	くださる おろす おりる	下さる 下ろす, 書き下ろす 下りる	⇨ 卸す, 降ろす ⇨ 降りる
化	カ ケ ばける ばかす	化石, 化学, 文化 化粧, 化身, 権化 化ける, お化け 化かす	
火	カ ひ ほ	火災, 灯火, 発火 火, 火花, 炭火 火影	⇨ 灯
加	カ くわえる くわわる	加入, 加減, 追加 加える 加わる	
可	カ	可否, 可能, 許可	
仮 (假)	カ ケ かり	仮面, 仮定, 仮装 仮病 仮の住まい, 仮に, 仮処分	仮名 (かな)
何	カ なに なん	幾何学 何, 何者, 何事 何本, 何十, 何点	
花	カ はな	花卉, 花壇, 落花 花, 花火, 草花	⇨ 華
佳	カ	佳作, 佳人, 絶佳	
価 (價)	カ あたい	価値, 価格, 評価 価	⇨ 値
果	カ はたす はてる はて	果実, 果斷, 結果 果たす, 果たして [副] 果てる 果て	果物 (くだもの)
河	カ かわ	河川, 河口, 運河 河	河岸 (かし) 河原 (かわら) ⇨ 川
苛	カ	苛酷, 苛烈	
科	カ	科学, 教科, 罪科	

架	カ かける かかる	架橋, 架空, 書架 架ける 架かる	⇨ 掛ける, 懸ける, 賭ける ⇨ 掛かる, 懸かる
夏	カ ゲ なつ	夏季, 初夏, 盛夏 夏至 夏, 夏服, 真夏	
家	カ ケ いえ や	家屋, 家庭, 作家 家来, 本家, 分家 家, 家柄, 家元 家主, 借家	母家 (おもや) ⇨ 屋
荷	カ に	出荷, 入荷 荷, 荷物, 初荷	
華	カ ケ はな	華美, 繁華, 栄華 香華, 散華 華やかだ, 華やぐ, 華々しい	⇨ 花
菓	カ	菓子, 製菓, 茶菓	
貨	カ	貨物, 貨幣, 通貨	
渦	カ うず	渦中 渦, 渦潮, 渦巻く	
過	カ すぎる すごす あやまつ あやまち	過度, 過失, 通過 過ぎる, 昼過ぎ 過ごす 過つ 過ち	
嫁	カ よめ とつぐ	再嫁, 転嫁, 嫁する 嫁, 花嫁 嫁ぐ, 嫁ぎ先	
暇	カ ひま	余暇, 休暇, 寸暇 暇, 暇な時	
禍 (禍)	カ	禍福, 禍根, 災禍	
靴	カ くつ	製靴 靴, 靴下, 革靴	
寡	カ	寡黙, 寡婦, 多寡	

歌	カ うた うたう	歌曲, 唱歌, 短歌 歌 歌う	⇒ 唄 ⇒ 謡う
筒	カ	筒条, 箇所	
稼	カ かせぐ	稼業, 稼働 稼ぐ, 稼ぎ	
課	カ	課, 日課, 課する	
蚊	か	蚊, 蚊柱, やぶ蚊	蚊帳 (かや)
牙	<u>ガ</u> <u>ゲ</u> <u>きば</u>	<u>牙城</u> , <u>齒牙</u> <u>象牙</u> <u>牙</u>	
瓦	<u>ガ</u> <u>かわら</u>	<u>瓦解</u> <u>瓦</u> , <u>瓦屋根</u>	
我	ガ われ わ	我流, 彼我, 自我 我, 我々, 我ら 我が国	
画 (畫)	ガ カク	画家, 図画, 映画 画期的, 計画, 区画	
芽	ガ め	発芽, 麦芽, 肉芽 芽, 芽生える, 新芽	
賀	ガ	賀状, 祝賀, 賀する	
雅	ガ	雅趣, 優雅, 風雅	
餓	ガ	餓死, 餓鬼, 飢餓	
介	カイ	介入, 紹介, 介する	
回	カイ エ まわる まわす	回答, 転回, 次回 回向 回る, 回り, 回り道 回す, 手回し	⇒ 周り
灰	カイ はい	灰白色, 石灰 灰, 灰色, 火山灰	
会 (會)	カイ エ	会話, 会計, 社会 会釈, 会得, 法会	

	あう	会う	⇨ 合う, 遭う
快	カイ こころよい	快活, 快晴, 明快 快い	
戒	カイ いましめる	戒心, 戒律, 警戒 戒める, 戒め	
改	カイ あらためる あらたまる	改造, 改革, 更改 改める, 改めて〔副〕 改まる	
怪	カイ あやしい あやしむ	怪談, 怪物, 奇怪 怪しい, 怪しげだ 怪しむ	⇨ 妖しい
拐	カイ	拐帯, 誘拐	
悔 (悔)	カイ くいる くやむ くやしい	悔恨, 後悔 悔いる, 悔い 悔やむ, お悔やみ 悔しい, 悔しがる	
海 (海)	カイ うみ	海岸, 海水浴, 航海 海, 海鳴り	海女・海士 (あま) 海原 (うなばら)
界	カイ	境界, 限界, 世界	
皆	カイ みな	皆無, 皆勤, 皆出席 皆, 皆さん	
械	カイ	機械	
絵 (繪)	カイ エ	絵画 絵本, 絵図, 口絵	
開	カイ ひらく ひらける あく あける	開始, 開拓, 展開 開く, 川開き 開ける 開く 開ける, 開けたて	⇨ 空く, 明く ⇨ 空ける, 明ける
階	カイ	階段, 階級, 地階	
塊	カイ かたまり	塊状, 山塊 塊	
楷	カイ	楷書	

解	カイ ゲ とく とかす とける	解決, 解禁, 理解 解脱, 解熱剤, 解毒剤 解く 解かす 解ける	⇨ 溶く ⇨ 溶かす ⇨ 溶ける
潰	カイ つぶす つぶれる	潰瘍 潰す 潰れる	
壊 (壊)	カイ こわす こわれる	壊滅, 破壊, 決壊 壊す 壊れる	
懐 (懐)	カイ ふところ なつかしい なつかしむ なつく なつける	懐中, 懐古, 述懐 懐, 懐手, 内懐 懐かしい 懐かしむ 懐く 懐ける	
諧	カイ	俳諧	
貝	かい	貝, 貝細工, ほら貝	
外	ガイ ゲ そと ほか はずす はずれる	外出, 海外, 除外 外科, 外題, 外道 外, 外囲い 外, その外 外す, 踏み外す 外れる, 町外れ	⇨ 他
効	ガイ	弾効	
害	ガイ	害悪, 被害, 損害	
崖	ガイ がけ	断崖 崖下	
涯	ガイ	生涯	
街	ガイ カイ まち	街頭, 市街, 商店街 街道 街, 街角	⇨ 町
慨 (慨)	ガイ	慨嘆, 憤慨, 感慨	

蓋	ガイ ふた	頭蓋骨 蓋, 火蓋	
該	ガイ	該当, 該博, 当該	
概 (概)	ガイ	概念, 大概, 概して	
骸	ガイ	形骸化, 死骸	
垣	かき	垣, 垣根	
柿	かき	柿	
各	カク おのおの	各自, 各種, 各位 各	「各々」とも書く。
角	カク かど つの	角度, 三角, 頭角 角, 街角, 四つ角 角, 角笛	
拡 (擴)	カク	拡大, 拡張, 拡声器	
革	カク かわ	革新, 改革, 皮革 革, 革靴	⇔ 皮
格	カク コウ	格式, 規格, 性格 格子	
核	カク	核心, 核反応, 結核	
殼 (殻)	カク から	甲殼, 地殼 殼, 貝殼	
郭	カク	城郭, 外郭, 輪郭	
覺 (覺)	カク おぼえる さます さめる	覚悟, 知覚, 発覚 覚える, 覚え 覚ます, 目覚まし 覚める, 目覚め	
較	カク	比較	
隔	カク へだてる へだたる	隔離, 隔月, 間隔 隔てる, 隔て 隔たる, 隔たり	
閣	カク	閣議, 閣僚, 内閣	

確	カク たしか たしかめる	確定, 確認, 正確 確かだ, 確かさ 確かめる	
獲	カク える	獲得, 捕獲, 漁獲高 獲る, 獲物	⇨ 得る
嚇	カク	威嚇	
穫	カク	収穫	
学 (學)	ガク まなぶ	学習, 科学, 大学 学ぶ	
岳 (嶽)	ガク たけ	岳父, 山岳 〇〇岳	
楽 (樂)	ガク ラク たのしい たのしむ	楽隊, 楽器, 音楽 楽園, 快楽, 娯楽 楽しい, 楽しさ, 楽しげだ 楽しむ	神楽 (かぐら)
額	ガク ひたい	額縁, 金額, 前額部 額	
顎	ガク あご	顎関節 顎	
掛	かける かかる かかり	掛ける 掛かる 掛	⇨ 懸ける, 架ける, 賭ける ⇨ 係る, 懸かる, 架かる ⇨ 係
瀉	かた	干瀉, 〇〇瀉	
括	カツ	括弧, 一括, 包括	
活	カツ	活動, 活力, 生活	
喝 (喝)	カツ	喝破, 一喝, 恐喝	
渴 (渴)	カツ かわく	渴望, 渴水 渴く, 渴き	⇨ 乾く
割	カツ わる わり われる さく	割愛, 割拠, 分割 割る 割がいい, 割合, 割に, 五割 割れる, ひび割れ 割く	⇨ 裂く

葛	カツ くず	葛藤 葛, 葛湯	* [(22)ページ参照]
滑	カツ コツ すべる なめらか	滑走, 滑降, 円滑 滑稽 滑る, 滑り 滑らかだ	
褐 (褐)	カツ	褐色, 茶褐色	
轄	カツ	管轄, 所轄, 直轄	
且	かつ	且つ	
株	かぶ	株, 株式	
釜	かま	釜	
鎌	かま	鎌, 鎌倉時代	
刈	かる	刈る, 刈り入れ	
干	カン ほす ひる	干渉, 干潮, 若干 干す, 干し物 干上がる, 干物, 潮干狩り	
刊	カン	刊行, 発刊, 週刊	
甘	カン あまい あまえる あまやかす	甘言, 甘受, 甘味料 甘い, 甘み 甘える 甘やかす	
汗	カン あせ	汗顔, 発汗 汗, 汗ばむ	
缶 (罐)	カン	缶, 缶詰, 製缶	
完	カン	完全, 完成, 未完	
肝	カン きも	肝臓, 肝胆, 肝要 肝, 肝っ玉	
官	カン	官庁, 官能, 教官	
冠	カン かんむり	冠詞, 王冠, 栄冠 冠	

卷 (卷)	カン まく まき	巻頭, 圧巻, 一卷 巻く, 巻き貝 巻の一	
看	カン	看護, 看破, 看板	
陷 (陷)	カン おちいる おとしいれる	陥落, 陥没, 欠陥 陥る 陥れる	
乾	カン かわく かわかす	乾燥, 乾杯, 乾電池 乾く 乾かす	⇨ 渴く
勘	カン	勘弁, 勘当	
患	カン わずらう	患者, 疾患 患う, 長患い	⇨ 煩う
貫	カン つらぬく	貫通, 縦貫, 尺貫法 貫く	
寒	カン さむい	寒暑, 寒村, 厳寒 寒い, 寒がる, 寒空	
喚	カン	喚問, 召喚, 叫喚	
堪	カン たえる	堪忍, 堪能 堪える	「堪能」は、「タンノウ」とも。 ⇨ 耐える
換	カン かえる かわる	換気, 換算, 交換 換える 換わる	⇨ 代える, 替える, 変える ⇨ 代わる, 替わる, 変わる
敢	カン	敢然, 果敢, 勇敢	
棺	カン	棺おけ, 石棺, 出棺	
款	カン	定款, 借款, 落款	
間	カン ケン あいだ ま	間隔, 中間, 時間 世間, 人間 間, 間柄 間, 間違う, 客間	
閑	カン	閑静, 閑却, 繁閑	
勸 (勸)	カン	勧誘, 勧奨, 勧告	

	すすめる	勧める, 勧め	⇨ 進める, 薦める
寛 (寛)	カン	寛大, 寛容, 寛厳	
幹	カン みき	幹線, 幹事, 根幹 幹	
感	カン	感心, 感覺, 直感	
漢 (漢)	カン	漢字, 漢語, 門外漢	
慣	カン なれる ならす	慣例, 慣性, 習慣 慣れる, 慣れ 慣らす	
管	カン くだ	管理, 管制, 鉄管 管	
関 (關)	カン せき <u>かかわる</u>	関節, 関係, 関する 関, 関取, 関の山 <u>関わる, 関わり</u>	
歡 (歡)	カン	歡迎, 歡声, 交歡	
監	カン	監視, 監督, 總監	
緩	カン ゆるい ゆるやか ゆるむ ゆるめる	緩和, 緩慢, 緩急 緩い 緩やかだ 緩む, 緩み 緩める	
憾	カン	遺憾	
還	カン	還元, 生還, 返還	
館	カン <u>やかた</u>	館内, 旅館, 図書館 館	
環	カン	環状, 環境, 循環	
簡	カン	簡単, 簡易, 書簡	
観 (觀)	カン	観察, 客観, 壯観	
韓	<u>カン</u>	<u>韓国</u>	
艦	カン	艦船, 艦隊, 軍艦	

鑑	カン かんがみる	鑑賞, 鑑定, 年鑑 鑑みる	
丸	ガン まる まるい まるめる	丸薬, 弾丸, 砲丸 丸, 丸太, 丸洗い 丸い, 丸み, 丸さ 丸める	⇒ 円い
含	ガン ふくむ ふくめる	含有, 含蓄, 包含 含む, 含み 含める	
岸	ガン きし	岸壁, 対岸, 彼岸 岸, 向こう岸	河岸 (かし)
岩	ガン いわ	岩石, 岩塩, 火成岩 岩, 岩場	
玩	ガン	玩具, 愛玩	
眼	ガン ゲン まなこ	眼球, 眼力, 主眼 開眼 眼, どんぐり眼, 血眼	眼鏡 (めがね)
頑	ガン	頑強, 頑健, 頑固	
顔	ガン かお	顔面, 童顔, 厚顔 顔, 横顔, したり顔	笑顔 (えがお)
願	ガン ねがう	願望, 祈願, 志願 願う, 願い, 願わしい	
企	キ くわだてる	企画, 企図, 企業 企てる, 企て	
伎	キ	歌舞伎	
危	キ あぶない あやうい あやぶむ	危険, 危害, 安危 危ない, 危ながる 危うい, 危うく 危ぶむ	
机	キ つくえ	机上, 机辺 机	
気 (氣)	キ ケ	気体, 気候, 元氣 気配, 気色ばむ, 火の気	意気地 (いくじ) 浮気 (うわき)

岐
希
忌

キ
キ
キ
いむ
いまわしい

岐路, 分岐, 多岐
希望, 希少, 希薄
忌避, 忌中, 禁忌
忌む
忌まわしい

岐阜 (ぎふ) 県

汽
奇
祈 (祈)

キ
キ
キ
いのる

汽車, 汽船, 汽笛
奇襲, 奇数, 珍奇
祈願, 祈念
祈る, 祈り

数奇屋 (すきや)

季
紀
軌

キ
キ
キ

季節, 四季, 雨季
紀行, 紀元, 風紀
軌道, 広軌, 常軌

既 (既)

キ
すでに

既成, 既婚, 既往症
既に

記

キ
しるす

記入, 記号, 伝記
記す

起

キ
おきる
おこる
おこす

起立, 起源, 奮起
起きる, 早起き
起こる
起こす

⇨ 興る

⇨ 興す

飢

キ
うえる

飢餓
飢える, 飢え

鬼

キ
おに

鬼神, 鬼才, 餓鬼
鬼, 鬼ごっこ, 赤鬼

帰 (歸)

キ
かえる
かえす

帰還, 帰納, 復帰
帰る, 帰り
帰す

⇨ 返る

⇨ 返す

基

キ
もと
もとい

基礎, 基準, 基地
基, 基づく
基

⇨ 下, 元, 本

寄

キ
よる

寄宿, 寄贈, 寄港
寄る, 近寄る, 身寄り

数寄屋 (すきや)

最寄り (もより)

規	よせる	寄せる, 人寄せ	寄席 (よせ)
龜 (龜)	キ	規則, 規律, 定規	
	キ	<u>龜裂</u>	
	<u>かめ</u>	<u>龜</u>	
喜	キ	喜劇, 悲喜, 歡喜	
	よろこぶ	喜ぶ, 喜び, 喜ばしい	
幾	キ	幾何学	
	いく	幾つ, 幾ら, 幾日	
揮	キ	揮発油, 指揮, 発揮	
期	キ	期間, 期待, 予期	
	ゴ	最期, この期に及んで	
棋	キ	棋士, 棋譜, 将棋	
貴	キ	貴重, 貴下, 騰貴	
	たつとい	貴い	⇨ 尊い
	とうとい	貴い	⇨ 尊い
	たつとぶ	貴ぶ	⇨ 尊ぶ
	とうとぶ	貴ぶ	⇨ 尊ぶ
棄	キ	棄権, 放棄, 遺棄	
毀	キ	<u>毀損</u> , <u>毀誉</u>	
旗	キ	旗手, 旗艦, 国旗	
	はた	旗, 旗色, 手旗	
器 (器)	キ	器量, 器用, 陶器	
	うつわ	器	
畿	キ	<u>畿内</u> , <u>近畿</u>	
輝	キ	輝石, 光輝	
	かがやく	輝く, 輝き, 輝かしい	
機	キ	機械, 機会, 危機	
	はた	機, 機織り	
騎	キ	騎士, 騎馬, 一騎当千	
技	ギ	技術, 技師, 特技	
	わざ	技	⇨ 業

宜	ギ	適宜, 便宜
偽 (偽)	ギ いつわる にせ	偽名, 真偽, 虚偽 偽る, 偽り 偽, 偽物, 偽札
欺	ギ あざむく	詐欺 欺く
義	ギ	義理, 意義, 正義
疑	ギ うたがう	疑念, 疑問, 容疑 疑う, 疑い, 疑わしい
儀	ギ	儀式, 威儀, 地球儀
戯 (戯)	ギ たわむれる	戯曲, 遊戯, 児戯 戯れる, 戯れ
擬	ギ	擬音, 擬人法, 模擬
犠 (犠)	ギ	犠牲, 犠打
議	ギ	議論, 会議, 異議
菊	キク	菊, 菊花, 白菊
吉	キチ キツ	吉日, 吉例, 大吉 吉報, 不吉
喫	キツ	喫煙, 満喫, 喫する
詰	キツ つめる つまる つむ	詰問, 難詰, 面詰 詰める, 詰め物 詰まる, 行き詰まる 詰む, 詰み
却	キヤク	却下, 退却, 売却
客	キヤク カク	客間, 客車, 乗客 客死, 主客, 旅客
脚	キヤク キャ あし	脚部, 脚本, 三脚 脚立, 行脚 脚, 机の脚
逆	ギャク さか	逆上, 逆転, 順逆 逆立つ, 逆さ, 逆さま

「吉日」は、「キツジツ」とも。

⇔ 足

虐

さからう

逆らう

ギャク
しいたげる

虐待, 虐殺, 残虐
虐げる

九

キュウ
ク
ここの
ここのつ

九百, 三拜九拜
九分九厘, 九月
九日, 九重
九つ

久

キュウ
ク
ひさしい

永久, 持久, 耐久
久遠
久しい, 久々

及

キュウ
およぶ
および
およぼす

及第, 追及, 普及
及ぶ, 及び腰
及び〔接〕
及ぼす

弓

キュウ
ゆみ

弓道, 弓状, 洋弓
弓, 弓矢

丘

キュウ
おか

丘陵, 砂丘
丘

旧 (舊)

キュウ

旧道, 新旧, 復旧

休

キュウ
やすむ
やすまる
やすめる

休止, 休憩, 定休
休む, 休み
休まる
休める, 気休め

吸

キュウ
すう

吸取, 吸入, 呼吸
吸う

朽

キュウ
くちる

不朽, 老朽, 腐朽
朽ちる

白

キュウ
うす

白歯, 脱白
石白

求

キュウ
もとめる

求職, 要求, 追求
求める, 求め

究

キュウ
きわめる

究明, 研究, 学究
究める

泣

キュウ

号泣, 感泣

⇨ 窮める, 極める

急

なく 泣く, 泣き沈む

級

キユウ 急速, 急務, 緊急
いそぐ 急ぐ, 急ぎ

糾

キユウ 等級, 上級, 階級

宮

キユウ 糾弾, 紛糾

キユウ 宮殿, 宮廷, 離宮
グウ 官司, 神宮, 東宮

ク 宮, 宮様
みや

「宮内庁」などと使う。

救

キユウ 救助, 救援, 救急
すくう 救う, 救い

球

キユウ 球形, 球技, 地球
たま 球

⇨ 玉, 弾

給

キユウ 給水, 配給, 月給

嗅

キユウ 嗅覚
かぐ 嗅ぐ

* [(22) ページ参照]

窮

キユウ 窮極, 窮屈, 困窮
きわめる 窮める
きわまる 窮まる

⇨ 究める, 極める
⇨ 極まる

牛

ギユウ 牛馬, 牛乳, 闘牛
うし 牛

去

キョ 去年, 去就, 除去
コ 過去
さる 去る, 去る〇日

巨

キョ 巨大, 巨匠, 巨万

居

キョ 居住, 居室, 住居
いる 居る, 芝居

居士 (こじ)

拒

キョ 拒絶, 拒否
こばむ 拒む

拠 (據)

キョ 拠点, 占拠, 根拠
コ 証拠

拳 (擧)

キョ 拳手, 拳国, 壮拳

	あげる あがる	挙げる, 挙げて [副] 挙がる	⇨ 上げる, 揚げる ⇨ 上がる, 揚がる
虚 (虚)	キョ コ	虚無, 虚偽, 空虚 虚空, 虚無僧	
許	キョ ゆるす	許可, 許諾, 特許 許す, 許し	
距	キョ	距離	
魚	ギョ うお さかな	魚類, 金魚, 鮮魚 魚, 魚市場 魚, 魚屋, 煮魚	雑魚 (ざこ)
御	ギョ ゴ おん	御者, 制御 御飯, 御用, 御殿 御中, 御礼	
漁	ギョ リョウ	漁業, 漁船, 漁村 漁師, 大漁, 不漁	「獵」の字音の転用。
凶	キョウ	凶悪, 凶作, 吉凶	
共	キョウ とも	共同, 共通, 公共 共に, 共々, 共食い	
叫	キョウ さけぶ	叫喚, 絶叫 叫ぶ, 叫び	
狂	キョウ くるう くるおしい	狂気, 狂言, 熱狂 狂う 狂おしい	
京	キョウ ケイ	京風, 上京, 帰京	「京浜」, 「京阪」などと使う。
享	キョウ	享有, 享受, 享楽	
供	キョウ ク そなえる とも	供給, 提供, 自供 供物, 供養 供える, お供え 供, 子供	⇨ 備える
協	キョウ	協力, 協会, 妥協	
況	キョウ	状況, 実況, 概況	

峡 (峽)	キョウ	峡谷, 地峡, 海峡	
挟 (挾)	キョウ はさむ はさまる	挟撃 挟む 挟まる	
狭 (狹)	キョウ せまい せばめる せばまる	狭量, 広狭, 偏狭 狭い, 狭苦しい 狭める 狭まる	
恐	キョウ おそれる おそろしい	恐怖, 恐縮, 恐慌 恐れる, 恐れ, 恐らく 恐ろしい	⇔ 畏れる
恭	キョウ うやうやしい	恭賀, 恭順 恭しい	
胸	キョウ むね むな	胸囲, 胸中, 度胸 胸 胸板, 胸毛, 胸騒ぎ	
脅	キョウ おびやかす おどす おどかす	脅迫, 脅威 脅かす 脅す, 脅し, 脅し文句 脅かす	
強	キョウ ゴウ つよい つよまる つよめる しいる	強弱, 強要, 勉強 強引, 強情, 強盗 強い, 強がる 強まる 強める 強いる, 無理強い	
教	キョウ おしえる おそわる	教育, 教訓, 宗教 教える, 教え 教わる	
郷 (郷)	キョウ ゴウ	郷里, 郷土, 異郷 郷土, 近郷, 在郷	
境	キョウ ケイ さかい	境界, 境地, 逆境 境内 境, 境目	
橋	キョウ はし	橋脚, 鉄橋, 歩道橋 橋, 丸木橋	

矯

キョウ
ためる

矯正, 奇矯
矯める, 矯め直す

鏡

キョウ
かがみ

鏡台, 望遠鏡, 反射鏡
鏡

眼鏡 (めがね)

競

キョウ
ケイ
きそう
せる

競争, 競技, 競泳
競馬, 競輪
競う
競る, 競り合う

響 (響)

キョウ
ひびく

音響, 影響, 交響楽
響く, 響き

驚

キョウ
おどろく
おどろかす

驚異, 驚嘆
驚く, 驚き
驚かす

仰

ギョウ
コウ
あおぐ
おおせ

仰視, 仰天, 仰角
信仰
仰ぐ
仰せ

暁 (曉)

ギョウ
あかつき

暁天, 今暁, 通暁
暁

業

ギョウ
ゴウ
わざ

業績, 職業, 卒業
業病, 罪業, 自業自得
業, 仕業, 早業

⇔ 技

凝

ギョウ
こる
こらす

凝固, 凝結, 凝視
凝る, 凝り性
凝らす

曲

キョク
まがる
まげる

曲線, 曲面, 名曲
曲がる
曲げる

局

キョク

局部, 時局, 結局

極

キョク
ゴク
きわめる
きわまる
きわみ

極限, 終極, 積極的
極上, 極秘, 至極
極める, 極め付き,
極めて [副]
極まる, 極まり
極み

⇔ 究める, 窮める

⇔ 窮まる

玉	ギョク たま	玉座, 玉石, 宝玉 玉, 目玉	⇨ 球, 弾
巾	キン	頭巾, 雑巾	
斤	キン	斤量	
均	キン	均等, 均一, 平均	
近	キン ちかい	近所, 近代, 接近 近い, 近づく, 近道	
金	キン コン かね かな	金属, 金銭, 純金 金色, 金剛力, 黄金 金, 金持ち, 針金 金物, 金具, 金縛り	
菌	キン	細菌, 殺菌, 保菌者	
勤 (勤)	キン ゴン つとめる つとまる	勤務, 勤勉, 出勤 勤行 勤める, 勤め 勤まる	⇨ 努める, 務める ⇨ 務まる
琴	キン こと	琴線, 木琴, 手風琴 琴	
筋	キン すじ	筋肉, 筋骨, 鉄筋 筋, 筋書, 大筋	
僅	キン わずか	僅差 僅かだ	* [(22)ページ参照]
禁	キン	禁止, 禁煙, 嚴禁	
緊	キン	緊張, 緊密, 緊急	
錦	キン にしき	錦秋 錦絵	
謹 (謹)	キン つつしむ	謹慎, 謹賀, 謹呈 謹む, 謹んで [副]	⇨ 慎む
襟	キン えり	襟度, 開襟, 胸襟 襟, 襟首	
吟	ギン	吟味, 詩吟, 苦吟	

銀	ギン	銀貨, 銀行, 水銀	
区 (區)	ク	區別, 区々, 地区	
句	ク	句集, 字句, 節句	
苦	ク	苦心, 苦勞, 辛苦	
	くるしい	苦しい, 苦しがる, 見苦しい	
	くるしむ	苦しむ, 苦しみ	
	くるしめる	苦しめる	
	にがい	苦い, 苦虫, 苦々しい	
	にがる	苦り切る	
驅 (驅)	ク	驅使, 驅逐, 先驅	
	かける	驅ける, 抜け駆け	
	かる	驅る, 驅り立てる	
具	グ	具体的, 具備, 道具	
惧	グ	危惧	* [(23)ページ参照]
愚	グ	愚問, 愚鈍, 暗愚	
	おろか	愚かだ, 愚かしい	
空	クウ	空想, 空港, 上空	
	そら	空, 空色, 青空	
	あく	空く, 空き巣	⇨ 開く, 明く
	あける	空ける	⇨ 開ける, 明ける
	から	空, 空手, 空手形	
偶	グウ	偶然, 偶数, 配偶者	
遇	グウ	境遇, 待遇, 遇する	
隅	グウ	一隅	
	すみ	隅, 片隅	
串	くし	串刺し, 串焼き	
屈	クツ	屈辱, 屈伸, 不屈, 理屈	
掘	クツ	掘削, 発掘, 採掘	
	ほる	掘る	
窟	クツ	巢窟, 洞窟	
熊	くま	熊	

繰	くる	繰る, 繰り返す	
君	クン きみ	君主, 君臨, 諸君 君, 母君	
訓	クン	訓練, 教訓, 音訓	
勲 (勳)	クン	勲功, 勲章, 殊勲	
薫 (薰)	クン かおる	薫風, 薫陶 薫る, 薫り	⇨ 香る
軍	グン	軍隊, 軍備, 空軍	
郡	グン	郡部, 〇〇郡	
群	グン むれる むれ むら	群居, 大群, 抜群 群れる 群れ 群すずめ, 群千鳥, 群がる	
兄	ケイ キョウ あに	兄事, 父兄, 義兄 兄弟 兄	兄 (にい) さん 「兄弟」は、「ケイテイ」と読むこともある。
刑	ケイ	刑罰, 刑法, 処刑	
形	ケイ ギョウ かた かたち	形態, 形成, 図形 形相, 人形 形, 形見, 手形 形	⇨ 型
系	ケイ	系統, 系列, 体系	
徑 (徑)	ケイ	直径, 直情徑行	
莖 (莖)	ケイ くき	球莖, 地下莖 莖, 齒莖	
係	ケイ かかる かかり	係累, 係争, 関係 係る 係, 係員, 庶務係	⇨ 掛かる ⇨ 掛
型	ケイ かた	原型, 模型, 典型 型, 型紙, 血液型	⇨ 形
契	ケイ ちぎる	契約, 契機, 黙契 契る, 契り	

計	ケイ はかる はからう	計算, 計画, 寒暖計 計る 計らう, 計らい	時計 (とけい) ⇨ 測る, 量る, 図る, 謀る
恵 (恵)	ケイ エ めぐむ	恵贈, 恵与, 恩恵 恵方参り, 知恵 恵む, 恵み	
啓	ケイ	啓発, 啓示, 拝啓	
掲 (掲)	ケイ かかげる	掲示, 掲載, 前掲 掲げる	
溪 (溪)	ケイ	溪谷, 溪流, 雪溪	
経 (經)	ケイ キョウ へる	経費, 経済, 経験 经文, お経, 写経 経る	読経 (どきょう)
蛍 (螢)	ケイ ほたる	蛍光灯, 蛍光塗料 蛍	
敬	ケイ うやまう	敬意, 敬服, 尊敬 敬う	
景	ケイ	景気, 風景, 光景	景色 (けしき)
軽 (輕)	ケイ かるい かるやか	軽快, 軽薄, 軽率 軽い, 軽々と, 手軽だ 軽やかだ	
傾	ケイ かたむく かたむける	傾斜, 傾倒, 傾向 傾く, 傾き 傾ける	
携	ケイ たずさえる たずさわる	携帯, 必携, 提携 携える 携わる	
継 (繼)	ケイ つぐ	継続, 継承, 中継 継ぐ, 継ぎ	⇨ 接ぐ, 次ぐ
詣	ケイ もうでる	参詣 詣でる, 初詣	
慶	ケイ	慶弔, 慶祝, 慶賀	
憬	ケイ	憧憬	

稽	ケイ	稽古, 滑稽	* [(23)ページ参照]	
憩	ケイ いこい いこう	休憩 憩い 憩う		
警	ケイ	警告, 警戒, 警察		
鷄 (鶏)	ケイ にわとり	鶏卵, 鶏舎, 養鷄 鶏		
芸 (藝)	ゲイ	芸術, 芸能, 文芸		
迎	ゲイ むかえる	迎合, 歡迎, 送迎 迎える, 出迎え		
鯨	ゲイ くじら	鯨油, 捕鯨 鯨		
隙	ゲキ すき	間隙 隙間		「隙間」は、「透き間」とも書く。
劇	ゲキ	劇薬, 劇場, 演劇		
撃 (撃)	ゲキ うつ	撃退, 攻撃, 打撃 撃つ, 早撃ち		⇔ 打つ, 討つ
激	ゲキ はげしい	激動, 感激, 激する 激しい, 激しさ		
桁	けた	桁違い, 橋桁		
欠 (缺)	ケツ かける かく	欠乏, 欠席, 補欠 欠ける 欠く		
穴	ケツ あな	穴居, 墓穴 穴		
血	ケツ ち	血液, 血統, 鮮血 血, 鼻血		
決	ケツ きめる きまる	決裂, 決意, 解決 決める, 取り決め 決まる, 決まり		
結	ケツ むすぶ	結論, 結婚, 連結 結ぶ, 結び		

	ゆう	結う, 元結	
	ゆわえる	結わえる	
傑	ケツ	傑物, 傑作, 豪傑	
潔	ケツ	潔白, 清潔, 純潔	
	いさぎよい	潔い	
月	ゲツ	月曜, 明月, 歲月	五月 (さつき)
	ガツ	正月, 九月	五月雨 (さみだれ)
	つき	月, 月見, 三日月	
犬	ケン	犬齒, 愛犬, 野犬	
	いぬ	犬	
件	ケン	件数, 事件, 条件	
見	ケン	見学, 見地, 意見	
	みる	見る, 下見	⇒ 診る
	みえる	見える	
	みせる	見せる, 顔見せ	
券	ケン	乗車券, 旅券, 債券	
肩	ケン	肩章, 双肩, 比肩	
	かた	肩	
建	ケン	建築, 建議, 封建的	
	コン	建立	
	たてる	建てる, 建物, 二階建て	⇒ 立てる
	たつ	建つ, 一戸建ち	⇒ 立つ
研 (研)	ケン	研究, 研修	
	とぐ	研ぐ	
県 (縣)	ケン	県庁, 県立, ○○県	
儉 (儉)	ケン	儉約, 節儉, 勤儉	
兼	ケン	兼用, 兼任, 兼職	
	かねる	兼ねる	
劍 (劍)	ケン	劍道, 劍舞, 刀劍	
	つるぎ	劍	
拳	ケン	拳銃, 拳法	
	こぶし	握り拳	
軒	ケン	軒数, 一軒	

健	のき ケン すこやか	軒, 軒先 健康, 健闘, 強健 健やかだ	
險 (險)	ケン けわしい	險悪, 危険, 保険 険しい, 険しさ	
圈 (圈)	ケン	圈内, 圈外, 成層圈	
堅	ケン かたい	堅固, 堅実, 中堅 堅い	⇒ 硬い, 固い
檢 (檢)	ケン	検査, 検討, 点検	
嫌	ケン ゲン きらう いや	嫌悪, 嫌疑 機嫌 嫌う, 嫌い 嫌だ, 嫌がる, 嫌気がさす	
献 (獻)	ケン コン	献上, 献身的, 文献 献立, 一献	
絹	ケン きぬ	絹布, 人絹 絹, 薄絹	
遣	ケン つかう つかわす	遣外, 派遣, 分遣 遣う, 金遣い 遣わす	⇒ 使う
権 (權)	ケン ゴン	権利, 権威, 人權 権化, 権現	
憲	ケン	憲法, 憲章, 官憲	
賢	ケン かしこい	賢人, 賢明, 先賢 賢い	
謙	ケン	謙虚, 謙讓	
鍵	ケン かぎ	鍵盤 鍵, 鍵穴	
繭	ケン まゆ	繭糸 繭, 繭玉	
頭 (顯)	ケン	顯著, 顕彰, 顕微鏡	

験 (験)	ケン ゲン	試験, 経験, 実験 験がある, 靈験	
懸	ケン ケ かける かかる	懸垂, 懸賞, 懸命 懸念, 懸想 懸ける, 命懸け 懸かる	⇨ 掛ける, 架ける, 賭ける ⇨ 掛かる, 架かる
元	ゲン ガン もと	元素, 元氣, 多元 元祖, 元日, 元来 元, 元帳, 家元	⇨ 下, 本, 基
幻	ゲン まぼろし	幻滅, 幻覚, 夢幻 幻	
玄	ゲン	玄米, 玄関, 幽玄	玄人 (くろうと)
言	ゲン ゴン いう こと	言行, 言論, 宣言 言上, 伝言, 無言 言う, 物言い 言葉, 寝言	
弦	ゲン つる	上弦, 正弦 弦	
限	ゲン かぎる	限度, 制限, 期限 限る, 限り	
原	ゲン はら	原因, 原理, 高原 原, 野原, 松原	海原 (うなばら) 河原・川原 (かわら)
現	ゲン あらわれる あらわす	現象, 現在, 表現 現れる, 現れ 現す	⇨ 表れる ⇨ 表す, 著す
舷	ゲン	舷側, 右舷	
減	ゲン へる へらす	減少, 増減, 加減 減る, 目減り 減らす, 人減らし	
源	ゲン みなもと	源泉, 水源, 資源 源	
嚴 (嚴)	ゲン ゴン おごそか	嚴格, 嚴重, 威嚴 莊嚴 嚴かだ	

己

きびしい

厳しい, 厳しさ

コ

自己, 利己

キ

知己, 克己

おのれ

己

戸

コ

戸外, 戸籍, 下戸

と

戸, 雨戸

古

コ

古代, 古典, 太古

ふるい

古い, 古株, 古びる

ふるす

使い古す

呼

コ

呼吸, 呼応, 点呼

よぶ

呼ぶ, 呼び声

固

コ

固定, 固有, 堅固

かためる

固める, 固め

かたまる

固まる, 固まり

かたい

固い, 固さ

固唾 (かたず)

⇨ 堅い, 硬い

孤

コ

孤児, 孤独, 孤立

弧

コ

弧状, 括弧, 円弧

股

コ

股間, 股関節

また

内股, 大股

虎

コ

虎穴, 猛虎

とら

虎

故

コ

故郷, 故意, 事故

ゆえ

故, 故に

枯

コ

枯死, 枯淡, 榮枯

かれる

枯れる, 枯れ木

からす

枯らす, 木枯らし

個

コ

個人, 個性, 一個

庫

コ

倉庫, 文庫, 車庫

ク

庫裏

湖

コ

湖水, 湖沼, 湖畔

みずうみ

湖

雇

コ

雇用, 雇員, 解雇

誇

やとう

雇う、日雇い

鼓

コ

誇示、誇大、誇張

ほこる

誇る、誇り、誇らしい

錮

コ

鼓動、鼓舞、太鼓

つづみ

鼓、小鼓

顧

コ

禁錮

コ

顧慮、顧問、回顧

かえりみる

顧みる

⇨ 省みる

五

ゴ

五穀、五色、五目飯

いつ

五日

いつつ

五つ

五月(さつき)

五月雨(さみだれ)

互

ゴ

互角、互選、相互

たがい

互い、互いに、互い違い

午

ゴ

午前、正午、子午線

呉

ゴ

呉服、呉越同舟

後

ゴ

後刻、前後、午後

コウ

後続、後悔、後輩

のち

後、後添い、後の世

うしろ

後ろ、後ろめたい

あと

後、後味、後回し

おくれる

後れる、後れ毛、気後れ

⇨ 跡、痕

⇨ 遅れる

娛

ゴ

娯楽

悟

ゴ

悟性、覚悟、悔悟

さとる

悟る、悟り

碁

ゴ

碁石、碁盤、囲碁

語

ゴ

語学、新語、国語

かたる

語る、物語

かたらう

語らう、語らい

誤

ゴ

誤解、正誤、錯誤

あやまる

誤る、誤り

護

ゴ

護衛、救護、保護

口

コウ

口述、人口、開口

工
公
勾
孔
功
巧
広(廣)
甲
交
光
向

ク くち	口調, 口伝, 異口同音 口, 口絵, 出口
コウ ク	工場, 加工, 人工 工面, 細工, 大工
コウ おおやけ 公	公平, 公私, 公園 公
<u>コウ</u>	<u>勾配</u> , <u>勾留</u>
コウ	鼻孔, 氣孔
コウ ク	功名, 功績, 成功 功德
コウ たくみ	巧拙, 巧妙, 技巧 巧みな術
コウ ひろい ひろまる ひろめる ひろがる ひろげる	広大, 広言, 広義 広い, 広場, 広々と 広まる 広める 広がる, 広がり 広げる
コウ カン	甲乙, 装甲車 甲板, 甲高い
コウ まじわる まじえる まじる まざる まぜる かう かわす	交通, 交番, 社交 交わる, 交わり 交える 交じる 交ざる 交ぜる, 交ぜ織り 飛び交う 交わす
コウ ひかる ひかり	光線, 栄光, 観光 光る, 光り輝く 光, 稲光
コウ むく むける むかう むこう	向上, 傾向, 趣向 向く, 向き 向ける, 顔向け 向かう, 向かい 向こう, 向こう側

「甲板」は、「コウハン」とも。

- ⇨ 混じる
- ⇨ 混ざる
- ⇨ 混ぜる

后
好

江

考

行

坑
孝
抗
攻

更

効 (効)

幸

拘
肯
侯
厚

コウ	皇后, 皇太后
コウ このむ すく	好意, 好敵手, 良好 好む, 好み, 好ましい 好く, 好き嫌い, 好きな絵
コウ え	江湖 入り江
コウ かんがえる	考慮, 思考, 参考 考える, 考え
コウ ギョウ アン いく ゆく おこなう	行進, 行為, 旅行 行列, 行政, 修行 行脚, 行火 行く 行く, 行く末 行う, 行い
コウ	坑道, 炭坑, 廃坑
コウ	孝行, 孝心, 不孝
コウ	抗争, 抗議, 対抗
コウ せめる	攻守, 攻撃, 専攻 攻める
コウ さら ふける ふかす	更新, 更迭, 変更 更に, 今更 更ける, 夜更け 更かす, 夜更かし
コウ きく	効果, 効力, 時効 効く, 効き目
コウ さいわい さち しあわせ	幸福, 不幸, 行幸 幸い, 幸いな事 幸 幸せ, 幸せな人
コウ	拘束, 拘留, 拘置
コウ	肯定, 首肯
コウ	諸侯, 王侯
コウ	厚情, 厚生, 濃厚

⇨ 逝く
行方 (ゆくえ)
⇨ 逝く

⇨ 利く

恒 (恆)

あつい
コウ 厚い, 厚み
恒常, 恒例, 恒久

洪

コウ 洪水, 洪積層

皇

コウ
オウ 皇帝, 皇室, 皇后
法皇

「天皇」は、「テンノウ」。

紅

コウ
ク
ベに
くれない 紅白, 紅茶, 紅葉
真紅, 深紅
紅, 口紅
紅

紅葉 (もみじ)

荒

コウ
あらい
あれる
あらず 荒天, 荒廃, 荒涼
荒い, 荒波, 荒々しい
荒れる, 荒れ地, 大荒れ
荒らす, 倉庫荒らし

⇨ 粗い

郊

コウ 郊外, 近郊

香

コウ
キョウ
か
かおり
かおる 香水, 香気, 線香
香車
香, 色香, 移り香
香り
香る

⇨ 薫り

⇨ 薫る

候

コウ
そうろう 候補, 気候, 測候所
候文, 居候

校

コウ 校閲, 将校, 学校

耕

コウ
たがやす 耕作, 耕地, 農耕
耕す

航

コウ 航海, 航空, 就航

貢

コウ
ク
みつぐ 貢献
年貢
貢ぐ, 貢ぎ物

降

コウ
おりる
おろす
ふる 降雨, 降参, 下降
降りる, 乗り降り
降ろす
降る, 大降り

⇨ 下りる

⇨ 下ろす, 卸す

高

コウ
たかい 高低, 高級, 最高
高い, 高台, 高ぶる

康	たか	高, 売上高	
	たかまる	高まる, 高まり	
	たかめる	高める	
控	コウ	健康, 小康	
	コウ ひかえる	控除, 控訴 控える, 控え	
梗	コウ	<u>心筋梗塞, 脳梗塞</u>	
黄 (黄)	コウ	黄葉	硫黄 (いおう)
	オウ	黄金, 卵黄	
	き こ	黄, 黄色い, 黄ばむ 黄金	
喉	コウ	<u>喉頭, 咽喉</u>	
	<u>のど</u>	<u>喉, 喉元</u>	
慌	コウ	恐慌	
	あわてる	慌てる, 大慌て	
	あわただしい	慌ただしい, 慌ただしさ, 慌ただしげだ	
港	コウ	港湾, 漁港, 出港	
	みなと	港	
硬	コウ	硬度, 硬貨, 生硬	
	かたい	硬い, 硬さ	⇒ 堅い, 固い
絞	コウ	絞殺, 絞首刑	
	しぼる	絞る, 絞り上げる, 絞り	⇒ 搾る
	しめる	絞める	⇒ 締める
	しまる	絞まる	⇒ 締まる
項	コウ	項目, 事項, 条項	
	コウ	下水溝, 排水溝	
溝	みぞ	溝	
鉞 (鑛)	コウ	鉞物, 鉞山, 鉄鉞	
構	コウ	構造, 構内, 結構	
	かまえる	構える, 構え	
	かまう	構う, 構わない	
綱	コウ つな	綱紀, 綱領, 大綱 綱, 横綱	

酵
稿
興

コウ 酵母
コウ 草稿, 原稿, 投稿
コウ 興行, 復興, 振興
キョウ 興味, 興趣, 余興
おこる 興る
おこす 興す

⇨ 起こる
⇨ 起こす

衡
鋼

コウ 均衡, 平衡, 度量衡
コウ 鋼鉄, 鋼材, 製鋼
はがね 鋼

講
購
乞

コウ 講義, 講演, 聴講
コウ 購入, 購買, 購読
こう 乞う, 命乞い

⇨ 請う

号 (號)
合

ゴウ 号令, 号外, 番号
ゴウ 合同, 合計, 結合
ガッ 合併, 合宿, 合点
カッ 合戦
あう 合う, 落ち合う, 試合
あわす 合わす
あわせる 合わせる, 問い合わせる

「合点」は、「ガテン」とも。

⇨ 会う, 遭う

⇨ 併せる

拷
剛
傲

ゴウ 拷問
ゴウ 剛健, 金剛力
ゴウ 傲然, 傲慢

豪
克
告

ゴウ 豪遊, 豪雨, 文豪
コク 克服, 克明, 克己
コク 告示, 告白, 報告
つげる 告げる

谷
刻

コク 幽谷
たに 谷, 谷川
コク 彫刻, 時刻, 深刻
きざむ 刻む, 刻み

国 (國)	コク くに	国際, 国家, 外国 国, 島国	
黒 (黒)	コク くろ くろい	黒板, 漆黒, 暗黒 黒, 真っ黒, 白黒 黒い, 黒さ, 腹黒い	
穀 (穀)	コク	穀物, 雑穀, 脱穀	
酷	コク	酷似, 冷酷, 残酷	
獄	ゴク	獄舎, 地獄, 疑獄	
骨	コツ ほね	骨子, 筋骨, 老骨 骨, 骨折り	
駒	こま	持ち駒	
込	こむ こめる	込む 込める, やり込める	
頃	ころ	頃, 日頃	
今	コン キン いま	今後, 今日, 今朝, 今年, 昨今 今上 今, 今し方	今日 (きょう) 今朝 (けさ) 今年 (ことし)
困	コン こまる	困難, 困窮, 貧困 困る	
昆	コン	昆虫, 昆布	「昆布」は、「コブ」とも。
恨	コン うらむ うらめしい	遺恨, 痛恨, 悔恨 恨む, 恨み 恨めしい	
根	コン ね	根拠, 根気, 平方根 根, 根強い, 屋根	
婚	コン	婚約, 結婚, 新婚	
混	コン まじる まざる まぜる こむ	混合, 混雑, 混迷 混じる, 混じり物 混ざる 混ぜる, 混ぜ物 混む, 混み合う, 人混み	⇨ 交じる ⇨ 交ざる ⇨ 交ぜる 「混み合う」, 「人混み」は, 「込み合う」, 「人込み」とも書く。

痕

コン
あと

痕跡, 血痕
痕, 傷痕

⇨ 跡, 後

紺
魂

コン

紺青, 紺屋, 濃紺

「紺屋」は、「コウヤ」とも。

コン
たましい

魂胆, 靈魂, 商魂
魂, 負けじ魂

壑
懇

コン

開壑

コン
ねんごろ

懇切, 懇親会
懇ろだ

左

サ
ひだり

左右, 左翼, 左遷
左, 左利き

佐

サ

佐幕, 補佐, 大佐

沙

サ

沙汰

査

サ

査察, 調査, 巡査

砂

サ
シャ
すな

砂丘, 砂糖
土砂
砂, 砂場

砂利 (じゃり)

唆

サ
そそのかす

教唆, 示唆
唆す

差

サ
さす

差異, 差別, 誤差
差す

差し支える (さしつかえる)

⇨ 刺す, 指す, 挿す

詐

サ

詐欺, 詐取, 詐称

鎖

サ
くさり

鎖国, 連鎖, 封鎖
鎖

座

ザ
すわる

座席, 座談, 星座
座る, 座り込み

⇨ 据わる

挫

ザ

挫折, 頓挫

才

サイ

才能, 才覚, 秀才

再

サイ
サ
ふたたび

再度, 再選, 再出発
再来年, 再来月, 再来週
再び

災	サイ わざわい	災害, 災難, 火災 災い	
妻	サイ つま	妻子, 夫妻, 良妻 妻, 人妻	
采	サイ	采配, 喝采	
碎 (碎)	サイ くだく くだける	碎石, 碎氷, 粉碎 砕く 砕ける	
宰	サイ	宰領, 宰相, 主宰	
栽	サイ	栽培, 盆栽	
彩	サイ いろどる	彩色, 色彩, 淡彩 彩る, 彩り	
採	サイ とる	採集, 採用, 採光 採る	⇒ 取る, 執る, 捕る
濟 (濟)	サイ すむ すます	返濟, 救濟, 經濟 済む, 使用済み 済ます	
祭	サイ まつる まつり	祭礼, 文化祭 祭る, 祭り上げる 祭り, 秋祭り	
齋 (齋)	サイ	齋場, 潔齋, 書齋	
細	サイ ほそい ほそる こまか こまかい	細心, 詳細, 零細 細い, 細腕, 心細い 細る 細かだ 細かい	
菜	サイ な	菜園, 菜食, 野菜 菜, 青菜	
最	サイ もつとも	最大, 最近, 最先端 最も	最寄り (もより)
裁	サイ たつ さばく	裁縫, 裁判, 体裁 裁つ, 裁ち物 裁く, 裁き	⇒ 断つ, 絶つ

債	サイ	債務, 負債, 公債	
催	サイ もよおす	催眠, 開催, 主催 催す, 催し	
塞	サイ ソク ふさぐ ふさがる	要塞 脳梗塞, 閉塞 塞ぐ 塞がる	
歳	サイ セイ	歳末, 歲月, 二十歳 歳暮	二十歳 (はたち)
載	サイ のせる のる	積載, 掲載, 記載 載せる 載る	⇨ 乗せる ⇨ 乗る
際	サイ きわ	際限, 交際, この際 際, 際立つ, 窓際	
埼	さい		埼玉県
在	ザイ ある	在留, 在宅, 存在 在る, 在りし日	⇨ 有る
材	ザイ	材木, 材料, 人材	
劑 (劑)	ザイ	薬剤師, 錠剤, 消化剤	
財	ザイ サイ	財産, 私財, 文化財 財布	
罪	ザイ つみ	罪状, 犯罪, 謝罪 罪	
崎	さき	〇〇崎	
作	サク サ つくる	作為, 著作, 豊作 作業, 作用, 動作 作る	⇨ 造る, 創る
削	サク けずる	削除, 削減, 添削 削る	
昨	サク	昨日, 昨年, 一昨日	昨日 (きのう)
柵	サク	鉄柵	

索	サク	索引, 思索, 鉄索	
策	サク	策略, 政策, 対策	
酢	サク	酢酸	
	す	酢, 酢の物	
搾	サク	搾取, 圧搾	
	しぼる	搾る	⇨ 絞る
錯	サク	錯誤, 錯覚, 交錯	
咲	さく	咲く, 遅咲き	
冊	サツ	冊子, 別冊	
	サク	短冊	
札	サツ	札入れ, 表札, 入札	
	ふだ	札, 名札	
刷	サツ	刷新, 印刷, 増刷	
	する	刷る	
刹	サツ	古刹, 名刹	
	セツ	刹那	
拶	サツ	挨拶	
殺 (殺)	サツ	殺人, 殺到, 黙殺	
	サイ	相殺	
	セツ	殺生	
	ころす	殺す, 殺し, 見殺し	
察	サツ	察知, 観察, 考察	
撮	サツ	撮影	
	とる	撮る	
擦	サツ	擦過傷, 摩擦	
	する	擦る, 擦り傷	
	すれる	擦れる, 靴擦れ	
雑 (雑)	ザツ	雑談, 雑音, 混雑	雑魚 (ざこ)
	ゾウ	雑炊, 雑木林, 雑兵	
皿	さら	皿, 灰皿	
三	サン	三角, 三流, 再三	三味線 (しゃみせん)

	み みつ みっつ	三日月, 三日 (みっか) 三つ指 三つ	
山	サン やま	山脈, 高山, 登山 山	山車 (だし) 築山 (つきやま)
参 (參)	サン まいる	参加, 参万円, 降参 参る, 寺参り	
棧 (棧)	サン	棧, 棧橋	棧敷 (さじき)
蚕 (蠶)	サン かいこ	蚕糸, 蚕食, 養蚕 蚕	
惨 (慘)	サン ザン みじめ	惨劇, 悲惨, 陰惨 惨死, 惨殺 惨めだ	
産	サン うむ うまれる うぶ	産業, 生産, 出産 産む, 産み月 産まれる 産湯, 産着, 産毛	土産 (みやげ) ⇨ 生む ⇨ 生まれる
傘	サン かさ	傘下, 落下傘 傘, 雨傘, 日傘	
散	サン ちる ちらす ちらかす ちらかる	散歩, 散文, 解散 散る, 散り散りに 散らす 散らかす 散らかる	
算	サン	算数, 計算, 予算	
酸	サン すい	酸味, 酸素, 辛酸 酸い, 酸っぱい	
賛 (贊)	サン	賛成, 賛同, 称赞	
残 (殘)	ザン のこる のこす	残留, 残念, 敗残 残る, 残り 残す, 食べ残し	名残 (なごり)
斬	ザン きる	斬殺, 斬新 斬る	⇨ 切る
暫	ザン	暫時, 暫定	

士
子
支
止
氏
仕
史
司
四
市
矢
旨
死
糸 (絲)

シ 士官, 武士, 紳士

シ
ス
こ 子孫, 女子, 帽子
金子, 扇子, 様子
子, 親子, 年子

シ
ささえる 支持, 支障, 支店
支える, 支え

シ
とまる 止宿, 静止, 中止
とめる 止まる, 行き止まり
止める, 歯止め

シ
うじ 氏名, 姓氏, 某氏
氏, 氏神

シ
ジ
つかえる 仕事, 出仕
給仕
仕える

シ 史学, 歴史, 国史

シ 司会, 司令, 上司

シ
よ 四角, 四季, 四十七士
四人, 四日 (よっか),
四月目
よつ 四つ角
よっつ 四つ
よん 四回, 四階

シ
いち 市民, 市況, 都市
市, 競り市

シ
や 一矢を報いる
矢, 矢印, 矢面

シ
むね 要旨, 趣旨, 本旨
旨

シ
しぬ 死亡, 死角, 必死
死ぬ, 死に絶える

シ
いと 綿糸, 蚕糸, 製糸
糸, 糸目, 毛糸

海士 (あま)
居士 (こじ)
博士 (はかせ)

迷子 (まいご)
息子 (むすこ)

差し支える (さしつかえる)

波止場 (はとば)
⇨ 留まる, 泊まる
⇨ 留める, 泊める

至

シ
いたる至当, 夏至, 冬至
至る, 至って〔副〕

伺

シ
うかがう伺候
伺う, 伺い

志

シ
こころざす
こころざし志望, 有志, 寸志
志す
志

私

シ
わたくし
わたし私立, 私腹, 公私
私, 私する
私

使

シ
つかう使役, 使者, 駆使
使う, 使い

⇨ 遣う

刺

シ
さす
ささる刺激, 名刺, 風刺
刺す, 刺し殺す
刺さる

⇨ 差す, 指す, 挿す

始

シ
はじめる
はじまる始終, 年始, 開始
始める, 始め
始まる, 始まり

⇨ 初め, 初めて

姉

シ
あね姉妹, 諸姉
姉, 姉上

姉(ねえ)さん

枝

シ
えだ枝葉
枝

祉(社)

シ

福祉

肢

シ

肢体, 下肢, 選択肢

姿

シ
すがた姿勢, 容姿, 雄姿
姿

思

シ
おもう思想, 意思, 相思
思う, 思い, 思わしい

指

シ
ゆび
さす指示, 指導, 屈指
指, 指先
指す, 指図, 名指し

⇨ 差す, 刺す, 挿す

施

シ
セ施設, 施政, 実施
施主, 施療, 布施

師	ほどこす	施す, 施し	師走 (しわす)
恣	シ	師匠, 教師, 医師	
紙	シ	<u>恣意的</u>	* [(22)ページ参照]
脂	シ かみ	紙面, 用紙, 新聞紙 紙, 紙くず, 厚紙	
視 (視)	シ あぶら	脂肪, 油脂, 樹脂 脂, 脂ぎる	⇨ 油
紫	シ むらさき	視覚, 視力, 注視	
詞	シ	紫紺, 紫煙, 紫外線 紫, 紫色	
齒 (齒)	シ は	歌詞, 作詞, 品詞	祝詞 (のりと)
嗣	シ	歯科, 乳齒, 義齒 齒, 入れ齒	
試	シ こころみる ためす	嗣子, 嫡嗣	
詩	シ	試験, 試作, 追試 試みる, 試み 試す, 試し	
資	シ	詩情, 詩人, 詩歌	「詩歌」は, 「シイカ」とも。
飼	シ かう	資本, 資格, 物資	
誌	シ	飼育, 飼料 飼う	
雌	シ め めす	誌面, 日誌, 雑誌	
摯	シ	雌雄, 雌伏 雌花, 雌牛, 雌しべ 雌, 雌犬	
賜	シ たまわる	<u>真摯</u>	
諮	シ はかる	賜暇, 下賜, 恩賜 賜る	
		諮問 諮る	

示

ジ 示威, 示談, 指示
 シ 示唆
 しめす 示す, 示し

字

ジ 字画, 文字, 活字
 あざ 字, 大字

寺

ジ 寺院, 社寺, 末寺
 てら 寺, 尼寺

次

ジ 次回, 次元, 目次
 シ 次第
 つぐ 次ぐ, 次いで [副]
 つぎ 次, 次に, 次々と

⇒ 継ぐ

耳

ジ 耳鼻科, 中耳炎
 みみ 耳, 早耳

自

ジ 自分, 自由, 各自
 シ 自然
 みずから 自ら

似

ジ 類似, 酷似, 疑似
 なる 似る, 似顔

児 (兒)

ジ 児童, 幼児, 優良児
 ニ 小児科

稚児 (ちご)
鹿児島 (かごしま) 県

事

ジ 事物, 無事, 師事
 ズ 好事家
 こと 事, 仕事, 出来事

侍

ジ 侍従, 侍女, 侍医
 さむらい 侍

治

ジ 政治, 療治
 チ 治安, 治水, 自治
 おさめる 治める
 おさまる 治まる
 なおる 治る
 なおす 治す

⇒ 修める
 ⇒ 修まる
 ⇒ 直る
 ⇒ 直す

持

ジ 持参, 持続, 支持
 もつ 持つ

時

ジ 時間, 時候, 当時
 とき 時, 時めく, 時々

時雨 (しぐれ)
 時計 (とけい)

滋	ジ	滋味, 滋養	滋賀 (しが) 県	
慈	ジ いつくしむ	慈愛, 慈善, 慈悲 慈しむ, 慈しみ		
辞 (辭)	ジ やめる	辞書, 辞職, 式辞 辞める		
磁	ジ	磁石, 磁気, 陶磁器		
餌 [餌]	ジ えさ え	好餌, 食餌 餌 餌食		[餌] = 許容字体, * [(22)ページ参照]
璽	ジ	御璽, 国璽		
鹿	しか か	鹿 鹿の子		
式	シキ	式典, 形式, 数式		
識	シキ	識別, 意識, 知識		
軸	ジク	軸, 車軸, 地軸		
七	シチ なな ななつ なの	七五三, 七福神 七月目 七つ 七日	七夕 (たなばた) 「七日」は、「なぬか」とも。	
叱	シツ しかる	叱責 叱る		
失	シツ うしなう	失望, 失敗, 消失 失う		
室	シツ むろ	室内, 皇室, 居室 室, 室咲き		
疾	シツ	疾患, 疾走, 悪疾		
執	シツ シュウ とる	執務, 執筆, 確執 執念, 執心, 我執 執る	⇨ 取る, 採る	
湿 (濕)	シツ しめる しめす	湿度, 湿地, 多湿 湿る, 湿り 湿す		

嫉	シツ	嫉妬	
漆	シツ うるし	漆器, 漆黒, 乾漆 漆	
質	シツ シチ チ	質問, 質実, 本質 質屋, 人質 言質	
実(實)	ジツ み みのる	実力, 充実, 実に 実, 実入り 実る, 実り	
芝	しば	芝, 芝居	芝生(しばふ)
写(寫)	シャ うつす うつる	写真, 描写, 映写 写す, 写し 写る, 写り	⇨ 映す ⇨ 映る
社(社)	シャ やしろ	社会, 会社, 神社 社	
車	シャ くるま	車輪, 車庫, 電車 車, 齒車	山車(だし)
舎	シャ	舎監, 校舎, 寄宿舍	田舎(いなか)
者(者)	シャ もの	医者, 前者, 第三者 者, 若者	猛者(もさ)
射	シャ いる	射撃, 発射, 日射病 射る	
捨	シャ すてる	捨象, 取捨, 喜捨 捨てる, 捨て子	
赦	シャ	赦免, 大赦, 恩赦	
斜	シャ ななめ	斜面, 斜線, 傾斜 斜め	
煮(煮)	シャ にる にえる にやす	煮沸 煮る, 雑煮 煮える, 生煮え 業を煮やす	
遮	シャ さえぎる	遮断 遮る	

謝

シャ
あやまる

謝絶, 感謝, 陳謝
謝る, 平謝り

邪

ジャ

邪悪, 邪推, 正邪

風邪 (かぜ)

蛇

ジャ
ダ
へび

蛇の目, 蛇腹, 大蛇
蛇行, 蛇足, 長蛇
蛇

尺

シャク

尺度, 尺貫法

借

シャク
かりる

借用, 借金, 貸借
借りる, 借り

酌

シャク
くむ

酌量, 晩酌
酌む, 酌み交わす

釈 (釋)

シャク

釈明, 釈放, 解釈

爵

シャク

爵位

若

ジャク
ニャク
わか
いかい
もしくは

若年, 若干, 自若
老若
若い, 若者, 若々しい
若しくは

「老若」は、「ロウジャク」とも。
若人 (わこうど)

弱

ジャク
よわ
い
よわ
る
よわ
まる
よわ
める

弱点, 弱小, 強弱
弱い, 弱虫, 足弱
弱る
弱まる
弱める

寂

ジャク
セキ
さび
さび
しい
さび
れる

寂滅, 静寂, 閑寂
寂然, 寂として
寂
寂しい, 寂しがる
寂れる

「寂然」は、「ジャクネン」とも。

手

シュ
て
た

手腕, 挙手, 選手
手, 手柄, 素手
手綱, 手繰る

上手 (じょうず)
下手 (へた)
手伝 (てつだ) う

主

シュ
ス
ぬし
おも

主人, 主権, 施主
法主, 坊主
主, 地主
主な人々

「法主(ホツス)」は、「ホウシュ」, 「ホツシ
ユ」とも。

守	シュ ス まもる もり	守備, 保守, 攻守 留守 守る, 守り お守り, 子守, 灯台守	
朱	シュ	朱肉, 朱筆, 朱塗り	
取	シュ とる	取捨, 取材, 聴取 取る	⇨ 採る, 執る, 捕る
狩	シュ かる かり	狩猟 狩る, 狩り込み 狩り, ぶどう狩り	
首	シュ くび	首尾, 首席, 自首 首, 首飾り	
殊	シュ こと	殊勝, 殊勲, 特殊 殊に, 殊の外, 殊更	
珠	シュ	珠玉, 珠算, 真珠	数珠 (じゆず)
酒	シュ さけ さか	酒宴, 飲酒, 洋酒 酒, 酒好き, 甘酒 酒屋, 酒場, 酒盛り	お神酒 (みき)
腫	シュ <u>はれる</u> <u>はらす</u>	<u>腫瘍</u> <u>腫れる, 腫れ</u> <u>腫らす</u>	
種	シュ たね	種類, 人種, 品種 種, 菜種, 一粒種	
趣	シュ おもむき	趣向, 趣味, 興趣 趣	
寿 (壽)	ジュ ことぶき	寿命, 長寿, 米寿 寿	
受	ジュ うける うかる	受諾, 受験, 甘受 受ける, 受付 受かる	⇨ 請ける
呪	ジュ <u>のろう</u>	<u>呪縛, 呪文</u> <u>呪う</u>	
授	ジュ	授与, 伝授, 教授	

需	さずける	授ける	
	さずかる	授かる	
	ジュ	需要, 需給, 必需品	
儒	ジュ	儒学, 儒教, 儒者	
	ジュ	樹木, 樹立, 街路樹	
樹	ジュ	樹木, 樹立, 街路樹	
	シュウ	収穫, 収入, 回収	
	おさめる おさまる	収める 収まる	⇨ 納める ⇨ 納まる
収 (收)	おさめる	収める	
	おさまる	収まる	
囚	シュウ	囚人, 死刑囚	
	シュウ	州議会, 六大州	
州	す	州, 中州, 三角州	
	シュウ	舟運, 舟艇, 舟航	
舟	ふね	舟, 小舟, 渡し舟	⇨ 船
	ふな	舟遊び, 舟宿, 舟歌	
秀	シュウ	秀逸, 秀才, 優秀	
	ひいでる	秀でる	
周	シュウ	周知, 周囲, 円周	
	まわり	周り	⇨ 回り
宗	シュウ	宗教, 宗派, 改宗	
	ソウ	宗家, 宗匠	
拾	シュウ	拾得, 收拾	
	ジュウ	拾万円	
	ひろう	拾う, 拾い物	
秋	シュウ	秋季, 秋分, 晩秋	
	あき	秋	
臭 (臭)	シュウ	臭気, 悪臭, 俗臭	
	くさい	臭い, 臭み, 臭さ	
	におう	臭う, 臭い	⇨ 匂う
修	シュウ	修飾, 修養, 改修	
	シュ	修行	
	おさめる	修める	⇨ 治める
	おさまる	修まる	⇨ 治まる
袖	シュウ	領袖	

終

そで

袖, 半袖

シュウ
おわる
おえる

終了, 終日, 最終
終わる, 終わり
終える

羞

シュウ

羞恥心

習

シュウ
ならう

習得, 習慣, 練習
習う, 手習い

⇨ 倣う

週

シュウ

週刊, 週末, 毎週

就

シュウ
ジュ
つく
つける

就任, 就寝, 去就
成就
就く
就ける

⇨ 着く, 付く

⇨ 着ける, 付ける

衆

シュウ
シュ

衆寡, 民衆, 聴衆
衆生

集

シュウ
あつまる
あつめる
つどう

集合, 集結, 全集
集まる, 集まり
集める, 人集め
集う, 集い

愁

シュウ
うれえる
うれい

愁傷, 哀愁, 憂愁
愁える
愁い

⇨ 憂える

⇨ 憂い

酬

シュウ

報酬, 応酬

醜

シュウ
みにくい

醜悪, 醜態, 美醜
醜い, 醜さ

蹴

シュウ
ける

一蹴
蹴る, 蹴散らす

襲

シュウ
おそう

襲撃, 襲名, 世襲
襲う

十

ジュウ

十字架, 十文字

ジッ
とお
と

十回
十, 十日
十色, 十重

十重二十重 (とえはたえ)
二十・二十歳 (はたち)
二十日 (はつか)
「ジュツ」とも。

汁	ジュウ しる	果汁, 墨汁 汁, 汁粉	
充	ジュウ あてる	充突, 充電, 補充 充てる	⇨ 当てる, 宛てる
住	ジュウ すむ すまう	住所, 安住, 衣食住 住む 住まう, 住まい	
柔	ジュウ ニュウ やわらか やわらかい	柔軟, 柔道, 懐柔 柔和, 柔弱 柔らかだ 柔らかい	⇨ 軟らか ⇨ 軟らかい
重	ジュウ チョウ え おもい かさねる かさなる	重量, 重大, 二重 重畳, 慎重, 貴重 一重, 八重桜 重い, 重たい 重ねる, 重ね着 重なる	十重二十重 (とえはたえ)
従 (従)	ジュウ ショウ ジュ したがう したがえる	従事, 従順, 服従 従容 従〇位 従う 従える	
渋 (澁)	ジュウ しぶ しぶい しぶる	渋滞, 苦渋 渋, 渋紙 渋い, 渋さ, 渋み 渋る	
銃	ジュウ	銃砲, 銃弾, 小銃	
獣 (獸)	ジュウ けもの	獣類, 猛獣, 鳥獣 獣	
縦 (縦)	ジュウ たて	縦横, 縦断, 操縦 縦	
叔	シュク	伯叔	叔父 (おじ) 叔母 (おば)
祝 (祝)	シュク シュウ いわう	祝賀, 祝日, 慶祝 祝儀, 祝言 祝う	祝詞 (のりと)

宿

シュク
やど
やどる
やどす

宿泊, 宿題, 合宿
宿, 宿屋
宿る, 雨宿り
宿す

淑

シュク

淑女, 貞淑, 私淑

肅 (肅)

シュク

肅清, 静肅, 自肅

縮

シュク
ちぢむ
ちぢまる
ちぢめる
ちぢれる
ちぢらす

縮小, 縮図, 短縮
縮む, 伸び縮み
縮まる
縮める
縮れる, 縮れ毛
縮らす

塾

ジュク

塾, 私塾

熟

ジュク
うれる

熟練, 熟慮, 成熟
熟れる

出

シュツ
スイ
でる
だす

出入, 出現, 提出
出納
出る, 出窓, 遠出
出す

述

ジュツ
のべる

叙述, 陳述, 著述
述べる

術

ジュツ

術策, 技術, 芸術

俊

シュン

俊敏, 俊秀, 俊才

春

シュン
はる

春季, 立春, 青春
春, 春めく

瞬

シュン
またたく

瞬間, 瞬時, 一瞬
瞬く, 瞬き

旬

ジュン
シュン

旬刊, 上旬
旬, 旬の野菜

巡

ジュン
めぐる

巡回, 巡業, 一巡
巡る, 巡り歩く

盾

ジュン
たて

矛盾
盾, 後ろ盾

お巡 (まわ) りさん

准	ジュン	准将, 批准	
殉	ジュン	殉死, 殉職, 殉難	
純	ジュン	純真, 純粹, 不純	
循	ジュン	循環, 因循	
順	ジュン	順序, 順調, 従順	
準	ジュン	準備, 基準, 標準	
潤	ジュン うるおう うるおす うるむ	潤色, 潤沢, 湿润 潤う, 潤い 潤す 潤む	
遵	ジュン	遵守, 遵法	
処 (處)	ショ	処置, 処罰, 処女	
初	ショ はじめ はじめて はつ うい そめる	初期, 初心者, 最初 初め 初めて [副] 初の受賞, 初雪, 初耳 初陣, 初々しい 書き初め, 出初め式	⇨ 始め
所	ショ ところ	所得, 住所, 近所 所, 台所	
書	ショ かく	書画, 書籍, 読書 書く	⇨ 描く
庶	ショ	庶民, 庶務	
暑 (暑)	ショ あつい	暑気, 残暑, 避暑 暑い, 暑さ	⇨ 熱い
署 (署)	ショ	署名, 署長, 警察署	
緒 (緒)	ショ チヨ お	緒戦, 由緒, 端緒 情緒 緒, 鼻緒	「情緒」は、「ジョウショ」とも。
諸 (諸)	ショ	諸君, 諸国, 諸般	
女	ジョ	女子, 女流, 少女	海女 (あま)

	ニョ ニョウ おんな め	女人, 天女, 善男善女 女房 女, 女心, 女らしい 女神, 女々しい	乙女 (おとめ)
如	ジョ ニョ	欠如, 突如, 躍如 如実, 如来, 不如意	
助	ジョ たすける たすかる すけ	助力, 助監督, 救助 助ける, 助け 助かる, 大助かり 助太刀	
序	ジョ	序幕, 順序, 秩序	
叙 (紵)	ジョ	叙述, 叙景, 叙勲	
徐	ジョ	徐行, 徐々に	
除	ジョ ジ のぞく	除外, 除数, 解除 掃除 除く	
小	ショウ ちいざい こ お	小心, 大小, 縮小 小さい, 小さな 小型, 小鳥, 小切手 小川, 小暗い	小豆 (あずき)
升	ショウ ます	升, 升目	
少	ショウ すくない すこし	少年, 多少, 減少 少ない 少し	
召	ショウ めす	召喚, 国会の召集 召す, 召し上がる	
匠	ショウ	師匠, 巨匠, 意匠	
床	ショウ とこ ゆか	起床, 病床, 温床 床, 床の間, 寝床 床, 床下	
抄	ショウ	抄録, 抄本, 抄訳	
肖	ショウ	肖像, 不肖	

尚	ショウ	尚早, 高尚	
招	ショウ まねく	招待, 招致, 招請 招く, 招き	
承	ショウ うけたまわる	承知, 承諾, 継承 承る	
昇	ショウ のぼる	昇降, 昇進, 上昇 昇る	⇒ 上る, 登る
松	ショウ まつ	松竹梅, 白砂青松 松, 松原, 門松	
沼	ショウ ぬま	沼沢, 湖沼 沼, 沼地	
昭	ショウ	<u>昭和</u>	
宵	ショウ よい	徹宵 宵	
将 (將)	ショウ	将来, 将棋, 大将	
消	ショウ きえる けす	消滅, 消極的, 費消 消える, 立ち消え 消す, 消しゴム	
症	ショウ	症状, 炎症, 重症	
祥 (祥)	ショウ	発祥, 吉祥, 不祥事	
称 (稱)	ショウ	称賛, 名称, 称する	
笑	ショウ わらう えむ	笑覧, 微笑, 談笑 笑う, 大笑い ほくそ笑む, 笑み	笑顔 (えがお)
唱	ショウ となえる	唱歌, 合唱, 提唱 唱える	
商	ショウ あきなう	商売, 商業, 貿易商 商う, 商い	
涉 (涉)	ショウ	涉外, 干涉, 交渉	
章	ショウ	憲章, 勳章, 文章	

紹
訟
勝

ショウ

紹介

ショウ

訴訟

ショウ

勝敗, 優勝, 名勝
勝つ, 勝ち, 勝手
勝る, 男勝り

かつ
まさる

掌
晶

ショウ

掌中, 職掌, 車掌

ショウ

結晶, 水晶

焼 (焼)

ショウ

焼却, 燃烧, 全焼
焼く, 炭焼き
焼ける, 夕焼け

やく
やける

焦

ショウ

焦土, 焦慮, 焦心
焦げる, 黒焦げ
焦がす
焦がれる
焦る, 焦り

こげる
こがす
こがれる
あせる

硝
粧

ショウ

硝石, 硝酸

ショウ

化粧

詔

ショウ

詔勅, 詔書
詔

みことのり

証 (證)

ショウ

証拠, 証明, 免許証

象

ショウ

象徴, 対象, 現象
象眼, 巨象

ゾウ

傷

ショウ

傷害, 負傷, 感傷
傷, 古傷, 傷つく
傷む
傷める

きず
いたむ
いためる

⇨ 痛む, 悼む

⇨ 痛める

奨 (奨)

ショウ

奨励, 奨学金, 推奨

照

ショウ

照明, 照会, 対照的
照る, 日照り
照らす
照れる

てる
てらす
てれる

詳

ショウ

詳細, 詳報, 未詳
詳しい, 詳しさ

くわしい

彰
障

ショウ 表彰, 顕彰
ショウ 障害, 障子, 故障
さわる 障る, 差し障り

憧

ショウ 憧憬
あこがれる 憧れる, 憧れ

「憧憬」は、「ドウケイ」とも。

衝
賞
償

ショウ 衝突, 衝動, 折衝
ショウ 賞罰, 賞与, 懸賞
ショウ 償金, 弁償, 代償
つぐなう 償う, 償い

礁
鐘

ショウ 岩礁, 暗礁, さんご礁
ショウ 半鐘, 警鐘
かね 鐘

上

ジョウ 上旬, 上昇, 地上
ショウ 上人, 身上を潰す
うえ 上, 身の上
うわ 上着, 上積み
かみ 上, 川上
あげる 上げる, 売り上げ
あがる 上がる, 上がり
のぼる 上る, 上り
のぼせる 上せる
のぼす 上す

上手 (じょうず)
「身上」は、「シンショウ」と「シンジョウ」と
で、意味が違う。

- ⇨ 揚げる, 挙げる
- ⇨ 揚がる, 挙がる
- ⇨ 昇る, 登る

丈

ジョウ 丈六, 丈夫な体
たけ 丈, 背丈

冗

ジョウ 冗談, 冗長, 冗費

条 (條)

ジョウ 条理, 条約, 箇条

状 (狀)

ジョウ 状態, 白状, 免状

乗 (乘)

ジョウ 乗数, 乗車, 大乘的
のる 乗る, 乗り物
のせる 乗せる

- ⇨ 載る
- ⇨ 載せる

城

ジョウ 城内, 城下町, 落城
しろ 城, 城跡

茨城(いばらき)県, 宮城(みやぎ)県

浄 (淨)

ジョウ 浄化, 清浄, 不浄

剩 (剩)	ジョウ	剰余, 過剰, 余剰	
常	ジョウ つね とこ	常備, 日常, 非常 常, 常に, 常々 常夏	
情	ジョウ セイ なさけ	情報, 情熱, 人情 風情 情け	
場	ジョウ ば	場内, 会場, 入場 場, 場所, 広場	
畳 (疊)	ジョウ たたむ たたみ	畳語, 重畳 畳む, 折り畳み 畳, 畳表, 青畳	
蒸	ジョウ むす むれる むらす	蒸気, 蒸発 蒸す, 蒸し暑い 蒸れる 蒸らす	
縄 (繩)	ジョウ なわ	縄文, 白縄自縛 縄, 縄張	
壤 (壤)	ジョウ	土壤	
嬢 (嬢)	ジョウ	令嬢, 愛嬢, お嬢さん	
錠	ジョウ	錠前, 錠剤, 手錠	
讓 (讓)	ジョウ ゆずる	讓渡, 讓歩, 謙讓 讓る, 親讓り	
釀 (釀)	ジョウ かもす	釀造, 釀成 釀す, 釀し出す	
色	シヨク シキ いろ	原色, 特色, 物色 色彩, 色調, 色欲 色, 桜色, 色づく	景色 (けしき)
拭	シヨク ふく ぬぐう	払拭 拭く 拭う	
食	シヨク ジキ	食事, 食料, 会食 断食	

植	くう	食う, 食い物	
	くろう たべる	食らう 食べる, 食べ物	
殖	シヨク	植樹, 植物, 誤植	
	うえる うわる	植える, 植木 植わる	
飾	シヨク	生殖, 利殖, 学殖	
	ふえる ふやす	殖える 殖やす	⇨ 増える ⇨ 増やす
触 (觸)	シヨク	裝飾, 修飾, 服飾	
	かざる	飾る, 飾り	
觸 (觸)	シヨク	触媒, 触発, 接触	
	ふれる さわる	触れる 触る	
嘱 (囑)	シヨク	嘱託, 委嘱	
	シヨク シキ おる	織機, 染織, 紡織 組織 織る, 織物	
職	シヨク	職業, 職務, 就職	
	ジョク はずかしめる	恥辱, 雪辱, 屈辱 辱める, 辱め	
尻	しり	尻, 尻込み, 目尻	尻尾 (しっぽ)
	シン こころ	心身, 感心, 中心 心, 心得る, 親心	心地 (こころ)
申	シン もうす	申告, 申請, 内申書 申す, 申し上げる	
	シン のびる のばす のべる	伸縮, 屈伸, 追伸 伸びる, 背伸び 伸ばす 伸べる	⇨ 延びる ⇨ 延ばす ⇨ 延べる
臣	シン ジン	臣下, 君臣 大臣	
	シン	芯	

身

シン
み 身体, 单身, 等身大
身, 身内, 親身

辛

シン
からい 辛苦, 辛酸, 香辛料
辛い, 辛み, 辛うじて

侵

シン
おかす 侵入, 侵害, 不可侵
侵す

⇨ 犯す, 冒す

信

シン 信用, 信頼, 通信

津

シン
つ 興味津々
津波, 津々浦々

神 (神)

シン
ジン
かみ
かん
こう 神聖, 神経, 精神
神社, 神宮, 神通力
神, 神様, 貧乏神
神主
神々しい

お神酒 (みき)
神楽 (かぐら)
神奈川 (かながわ) 県

唇

シン
くちびる 口唇
唇

娠

シン 妊娠

振

シン
ふる
ふるう
ふれる 振動, 振興, 不振
振る, 振り
振るう
振れる

⇨ 奮う, 震う

浸

シン
ひたす
ひたる 浸水, 浸透
浸す, 水浸し
浸る

真 (眞)

シン
ま 真偽, 写真, 純真
真南, 真新しい, 真っ先,
真ん中

真面目 (まじめ)
真っ赤 (まっか)
真っ青 (まっさお)

針

シン
はり 針路, 運針, 秒針
針, 針金

深

シン
ふかい
ふかまる
ふかめる 深山, 深夜, 水深
深い, 深入り, 深み
深まる
深める

紳

シン 紳士

進	シン すすむ すすめる	進級, 進言, 前進 進む, 進み 進める	⇨ 勧める, 薦める
森	シン もり	森林, 森閑, 森厳 森	
診	シン みる	診察, 診療, 往診 診る	⇨ 見る
寝 (寢)	シン ねる ねかす	寝室, 寝具, 就寝 寝る, 寝入る, 昼寝 寝かす	
慎 (愼)	シン つつしむ	慎重, 謹慎 慎む, 慎み	⇨ 謹む
新	シン あたらしい あらた にい	新旧, 新聞, 革新 新しい, 新しさ, 新しがる 新ただ 新妻, 新盆	
審	シン	審判, 審議, 不審	
震	シン ふるう ふるえる	震動, 震災, 地震 震う, 身震い 震える, 震え	⇨ 奮う, 振るう
薪	シン たきぎ	薪炭, 薪水 薪	
親	シン おや したしい したしむ	親族, 親友, 肉親 親, 親子, 父親 親しい, 親しさ 親しむ	
人	ジン ニン ひと	人道, 人員, 成人 人間, 人情, 人形 人, 人手, 旅人	玄人 (くろうと) 素人 (しろうと) 仲人 (なこうど) 若人 (わこうど) 大人 (おとな) 一人 (ひとり) 二人 (ふたり)
刃	ジン は	白刃, 凶刃, 自刃 刃, 刃物, 両刃	
仁	ジン ニ	仁義, 仁術 仁王	

尽 (盡)	ジン つくす つきる つかす	尽力, 無尽蔵 尽くす, 心尽くし 尽きる 愛想を尽かす	
迅	ジン	迅速, 疾風迅雷	
甚	ジン はなはだ はなはだしい	甚大, 激甚, 幸甚 甚だ 甚だしい	
陣	ジン	陣頭, 陣痛, 円陣	
尋	ジン たずねる	尋問, 尋常, 千尋 尋ねる, 尋ね人	⇨ 訪ねる
腎	ジン	腎臓, 肝腎	「肝腎」は、「肝心」とも書く。
須	ス	必須	
図 (圖)	ズ ト はかる	図画, 図表, 地図 図書, 意図, 壮図 図る	⇨ 計る, 測る, 量る, 謀る
水	スイ みず	水分, 水陸, 海水 水, 水色, 水浴び	清水 (しみず)
吹	スイ ふく	吹奏, 吹鳴, 鼓吹 吹く	息吹 (いぶき) 吹雪 (ふぶき) ⇨ 噴く
垂	スイ たれる たらす	垂直, 懸垂, 胃下垂 垂れる, 雨垂れ 垂らす	
炊	スイ たく	炊事, 自炊, 雑炊 炊く, 飯炊き	
帥	スイ	統帥, 元帥	
粹 (粹)	スイ いき	粹人, 純粹, 精粹 粹	
衰	スイ おとろえる	衰弱, 盛衰, 老衰 衰える, 衰え	
推	スイ おす	推進, 推薦 推す	⇨ 押す

醉 (酔)	スイ よう	酔漢, 麻醉, 心酔 酔う, 酔い, 二日酔い	
遂	スイ とげる	遂行, 未遂, 完遂 遂げる	
睡	スイ	睡眠, 熟睡, 午睡	
穂 (穂)	スイ ほ	穂状, 出穂期 穂, 稲穂	
随 (隨)	ズイ	随行, 随意, 追隨	
髓 (髓)	ズイ	骨髓, 脳髓, 真髓	
枢 (樞)	スウ	枢軸, 枢要, 中枢	
崇	スウ	崇拜, 崇高	
数 (數)	スウ ス かず かぞえる	数字, 数量, 年数 人数 数 数える, 数え年	数珠 (じゆず) 数寄屋・数奇屋 (すきや) 「人数」は、「ニンズウ」とも。
据	すえる すわる	据える, 据え置く 据わる, 据わり	⇨ 座る
杉	すぎ	杉, 杉並木	
裾	すそ	裾, 裾野	
寸	スン	寸法, 寸暇, 一寸先	
瀬 (瀬)	せ	瀬, 浅瀬, 立つ瀬	
是	ぜ	是非, 是認, 国是	
井	セイ ショウ い	油井, 市井 天井 井戸	
世	セイ セ よ	世紀, 時世, 処世 世界, 世間, 出世 世, 世の中	
正	セイ ショウ ただしい	正義, 正誤, 訂正 正直, 正面, 正月 正しい, 正しさ	

生

ただす まさ	正す 正に, 正夢
セイ ショウ いきる いかす いける うまれる うむ おう はえる はやす き なま	生活, 発生, 先生 生滅, 一生, 誕生 生きる, 長生き 生かす 生ける, 生け捕り 生まれる, 生まれ 生む 生い立ち, 生い茂る 生える, 芽生える 生やす 生糸, 生地, 生一本 生の野菜, 生水, 生々しい

芝生 (しばふ)
弥生 (やよい)

⇨ 産まれる
⇨ 産む

成

セイ ジョウ なる なす	成功, 完成, 賛成 成就, 成仏 成る, 成り立つ 成す, 成し遂げる
-----------------------	---

西

セイ サイ にし	西暦, 西部, 北西 西国, 東西 西, 西日
----------------	-------------------------------

声 (聲)

セイ ショウ こえ こわ	声楽, 声援, 名声 大音声 声, 呼び声, 歌声 声色
-----------------------	---------------------------------------

制
姓

セイ セイ ショウ	制度, 制限, 統制 姓名, 改姓, 同姓 百姓
-----------------	--------------------------------

征
性

セイ セイ ショウ	征服, 遠征, 出征 性質, 理性, 男性 性分, 相性, 根性
-----------------	--

青

セイ ショウ あお あおい	青天, 青銅, 青年 緑青, 紺青, 群青 青, 青ざめる 青い, 青さ
------------------------	---

真っ青 (まっさお)

斉 (齊)

セイ	斉唱, 一斉
----	--------

政
星
牲
省
凄
逝
清
盛
婿
晴
勢
聖
誠

セイ
ショウ
まつりごと
政治, 行政, 家政
摂政
政

セイ
ショウ
ほし
星座, 流星, 衛星
明星
星, 黒星

セイ
犠牲

セイ
ショウ
かえりみる
はぶく
反省, 内省, 帰省
省略, 各省
省みる
省く

⇒ 顧みる

セイ
凄惨, 凄絶

セイ
ゆく
いく
逝去, 急逝, 長逝
逝く
逝く

⇒ 行く

⇒ 行く

セイ
ショウ
きよい
きよまる
きよめる
清潔, 清算, 肃清
六根清浄
清い, 清らかだ
清まる
清める

清水 (しみず)

セイ
ジョウ
もる
さかる
さかん
盛大, 隆盛, 全盛
繁盛
盛る, 盛り上がる
燃え盛る, 盛り, 花盛り
盛んだ, 盛んに

セイ
むこ
女婿
婿, 花婿

セイ
はれる
はらす
晴天, 晴雨, 快晴
晴れる, 晴れ, 晴れやかだ
晴らす, 気晴らし

セイ
いきおい
勢力, 優勢, 情勢
勢い

セイ
聖書, 聖人, 神聖

セイ
まこと
誠実, 誠意, 至誠
誠, 誠に

精	セイ ショウ	精米, 精密, 精力 精進, 不精	
製	セイ	製造, 製鉄, 鉄製	
誓	セイ ちかう	誓約, 誓詞, 宣誓 誓う, 誓い	
静 (靜)	セイ ジョウ しず しずか しずまる しずめる	静止, 静穩, 安静 静脈 静々と, 静けさ 静かだ 静まる 静める	⇨ 鎮まる ⇨ 鎮める, 沈める
請	セイ シン こう うける	請求, 請願, 申請 普請 請う 請ける, 請負, 下請け	⇨ 乞う ⇨ 受ける
整	セイ ととのえる ととのう	整理, 整列, 調整 整える 整う	⇨ 調える ⇨ 調う
醒	セイ	覚醒	
税	ゼイ	税金, 免税, 関税	
夕	セキ ゆう	今夕, 一朝一夕 夕方, 夕日, 夕べ	七夕 (たなばた)
斥	セキ	斥候, 排斥	
石	セキ シャク コク いし	石材, 岩石, 宝石 磁石 石高, 千石船 石, 小石	
赤	セキ シャク あか あかい あからむ あからめる	赤道, 赤貧, 発赤 赤銅 赤, 赤字, 赤ん坊 赤い 赤らむ 赤らめる	真っ赤 (まっか)
昔	セキ シャク	昔日, 昔年, 昔時 今昔	

析
席
脊
隻
惜

むかし 昔, 昔話
 セキ 析出, 分析, 解析
 セキ 席上, 座席, 出席
 セキ 脊髓, 脊柱
 セキ 隻手, 数隻
 セキ 惜敗, 痛惜, 愛惜
 おしい 惜しい
 おしむ 惜しむ, 負け惜しみ

戚
責

セキ 親戚
 セキ 責務, 責任, 職責
 せめる 責める, 責め

跡

セキ 追跡, 旧跡, 遺跡
 あと 跡, 足跡, 屋敷跡

積

セキ 積雪, 蓄積, 面積
 つむ 積む, 下積み
 つもる 積もる, 見積書

績

セキ 紡績, 成績, 業績

籍

セキ 書籍, 戸籍, 本籍

切

セツ 切断, 親切, 切に
 サイ 一切
 きる 切る
 きれる 切れる

折

セツ 折衷, 折衝, 屈折
 おる 折る, 折り紙, 折り箱
 おり 折, ……する折
 おれる 折れる, 名折れ

拙

セツ 拙劣, 拙速, 巧拙
 つたない 拙い

窃 (竊)

セツ 窃盗, 窃取

接

セツ 接触, 接待, 直接
 つぐ 接ぐ, 接ぎ木, 骨接ぎ

寄席 (よせ)

⇒ 後, 痕⇒ 斬る

⇒ 継ぐ

設	セツ もうける	設立, 設備, 建設 設ける	
雪	セツ ゆき	雪辱, 降雪, 積雪 雪, 雪解け, 初雪	雪崩 (なだれ) 吹雪 (ふぶき)
撰 (撮)	セツ	撰取, 撰生	
節 (節)	セツ セチ ふし	節約, 季節, 関節 お節料理 節, 節穴	
説	セツ ゼイ とく	説明, 小説, 演説 遊説 説く	
舌	ゼツ した	舌端, 弁舌, 筆舌 舌, 猫舌, 二枚舌	
絶	ゼツ たえる たやす たつ	絶妙, 絶食, 断絶 絶える 絶やす 絶つ	⇨ 裁つ, 断つ
千	セン ち	千円, 千人力, 千差万別 千草, 千々に	
川	セン かわ	川柳, 河川 川, 川岸, 小川	川原 (かわら) ⇨ 河
仙	セン	仙骨, 仙人, 酒仙	
占	セン しめる うらなう	占拠, 占星術, 独占 占める, 買い占め 占う, 占い	
先	セン さき	先方, 先生, 率先 先, 先立つ	
宣	セン	宣言, 宣誓, 宣伝	
専 (専)	セン もっぱら	専門, 専属, 専用 専ら	
泉	セン いずみ	泉水, 源泉, 温泉 泉	

浅 (淺)	セン あさい	浅薄, 浅学, 深浅 浅い, 浅瀬, 遠浅	
洗	セン あらう	洗面, 洗練, 洗剤 洗う	
染	セン そめる そまる しみる しみ	染色, 染料, 汚染 染める, 染め物 染まる 染みる, 油染みる 染み, 染み抜き	
扇	セン おうぎ	扇子, 扇風機, 扇状地 扇, 舞扇	
栓	セン	栓, 給水栓, 消火栓	
旋	セン	旋回, 旋律, 周旋	
船	セン ふね ふな	船舶, 乗船, 汽船 船, 大船, 親船 船旅, 船賃	⇔ 舟
戦 (戰)	セン いくさ たたかう	戦争, 苦戦, 論戦 戦, 勝ち戦 戦う, 戦い	⇔ 闘う
煎	セン いる	煎茶 煎る, 煎り豆	* [(22)ページ参照]
羨	セン うらやむ うらやましい	羨望 羨む 羨ましい	
腺	セン	前立腺, 涙腺	
詮	セン	詮索, 所詮	* [(23)ページ参照]
践 (踐)	セン	実践	
箋	セン	処方箋, 便箋	* [(22)ページ参照]
銭 (錢)	セン ぜに	銭湯, 金銭 銭, 銭入れ, 小銭	
潜 (潛)	セン ひそむ もぐる	潜水, 潜在的, 沈潜 潜む 潜る, 潜り込む	

線	セン	線路, 点線, 光線	
遷	セン	遷延, 遷都, 變遷	
選	セン えらぶ	選択, 選挙, 当選 選ぶ	
薦	セン すすめる	推薦, 自薦 薦める	⇒ 進める, 勧める
織 (織)	セン	織細, 織維, 化織	
鮮	セン あざやか	鮮魚, 鮮明, 新鮮 鮮やかだ	
全	ゼン まったく すべて	全部, 全国, 完全 全く, 全うする 全て	
前	ゼン まえ	前後, 以前, 空前 前, 前向き, 名前	
善	ゼン よい	善悪, 善処, 慈善 善い	⇒ 良い
然	ゼン ネン	当然, 自然, 必然 天然	
禅 (禪)	ゼン	禅宗, 禅寺, 座禅	
漸	ゼン	漸次, 漸進的, 東漸	
膳	ゼン	膳, 配膳	
繕	ゼン つくろう	修繕, 営繕 繕う, 繕い	
狙	ソ ねらう	狙撃 狙う, 狙い	
阻	ソ はばむ	阻止, 阻害, 險阻 阻む	
祖 (祖)	ソ	祖父, 祖述, 元祖	
租	ソ	租税, 公租公課	
素	ソ	素材, 元素, 平素	素人 (しろうと)

措	ス	素顔, 素手, 素性	
粗	ソ	措置, 措辞, 举措	
組	ソ	粗密, 粗野, 精粗	
疎	あらい	粗い	⇨ 荒い
訴	ソ	組織, 組成, 改組	
塑	くむ	組む, 組み込む	
遡 [遡]	くみ	組, 組長, 赤組	
礎	ソ	疎密, 疎外, 親疎	
双 (雙)	うとい	疎い	
壯 (壯)	うとむ	疎む, 疎ましい	
早	ソ	訴訟, 告訴, 哀訴	
争 (争)	うったえる	訴える, 訴え	
走	ソ	塑像, 彫塑, 可塑性	
奏	ソ	遡及, 遡上	[遡] = 許容字体, *[(20)ページ参照]
相	さかのぼる	遡る	
	ソ	礎石, 基礎, 定礎	
	いしづえ	礎	
	ソウ	双肩, 双方, 無双	
	ふた	双子, 双葉	⇨ 二
	ソウ	壮大, 壮健, 強壯	
	ソウ	早朝, 早晚, 早々に	早乙女 (さおとめ)
	サッ	早速, 早急	早苗 (さなえ)
	はやい	早い, 早口, 素早い	⇨ 速い
	はやまる	早まる	⇨ 速まる
	はやめる	早める	⇨ 速める
	ソウ	爭議, 競争, 紛争	
	あらそう	争う, 争い	
	ソウ	走行, 競走, 滑走	
	はしる	走る, 先走る	師走 (しわす)
	ソウ	奏楽, 演奏, 合奏	
	かなでる	奏でる	
	ソウ	相当, 相談, 真相	
	ショウ	首相, 宰相	相撲 (すもう)

	あい	相手, 相宿	
莊 (莊)	ソウ	莊嚴, 莊重, 別莊	
草	ソウ くさ	草案, 雜草, 牧草 草, 草花, 語り草	草履 (ぞうり)
送	ソウ おくる	送別, 放送, 運送 送る, 見送り	⇨ 贈る
倉	ソウ くら	倉庫, 穀倉 倉, 倉敷料	⇨ 蔵
搜 (搜)	ソウ さがす	搜索, 捜査 搜す	⇨ 探す
挿 (插)	ソウ さす	挿入, 挿話 挿す, 挿絵, 挿し木	⇨ 差す, 刺す, 指す
桑	ソウ くわ	桑園 桑, 桑畑	
巢 (巢)	ソウ す	営巢, 卵巢, 病巢 巢, 巢箱, 巢立つ	
掃	ソウ はく	掃除, 清掃, 一掃 掃く	
曹	ソウ	法曹, 法曹界, 陸曹	
曾 (曾)	ソウ ゾ	曾祖父, 曾孫 未曾有	
爽	ソウ さわやか	爽快 爽やかだ	
窓	ソウ まど	車窓, 同窓, 深窓 窓, 窓口, 出窓	
創	ソウ つくる	創造, 独創, 刀創 創る	⇨ 作る, 造る
喪	ソウ も	喪失 喪, 喪服, 喪主	
瘦 (瘦)	ソウ やせる	瘦身 痩せる	
葬	ソウ	葬儀, 埋葬, 会葬	

	ほうむる	葬る	
装 (装)	ソウ ショウ よそおう	装置, 服装, 変装 装束, 衣装 装う, 装い	
僧 (僧)	ソウ	僧院, 高僧, 尼僧	
想	ソウ ソ	想像, 感想, 予想 愛想	
層 (層)	ソウ	層雲, 高層, 断層	
総 (總)	ソウ	総合, 総意, 総括	
遭	ソウ あう	遭遇, 遭難 遭う	⇨ 合う, 会う
槽	ソウ	水槽, 浴槽	
踪	<u>ソウ</u>	<u>失踪</u>	
操	ソウ みさお あやつる	操縦, 操作, 節操 操 操る, 操り人形	
燥	ソウ	乾燥, 焦燥, 高燥	
霜	ソウ しも	霜害, 晩霜 霜, 霜柱, 初霜	
騒 (騒)	ソウ さわぐ	騒動, 騒音, 物騒 騒ぐ, 騒ぎ, 騒がしい	
藻	ソウ も	藻類, 海藻, 詞藻 藻	
造	ゾウ つくる	造船, 造花, 構造 造る	⇨ 作る, <u>創る</u>
像	ゾウ	肖像, 現像, 想像	
増 (増)	ゾウ ます ふえる ふやす	増減, 増加, 激増 増す, 水増し 増える 増やす	⇨ 殖える ⇨ 殖やす
憎 (憎)	ゾウ	憎悪, 愛憎	

	にくむ にくい にくらしい にくしみ	憎む 憎い, 憎さ 憎らしい 憎しみ	
蔵 (藏)	ゾウ くら	蔵書, 貯蔵, 土蔵 蔵, 酒蔵	⇒ 倉
贈 (贈)	ゾウ ソウ おくる	贈与, 贈呈, 贈答 寄贈 贈る, 贈り物	「寄贈」は、「キゾウ」とも。 ⇒ 送る
臓 (臓)	ゾウ	臓器, 内臓, 心臓	
即 (即)	ソク	即応, 即席, 即興	
束	ソク たば	束縛, 結束, 約束 束, 花束, 束ねる	
足	ソク あし たりる たる たす	足跡, 遠足, 補足 足, 足音, 素足 足りる 舌足らず 足す	足袋 (たび) ⇒ 脚
促	ソク うながす	促進, 促成, 催促 促す	
則	ソク	法則, 鉄則, 変則	
息	ソク いき	休息, 消息, 子息 息, 息巻く, 吐息	息吹 (いぶき) 息子 (むすこ)
捉	ソク とらえる	捕捉 捉える	⇒ 捕らえる
速	ソク はやい はやめる はやまる すみやか	速度, 敏速, 時速 速い, 速さ 速める 速まる 速やかだ	⇒ 早い ⇒ 早める ⇒ 早まる
側	ソク がわ	側面, 側近, 側壁 側, 裏側, 片側	「かわ」とも。
測	ソク はかる	測量, 目測, 推測 測る	⇒ 計る, 量る, 図る

俗	ゾク	俗事, 風俗, 民俗	
族	ゾク	一族, 家族, 民族	
属 (屬)	ゾク	属性, 従属, 金属	
賊	ゾク	賊軍, 盜賊	
続 (續)	ゾク つづく つづける	続出, 続行, 連続 続く, 続き 続ける	
卒	ソツ	卒業, 卒中, 兵卒	
率	ソツ リツ ひきいる	率先, 引率, 軽率 比率, 能率, 百分率 率いる	
存	ソン ゾン	存在, 存続, 既存 存分, 保存, 存じます	
村	ソン むら	村長, 村落, 農村 村, 村里, 村芝居	
孫	ソン まご	子孫, 嫡孫 孫	
尊	ソン たっとい とうとい たつとぶ とうとぶ	尊敬, 尊大, 本尊 尊い 尊い 尊ぶ 尊ぶ	⇨ 貴い ⇨ 貴い ⇨ 貴ぶ ⇨ 貴ぶ
損	ソン そこなう そこねる	損失, 欠損, 破損 損なう, 見損なう 損ねる	
遜 [遜]	ソン	謙遜, 不遜	[遜] = 許容字体, *[(20)ページ参照]
他	タ ほか	他国, 自他, 排他的 他, ○○の他	⇨ 外
多	タ おおい	多少, 多数, 雑多 多い	
汰	タ	沙汰	
打	ダ	打撃, 打破, 乱打	

	うつ	打つ	⇨ 撃つ, 討つ
妥	ダ	妥当, 妥結, 妥協	
唾	ダ つば	唾液, 唾棄 唾, 眉唾	固唾 (かたず) 「唾」は、「つばき」とも。
墮 (墮)	ダ	墮落	
惰	ダ	惰眠, 惰気, 怠惰	
駄	ダ	駄菓子, 駄作, 無駄	
太	タイ タ ふとい ふとる	太陽, 太鼓, 皇太子 丸太 太い 太る	太刀 (たち)
対 (對)	タイ ツイ	対立, 絶対, 反対 対句, 一对	
体 (體)	タイ テイ からだ	体格, 人体, 主体 体裁, 風体 体, 体つき	
耐	タイ たえる	耐久, 耐火, 忍耐 耐える	⇨ 堪える
待	タイ まつ	待機, 待遇, 期待 待つ, 待ち遠しい	
怠	タイ おこたる なまける	怠惰, 怠慢 怠る 怠ける, 怠け者	
胎	タイ	胎児, 受胎, 母胎	
退	タイ しりぞく しりぞける	退却, 退屈, 進退 退く 退ける	立ち退く (たちのく)
帯 (帶)	タイ おびる おび	携帯, 地帯, 連帯 帯びる 帯, 角帯	
泰	タイ	泰然, 泰斗, 安泰	
堆	タイ	堆積	

袋	タイ ふくろ	風袋, 郵袋 袋, 紙袋	足袋 (たび)
逮	タイ	逮捕, 逮夜	
替	タイ かえる かわる	代替 替える, 両替 替わる	為替 (かわせ) ⇨ 換える, 代える, 変える ⇨ 換わる, 代わる, 変わる
貸	タイ かす	貸借, 貸与, 賃貸 貸す, 貸し	
隊	タイ	隊列, 軍隊, 部隊	
滯 (滯)	タイ とどこおる	滞在, 滞貨, 沈滞 滞る	
態	タイ	態勢, 形態, 容態	
戴	タイ	戴冠, 頂戴	
大	ダイ タイ おお おおきい おおいに	大小, 大胆, 拡大 大衆, 大した, 大して 大型, 大通り, 大水 大きい, 大きさ, 大きな 大いに	大人 (おとな) 大和 (やまと)
代	ダイ タイ かわる かえる よ しろ	代理, 世代, 現代 代謝, 交代 代わる, 代わり 代える 代, 神代 代物, 苗代	⇨ 換わる, 替わる, 変わる ⇨ 換える, 替える, 変える
台 (臺)	ダイ タイ	台地, 灯台, 一台 台風, 舞台	
第	ダイ	第一, 第三者, 及第	
題	ダイ	題名, 問題, 出題	
滝 (瀧)	たき	滝, 滝つぼ	
宅	タク	宅地, 自宅, 帰宅	
択 (擇)	タク	選択, 採択, 二者択一	
沢 (澤)	タク	光沢, 潤沢	

卓
拓
託
濯
諾
濁

但
達
脱

奪

棚
誰

丹
旦

担 (擔)

单 (單)

炭

胆 (膽)

探

さわ
タク
タク
タク
タク
ダク
ダク
にごる
にごす
ただし
タツ
ダツ
ぬぐ
ぬげる
ダツ
うぼう
たな
だれ
タン
タン
ダン
タン
かつぐ
になう
タン
タン
すみ
タン
タン
さぐる

沢
卓越, 卓球, 食卓
拓本, 開拓
託宣, 委託, 結託
洗濯
諾否, 承諾, 快諾
濁流, 濁音, 清濁
濁る, 濁り
濁す
但し, 但し書き
達人, 調達, 伝達
脱衣, 脱出, 虚脱
脱ぐ
脱げる
奪回, 奪取, 争奪
奪う, 奪い取る
棚, 戸棚, 大陸棚
誰
丹念, 丹精
一旦, 元旦
旦那
担当, 担架, 負担
担ぐ
担う
単独, 単位, 簡単
炭鉱, 木炭, 石炭
炭, 炭火, 消し炭
大胆, 落胆, 魂胆
探求, 探訪, 探知
探る, 探り

友達 (ともだち)

淡	さがす タン あわい	探す 淡水, 濃淡, 冷淡 淡い, 淡雪	⇨ 捜す
短	タン みじかい	短歌, 短所, 長短 短い	
嘆 (嘆)	タン なげく なげかわしい	嘆息, 嘆願, 驚嘆 嘆く, 嘆き 嘆かわしい	
端	タン はし は はた	端正, 末端, 極端 端, 片端 端数, 半端, 軒端 端, 川端, 道端	
綻	タン ほころびる	破綻 綻びる	
誕	タン	誕生, 生誕	
鍛	タン きたえる	鍛錬 鍛える, 鍛え方	鍛冶 (かじ)
団 (團)	ダン トン	団結, 団地, 集団 布団	
男	ダン ナン おとこ	男子, 男女, 男性 長男, 美男, 善男善女 男, 男らしい	
段	ダン	段落, 階段, 手段	
断 (斷)	ダン たつ ことわる	断絶, 断定, 判断 断つ, 塩断ち 断る, 断り	⇨ 裁つ, 絶つ
弾 (彈)	ダン ひく はずむ たま	弾力, 弾圧, 爆弾 弾く, 弾き手 弾む, 弾み 弾	⇨ 引く ⇨ 玉, 球
暖	ダン あたたか あたたかい あたたまる	暖流, 暖房, 温暖 暖かだ 暖かい 暖まる	⇨ 温か ⇨ 温かい ⇨ 温まる

	あたためる	暖める	⇨ 温める
談	ダン	談話, 談判, 相談	
壇	ダン タン	壇上, 花壇, 文壇 土壇場	
地	チ ジ	地下, 天地, 境地 地面, 地震, 地元	心地 (こち) 意気地 (いくじ)
池	チ いけ	貯水池, 電池 池, 古池	
知	チ しる	知識, 知人, 通知 知る, 物知り	
値	チ ね あたい	価値, 数值, 絶対値 値, 値段 値, 値する	⇨ 価
恥	チ はじる はじ はじらう はずかしい	恥辱, 無恥, 破廉恥 恥じる, 恥じ入る 恥, 生き恥 恥じらう, 恥じらい 恥ずかしい	
致	チ いたす	誘致, 合致, 風致 致す	
遅 (遅)	チ おくれる おくらす おそい	遅延, 遅刻, 遅速 遅れる, 遅れ 遅らす 遅い, 遅咲き	⇨ 後れる
痴 (癡)	チ	痴情, 愚痴	
稚	チ	稚魚, 稚拙, 幼稚	稚児 (ちご)
置	チ おく	位置, 放置, 処置 置く	
緻	チ	緻密, 精緻	
竹	チク たけ	竹林, 竹馬の友, 爆竹 竹, 竹やぶ, さお竹	竹刀 (しない)
畜	チク	畜産, 牧畜, 家畜	

逐
蓄
築
秩
窒
茶
着
嫡
中
仲
虫 (蟲)
沖
宙
忠
抽
注
昼 (晝)

チク 逐次, 逐一, 駆逐
チク 蓄積, 蓄電池, 貯蓄
たくわえる 蓄える, 蓄え
チク 築港, 建築, 改築
きづく 築く, 築き上げる
チツ 秩序
チツ 窒息, 窒素
チャ 茶色, 茶番劇, 番茶
サ 茶菓, 茶話会, 喫茶
チャク 着用, 着手, 土着
ジャク 愛着, 執着
きる 着る, 着物, 晴れ着
きせる 着せる, お仕着せ
つく 着く, 船着き場
つける 着ける
チャク 嫡子, 嫡流
チュウ 中央, 中毒, 胸中
ジュウ 〇〇中
なか 中, 中庭, 真ん中
チュウ 仲介, 仲裁, 伯仲
なか 仲, 仲間
チュウ 虫類, 幼虫, 害虫
むし 虫, 毛虫
チュウ 沖積層, 冲天, 沖する
おき 沖
チュウ 宙返り, 宇宙
チュウ 忠実, 忠勤, 誠忠
チュウ 抽出, 抽象
チュウ 注入, 注意, 発注
そそぐ 注ぐ
チュウ 昼夜, 昼食, 白昼

築山 (つきやま)

「愛着」、「執着」は、「アイチャク」、「シユウチャク」とも。

⇨ 付く, 就く
⇨ 付ける, 就ける

⇨ 仲

仲人 (なこうど)
⇨ 中

柱

ひる 昼, 昼寝, 真昼
 チュウ 支柱, 円柱, 電柱
 はしら 柱, 帆柱, 大黒柱

衷

チュウ 衷心, 折衷, 苦衷

耐

チュウ 焼耐

鑄 (鑄)

チュウ 鑄造, 鑄鉄, 改鑄
 いる 鑄る, 鑄物, 鑄型

駐

チュウ 駐車, 駐在, 進駐

著 (著)

チョ 著名, 著作, 顕著
 あらわす 著す
 いちじるしい 著しい, 著しさ

⇔ 表す, 現す

貯

チョ 貯蓄, 貯金, 貯水池

丁

チョウ 丁数, 落丁, 二丁目
 テイ 丁字路, 甲乙丙丁

弔

チョウ 弔問, 弔辞, 慶弔
 とむらう 弔う, 弔い

庁 (廳)

チョウ 庁舎, 官庁, 県庁

兆

チョウ 兆候, 前兆, 億兆
 きざす 兆す
 きざし 兆し

町

チョウ 町会, 市町村
 まち 町, 町外れ

⇔ 街

長

チョウ 長女, 長所, 成長
 ながい 長い, 長さ

⇔ 永い

挑

チョウ 挑戦, 挑発
 いどむ 挑む

帳

チョウ 帳面, 帳簿, 通帳

蚊帳 (かや)

張

チョウ 張力, 拡張, 主張
 はる 張る, 欲張る, 引っ張る

⇔ 貼る

彫

チョウ 彫刻, 彫塑, 木彫
 ほる 彫る, 木彫り

眺	チョウ ながめる	眺望 眺める, 眺め	
釣	チョウ つる	釣果, 釣魚, 釣艇 釣る, 釣り, 釣り合い	
頂	チョウ いただく いただき	頂上, 頂点, 絶頂 頂く, 頂き物 頂	「山頂」の意。
鳥	チョウ とり	鳥類, 野鳥, 一石二鳥 鳥, 鳥居, 小鳥	鳥取 (とっとり) 県
朝	チョウ あさ	朝食, 早朝, 今朝 朝, 朝日, 毎朝	今朝 (けさ)
貼	チョウ はる	貼付 貼る	「貼付」は、「テンプ」とも。 ⇔ 張る
超	チョウ こえる こす	超越, 超過, 入超 超える 超す	⇔ 越える ⇔ 越す
腸	チョウ	腸炎, 大腸, 胃腸	
跳	チョウ はねる とぶ	跳躍 跳ねる 跳ぶ, 縄跳び	⇔ 飛ぶ
徴 (徴)	チョウ	徴収, 特徴, 象徴	
嘲	チョウ あざける	嘲笑, 自嘲 嘲る	* [(22) ページ参照]
潮	チョウ しお	潮流, 満潮, 風潮 潮, 潮風	
澄	チョウ すむ すます	清澄 澄む, 上澄み 澄ます, 澄まし顔	
調	チョウ しらべる ととのう ととのえる	調和, 調査, 好調 調べる, 調べ 調う 調える	⇔ 整う ⇔ 整える
聴 (聽)	チョウ	聴覚, 聴衆, 傍聴	

	きく	聴く	⇨ 聞く
懲 (懲)	チョウ こりる こらす こらしめる	懲罰, 懲戒, 懲役 懲りる, 性懲りもなく 懲らす 懲らしめる	
直	チョク ジキ ただちに なおす なおる	直立, 直接, 実直 直訴, 直筆, 正直 直ちに 直す, 手直し 直る, 伸直り	⇨ 治す ⇨ 治る
勅 (敕)	チョク	勅語, 勅使, 詔勅	
撓	チョク	進撓	* [(23) ページ参照]
沈	チン しずむ しずめる	沈滞, 沈黙, 浮沈 沈む, 浮き沈み 沈める	⇨ 静める, 鎮める
珍	チン めずらしい	珍客, 珍重, 珍妙 珍しい, 珍しさ, 珍しがる	
朕	チン		
陳	チン	陳列, 陳謝, 開陳	
賃	チン	賃金, 賃上げ, 運賃	
鎮 (鎮)	チン しずめる しずまる	鎮座, 鎮静, 重鎮 鎮める 鎮まる	⇨ 静める, 沈める ⇨ 静まる
追	ツイ おう	追跡, 追放, 訴追 追う	
椎	ツイ	椎間板, 脊椎	
墜	ツイ	墜落, 墜死, 撃墜	
通	ツウ ツ とおる とおす かよう	通行, 通読, 普通 通夜 通る, 通り 通す, 通し 通う, 通い	
痛	ツウ	痛快, 苦痛, 心痛	

	いたい いたむ いためる	痛い, 痛さ 痛む, 痛み, 痛ましい 痛める	⇨ 傷む, 悼む ⇨ 傷める
塚 (塚)	つか	塚, 貝塚	
漬	つける つかる	漬ける, 漬物 漬かる	
坪	つぼ	坪数, 建坪	
爪	つめ つま	爪, 生爪 爪先, 爪弾く	
鶴	つる	鶴, 千羽鶴	
低	テイ ひくい ひくめる ひくまる	低級, 低気圧, 高低 低い, 低さ 低める 低まる	
呈	テイ	呈上, 進呈, 贈呈	
廷	テイ	宮廷, 法廷, 出廷	
弟	テイ ダイ デ おとうと	弟妹, 義弟, 子弟 兄弟 弟子 弟	
定	テイ ジョウ さだめる さだまる さだか	定価, 安定, 決定 定石, 定紋, 必定 定める, 定め 定まる 定かだ	
底	テイ そこ	底流, 海底, 到底 底, 奥底	
抵	テイ	抵抗, 抵触, 大抵	
邸	テイ	邸宅, 邸内, 私邸	
亭	テイ	亭主, 料亭	
貞	テイ	貞淑, 貞操, 貞節	
帝	テイ	帝王, 帝国, 皇帝	

訂	テイ	訂正, 改訂	
庭	テイ にわ	庭園, 校庭, 家庭 庭, 庭先	
通 (遞)	テイ	通信, 通送, 遞減	
停	テイ	停止, 停車, 調停	
偵	テイ	偵察, 探偵, 内偵	
堤	テイ つつみ	堤防, 防波堤 堤	
提	テイ さげる	提供, 提案, 前提 提げる, 手提げ	⇨ 下げる
程	テイ ほど	程度, 日程, 過程 程, 程遠い, 身の程	
艇	テイ	艦艇, 舟艇, 競艇	
締	テイ しまる しめる	締結 締まる, 締まり 締める, 締め切る, 引き締め	⇨ 閉まる, 絞まる ⇨ 閉める, 絞める
諦	テイ あきらめる	諦観, 諦念 諦める	
泥	デイ どろ	泥土, 雲泥, 拘泥 泥, 泥沼, 泥棒	
的	テキ まと	的中, 目的, 科学的 的, 的外れ	
笛	テキ ふえ	汽笛, 警笛, 牧笛 笛, 口笛	
摘	テキ つむ	摘要, 摘発, 指摘 摘む, 摘み草	
滴	テキ しづく したたる	水滴, 点滴, 一滴 滴 滴る, 滴り	
適	テキ	適切, 適度, 快適	
敵	テキ	敵, 敵意, 匹敵	

溺	かたき	敵, 敵役, 商売敵	
	デキ	溺愛, 溺死	* [(22) ページ参照]
	おぼれる	溺れる	
迭	テツ	更迭	
哲	テツ	哲学, 哲人, 先哲	
鉄 (鐵)	テツ	鉄道, 鉄筋, 鋼鉄	
徹	テツ	徹底, 徹夜, 貫徹	
撤	テツ	撤去, 撤回, 撤兵	
天	テン	天地, 天然, 雨天	
	あめ	天	
	あま	天の川, 天下り	
典	テン	典拠, 古典, 式典	
店	テン	店舗, 開店, 本店	
	みせ	店, 夜店	
点 (點)	テン	点線, 点火, 採点	
展	テン	展示, 展開, 発展	
添	テン	添加, 添付, 添削	
	そえる	添える, 添え手紙	
	そう	添う, 付き添う	⇔ 沿う
転 (轉)	テン	転出, 回転, 運転	
	ころがる	転がる	
	ころげる	転げる	
	ころがす	転がす	
	ころぶ	転ぶ	
墳	テン	装墳, 補墳	* [(22) ページ参照]
田	デン	田地, 水田, 油田	田舎 (いなか)
	た	田, 田植え	
伝 (傳)	デン	伝言, 伝統, 宣伝	伝馬船 (てんません)
	つたわる	伝わる	
	つたえる	伝える, 言い伝え	
	つたう	伝う	手伝 (てつだ) う

殿	デン テン との どの	殿堂, 宮殿, 貴殿 御殿 殿様, 殿方 ○○殿	
電	デン	電気, 電報, 発電	
斗	ト	斗酒, 北斗七星	
吐	ト はく	吐露, 吐血, 音吐朗々 吐く, 吐き気	
妬	ト <u>ねたむ</u>	<u>嫉妬</u> <u>妬む</u>	
徒	ト	徒歩, 徒勞, 信徒	
途	ト	途上, 帰途, 前途	
都 (都)	ト ツ みやこ	都会, 都心, 首都 都合, 都度 都, 都落ち	
渡	ト わたる わたす	渡航, 渡河, 讓渡 渡る, 渡り 渡す, 渡し	
塗	ト ぬる	塗布, 塗装, 塗料 塗る, 塗り	
賭	ト <u>かける</u>	<u>賭場, 賭博</u> <u>賭ける, 賭け</u>	* [(22) ページ参照] ⇔ <u>掛ける, 懸ける, 架ける</u>
土	ド ト つち	土木, 国土, 粘土 土地 土, 赤土	土産 (みやげ)
奴	ド	奴隸, 守銭奴	
努	ド つとめる	努力 努める, 努めて [副]	⇔ 勤める, 務める
度	ド ト タク たび	度胸, 制度, 限度 法度 支度 度, 度重なる, この度	
怒	ド	怒号, 怒気, 激怒	

	いかる おこる	怒る, 怒り, 怒り狂う 怒る	
刀	トウ かたな	刀剣, 短刀, 名刀 刀	太刀 (たち) 竹刀 (しな)
冬	トウ ふゆ	冬季, 冬至, 越冬 冬, 冬枯れ	
灯 (燈)	トウ ひ	灯火, 電灯, 点灯 灯	⇨ 火
当 (當)	トウ あたる あてる	当惑, 当然, 妥当 当たる, 当たり 当てる, 当て	⇨ <u>宛</u> てる, 充てる
投	トウ なげる	投資, 投下, 暴投 投げる, 身投げ	投網 (とあみ)
豆	トウ ズ まめ	豆腐, 納豆 大豆 豆, 豆粒, 煮豆	小豆 (あずき)
東	トウ ひがし	東西, 東国, 以東 東, 東側	
到	トウ	到着, 到底, 周到	
逃	トウ にげる にがす のがす のがれる	逃走, 逃亡, 逃避 逃げる, 夜逃げ 逃がす 逃す, 見逃す 逃れる, 一時逃れ	
倒	トウ たおれる たおす	倒産, 压倒, 傾倒 倒れる, 共倒れ 倒す	
凍	トウ こおる こごえる	凍結, 凍死, 冷凍 凍る, 凍り付く 凍える, 凍え死に	
唐	トウ から	唐本, 唐突 唐織, 唐草模様	
島	トウ しま	島民, 半島, 列島 島, 島国, 離れ島	

桃

トウ
もも

桃源郷, 白桃, 桜桃
桃, 桃色

討

トウ
うつ

討伐, 討論, 検討
討つ, 敵討ち

⇨ 打つ, 撃つ

透

トウ
すく
すかす
すける

透写, 透明, 浸透
透く
透かす, 透かし
透ける

党 (黨)

トウ

党派, 政党, 徒党

悼

トウ
いたむ

悼辞, 哀悼, 追悼
悼む

⇨ 痛む, 傷む

盗 (盜)

トウ
ぬすむ

盗難, 盗用, 強盗
盗む, 盗み

陶

トウ

陶器, 陶醉, 薰陶

塔

トウ

五重の塔, 石塔

搭

トウ

搭載, 搭乘, 搭乘券

棟

トウ
むね
むな

上棟, 病棟
棟, 別棟
棟木

湯

トウ
ゆ

湯治, 熱湯, 微温湯
湯, 湯水, 煮え湯

痘

トウ

種痘, 水痘, 天然痘

登

トウ
ト
のぼる

登壇, 登校, 登記
登山, 登城
登る, 山登り

⇨ 上る, 昇る

答

トウ
こたえる
こたえ

答弁, 応答, 問答
答える
答え

⇨ 応える

等

トウ
ひとしい

等分, 等級, 平等
等しい

筒

トウ
つつ

封筒, 水筒, 円筒形
筒, 筒抜け

統	トウ すべる	統一, 統計, 伝統 統べる	
稲 (稻)	トウ いね いな	水稻, 陸稻 稲, 稲刈り 稲作, 稲穂	
踏	トウ ふむ ふまえる	踏破, 踏襲, 高踏的 踏む, 足踏み 踏まえる	
糖	トウ	糖分, 砂糖, 製糖	
頭	トウ ズ ト あたま かしら	頭部, 年頭, 船頭 頭脳, 頭上, 頭痛 音頭 頭, 頭金, 頭打ち 頭, 頭文字, 旗頭	
謄	トウ	謄写, 謄本	
藤	トウ ふじ	葛藤 藤, 藤色	
鬪 (鬪)	トウ たたかう	鬪争, 鬪志, 戦鬪 鬪う, 鬪い	⇔ 戦う
騰	トウ	騰貴, 暴騰, 沸騰	
同	ドウ おなじ	同情, 異同, 混同 同じ, 同じだ, 同い年	
洞	ドウ ほら	洞穴, 洞察, 空洞 洞穴	
胴	ドウ	胴体, 双胴船	
動	ドウ うごく うごかす	動物, 活動, 騒動 動く, 動き 動かす	
堂	ドウ	堂々と, 殿堂, 母堂	
童	ドウ わらべ	童話, 童心, 児童 童, 童歌	
道	ドウ トウ	道路, 道徳, 報道 神道	

	みち	道, 近道	
働	ドウ はたらく	労働, 実働 働く, 働き	
銅	ドウ	銅器, 銅像, 青銅	
導	ドウ みちびく	導入, 指導, 半導体 導く, 導き	
瞳	<u>ドウ</u> <u>ひとみ</u>	<u>瞳孔</u> <u>瞳</u>	
峠	とうげ	峠, 峠道	
匿	トク	匿名, 隠匿	
特	トク	特殊, 特産, 独特	
得	トク える うる	得意, 会得, 損得 得る 得るところ, 書き得る	⇨ 獲る
督	トク	督促, 督励, 監督	
徳 (徳)	トク	徳義, 徳用, 道德	
篤	トク	篤農, 危篤, 懇篤	
毒	ドク	毒薬, 毒舌, 中毒	
独 (獨)	ドク ひとり	独立, 独断, 单独 独り, 独り者	
読 (讀)	ドク トク トウ よむ	読書, 音読, 購読 読本 読点, 句読点 読む, 読み	読経 (どきょう) ⇨ 詠む
栃	<u>とち</u>		<u>栃木県</u>
凸	トツ	凸版, 凸レンズ, 凹凸	凸凹 (でこぼこ)
突 (突)	トツ つく	突然, 突端, 衝突 突く, 一突き	
届 (届)	とどける とどく	届ける, 届け 届く, 行き届く	

屯	トン	駐屯, 駐屯地	
豚	トン ぶた	養豚 豚, 子豚	
頓	トン	頓着, 整頓	
貪	ドン むさぼる	貪欲 貪る	
鈍	ドン にぶい にぶる	鈍感, 鈍角, 愚鈍 鈍い, 鈍さ 鈍る	
曇	ドン くもる	曇天 曇る, 曇り	
丼	どんぶり どん	丼, 丼飯 牛丼, 天丼	
那	ナ	刹那, 旦那	
奈	ナ	奈落	
内	ナイ ダイ うち	内外, 内容, 家内 内裏, 参内 内, 内側, 内気	
梨	なし	梨	
謎 [謎]	なぞ	謎	[謎] = 許容字体, *[(20)ページ参照]
鍋	なべ	鍋, 鍋料理	
南	ナン ナ みなみ	南北, 南端, 指南 南無 南, 南向き	
軟	ナン やわらか やわらかい	軟化, 軟弱, 硬軟 軟らかだ 軟らかい	⇨ 柔らか ⇨ 柔らかい
難 (難)	ナン かたい むづかしい	難易, 困難, 非難 許し難い, 有り難い 難しい, 難しさ	「むづかしい」とも。
二	ニ ふた	二番目, 二分, 十二月 二重まぶた	十重二十重 (とえはたえ) 二十・二十歳 (はたち)

	ふたつ	二つ	二十日 (はつか) 二人 (ふたり) 二日 (ふつか) ⇔ 双
尼	ニ あま	尼僧, 修道尼 尼, 尼寺	
式 (貳)	ニ	貳万円	
匂	におう	匂う, 匂い	⇔ 臭う
肉	ニク	肉類, 肉薄, 筋肉	
虹	にじ	虹	
日	ニチ ジツ ひ か	日時, 日光, 毎日 連日, 平日, 休日 日, 日帰り, 月曜日 三日, 十日	明日 (あす) 昨日 (きのう) 今日 (きょう) 一日 (ついたち) 二十日 (はつか) 日和 (ひより) 二日 (ふつか)
入	ニユウ いる いれる はいる	入学, 侵入, 収入 寝入る, 大入り, 気に入る 入れる, 入れ物 入る	⇔ 要る
乳	ニユウ ちち ち	乳児, 乳液, 牛乳 乳 乳首, 乳飲み子	乳母 (うば)
尿	ニョウ	尿意, 尿素, 夜尿症	
任	ニン まかせる まかす	任意, 任務, 責任 任せる, 人任せ 任す	
妊	ニン	妊娠, 懐妊, 不妊	
忍	ニン しのぶ しのばせる	忍者, 忍耐, 残忍 忍ぶ, 忍び足, 忍びやかだ 忍ばせる	
認	ニン みとめる	認識, 承認, 否認 認める	
寧	ネイ	安寧, 丁寧	
熱	ネツ	熱病, 熱湯, 情熱	

年	あつい	熱い, 熱さ	⇒ 暑い
念	ネン	年代, 少年, 豊年	
捻	とし	年, 年子, 年寄り	今年 (ことし)
粘	ネン	念願, 信念, 断念	
燃	ネン	捻挫, 捻出	
惱 (惱)	ネン	粘土, 粘液, 粘着	
納	ねばる	粘る, 粘り, 粘り強い	
	ネン	燃烧, 燃料, 可燃性	
	もえる	燃える, 燃え尽きる	
	もやす	燃やす	
	もす	燃す	
	ノウ	悩殺, 苦悩, 煩惱	
	なやむ	悩む, 悩み, 悩ましい	
	なやます	悩ます	
	ノウ	納入, 納涼, 収納	
	ナツ	納得, 納豆	
	ナ	納屋	
	ナン	納戸	
	トウ	出納	
	おさめる	納める, 御用納め	⇒ 収める
	おさまる	納まる, 納まり	⇒ 収まる
能	ノウ	能力, 芸能, 効能	
脳 (脳)	ノウ	脳髓, 首脳, 頭脳	
農	ノウ	農業, 農具, 酪農	
濃	ノウ	濃厚, 濃紺, 濃淡	
把	こい	濃い, 濃さ	
波	ハ	把握, 把持, 一把 (ワ), 三把 (バ), 十把 (パ)	「把(ハ)」は, 前に来る音によって「ワ」, 「バ」, 「パ」になる。
派	ハ	波浪, 波及, 電波	波止場 (はとば)
破	なみ	波, 波立つ, 荒波	
	ハ	派遣, 派生, 流派	
	ハ	破壊, 破産, 撃破, 破棄	
	やぶる	破る, 型破り	

	やぶれる	破れる, 破れ	⇒ 敗れる
覇 (覇)	ハ	覇権, 覇者, 制覇	
馬	バ うま ま	馬車, 競馬, 乗馬 馬, 馬小屋 馬子, 絵馬	伝馬船 (てんません)
婆	バ	老婆, 産婆役	
罵	バ ののしる	罵声, 罵倒 罵る	
拝 (拜)	ハイ おがむ	拝見, 拝礼, 崇拜 拝む, 拝み倒す	
杯	ハイ さかづき	祝杯, 銀杯, 一杯 杯	
背	ハイ せ せい そむく そむける	背後, 背景, 腹背 背, 背丈, 背中 背, 上背 背く 背ける	
肺	ハイ	肺臓, 肺炎, 肺活量	
俳	ハイ	俳優, 俳句, 俳味	
配	ハイ くばる	配分, 交配, 心配 配る	
排	ハイ	排斥, 排気, 排除	
敗	ハイ やぶれる	敗北, 腐敗, 失敗 敗れる	⇒ 破れる
廃 (廢)	ハイ すたれる すたる	廃止, 廃物, 荒廃 廃れる 廃る, はやり廃り	
輩	ハイ	輩出, 同輩, 先輩	
売 (賣)	バイ うる うれる	売買, 売品, 商売 売る, 売り出す 売れる, 売れ行き	
倍	バイ	倍率, 倍加, 二倍	

梅 (梅)	バイ うめ	梅園, 梅雨, 紅梅 梅, 梅見, 梅酒	梅雨 (つゆ)
培	バイ つちかう	培養, 栽培 培う	
陪	バイ	陪席, 陪食, 陪審	
媒	バイ	媒介, 媒体, 触媒	
買	バイ かう	買収, 売買, 購買 買う, 買い物	
賠	バイ	賠償	
白	ハク ビャク しろ しら しろい	白髪, 紅白, 明白 黒白 白, 白黒, 真っ白 白壁, 白む, 白ける 白い	白髪 (しらがり)
伯	ハク	伯仲, 画伯	伯父 (おじ) 伯母 (おば)
拍	ハク ヒョウ	拍手, 拍車, 一拍 拍子	
泊	ハク とまる とめる	宿泊, 停泊, 外泊 泊まる, 泊まり 泊める	⇨ 止まる, 留まる ⇨ 止める, 留める
迫	ハク せまる	迫害, 脅迫, 切迫 迫る	
剥	ハク <u>はがす</u> <u>はぐ</u> <u>はがれる</u> <u>はげる</u>	<u>剥製</u> , <u>剥奪</u> <u>剥がす</u> <u>剥ぐ</u> <u>剥がれる</u> <u>剥げる</u>	* [(23) ページ参照]
舶	ハク	舶来, 船舶	
博	ハク バク	博識, 博覧, 博士号 博労, 博徒	博士 (はかせ)
薄	ハク うすい うすめる	薄情, 薄謝, 輕薄 薄い, 薄着, 品薄 薄める	

	うすまる うすらぐ うすれる	薄まる 薄らぐ 薄れる
麦 (麥)	バク むぎ	麦芽, 麦秋, 精麦 麦, 麦粉, 小麦
漠	バク	漠然, 広漠, 砂漠
縛	バク しばる	束縛, 捕縛 縛る, 金縛り
爆	バク	爆発, 爆弾, 原爆
箱	はこ	箱, 箱庭, 小箱
箸	はし	箸
畑	はた はたけ	畑, 畑作 畑, 畑違い, 麦畑
肌	はだ	肌, 肌色, 地肌
八	ハチ や やつ やっつ よう	八月, 八方 八重桜 八つ当たり 八つ 八日
鉢	ハチ ハツ	鉢, 植木鉢 衣鉢
発 (發)	ハツ ホツ	発明, 発射, 突発 発作, 発端, 発起
髪 (髮)	ハツ かみ	頭髮, 白髪, 整髪 髪, 髪結び, 日本髪
伐	バツ	伐採, 征伐, 殺伐
抜 (拔)	バツ ぬく ぬける ぬかす ぬかる	抜群, 選抜 抜く, くぎ抜き 抜ける, 気抜け 抜かす 抜かる, 抜かり
罰	バツ バチ	罰金, 処罰, 天罰 罰当たり

* [(22)ページ【賭】参照]

八百屋 (やおや)
八百長 (やおちょう)

白髪 (しらがり)

閥	バツ	門閥, 財閥, 派閥	
反	ハン ホン タン そる そらす	反映, 反対, 違反 謀反 反物 反る, 反り 反らす	
半	ハン なかば	半分, 半面, 大半 半ば	
汜	ハン	汎濫	
犯	ハン おかす	犯罪, 共犯, 侵犯 犯す	⇒ 侵す, 冒す
帆	ハン ほ	帆船, 帆走, 出帆 帆, 帆柱, 帆前船	
汎	ハン	汎用	
伴	ハン バン ともなう	同伴, 随伴 伴奏, 伴食 伴う	
判	ハン バン	判定, 判明, 裁判 A判, 大判	
坂	ハン さか	急坂 坂, 坂道, 下り坂	
阪	ハン	阪神, 京阪	大阪 (おおさか) 府
板	ハン バン いた	乾板, 鉄板 黒板, 掲示板 板, 板前	
版	ハン	版面, 写真版, 出版	
班	ハン	班長, 救護班	
畔	ハン	湖畔	
般	ハン	諸般, 一般, 先般	
販	ハン	販売, 販路, 市販	
斑	ハン	斑点	

飯	ハン めし	御飯, 炊飯, 赤飯 飯, 飯粒, 五日飯	
搬	ハン	搬入, 搬出, 運搬	
煩	ハン ボン わずらう わずらわす	煩雑 煩惱 煩う, 煩い, 煩わしい 煩わす	⇨ 患う
頒	ハン	頒布, 頒価	
範	ハン	範囲, 師範, 模範	
繁 (繁)	ハン	繁栄, 繁茂, 繁華街	
藩	ハン	藩主, 廃藩	
晩 (晩)	バン	晩夏, 今晚, 早晩	
番	バン	番人, 番組, 順番	
蛮 (蠻)	バン	蛮行, 蛮人, 野蛮	
盤	バン	基盤, 円盤, 碁盤	
比	ヒ くらべる	比較, 比例, 無比 比べる, 背比べ	
皮	ヒ かわ	皮膚, 皮相, 樹皮 皮, 毛皮	⇨ 革
妃	ヒ	妃殿下, 王妃	
否	ヒ いな	否定, 適否, 安否 否, 否めない	
批	ヒ	批判, 批評, 批准	
彼	ヒ かれ かの	彼我, 彼岸 彼, 彼ら 彼女	
披	ヒ	披見, 披露, 直披	
肥	ヒ こえる こえ	肥大, 肥料, 施肥 肥える 肥, 下肥	

	こやす こやし	肥やす 肥やし	
非	ヒ	非難, 非常, 是非	
卑 (卑)	ヒ いやしい いやしむ いやしめる	卑近, 卑屈, 卑下 卑しい, 卑しさ 卑しむ 卑しめる	
飛	ヒ とぶ とばす	飛行, 飛躍, 雄飛 飛ぶ, 飛び火 飛ばす	⇨ 跳ぶ
疲	ヒ つかれる	疲労, 疲弊 疲れる, 疲れ	
秘 (祕)	ヒ ひめる	秘密, 秘書, 神秘 秘める	
被	ヒ こうむる	被服, 被害, 被告 被る	
悲	ヒ かなしい かなしむ	悲喜, 悲劇, 慈悲 悲しい, 悲しがる 悲しむ, 悲しみ	
扉	ヒ とびら	開扉, 門扉 扉	
費	ヒ ついやす ついでる	費用, 消費, 旅費 費やす 費える, 費え	
碑 (碑)	ヒ	碑銘, 石碑, 記念碑	
罷	ヒ	罷業, 罷免	
避	ヒ さける	避難, 逃避, 不可避 避ける	
尾	ビ お	尾行, 首尾, 末尾 尾, 尾頭付き, 尾根	尻尾 (しっぽ)
眉	ビ ミ まゆ	眉目, 焦眉 眉間 眉毛	

美

ビ
うつくしい

美醜, 美術, 賛美
美しい, 美しさ

備

ビ
そなえる
そなわる

備考, 守備, 準備
備える, 備え
備わる

⇨ 供える

微

ビ

微細, 微笑, 衰微

鼻

ビ
はな

鼻音, 鼻孔, 耳鼻科
鼻, 鼻血, 小鼻

膝

ひざ

膝, 膝頭

肘

ひじ

肘, 肘掛け

匹

ヒツ
ひき

匹敵, 匹夫, 馬匹
数匹

必

ヒツ
かならず

必然, 必死, 必要
必ず, 必ずしも

泌

ヒツ
ヒ

分泌
泌尿器

「分泌」は、「ブンビ」とも。

筆

ヒツ
ふで

筆力, 筆記, 毛筆
筆, 筆先

姫

ひめ

姫, 姫松

百

ヒヤク

百貨店, 百科全書, 数百

八百屋 (やおや)
八百長 (やおちょう)

氷

ヒョウ
こおり
ひ

氷点, 冰山, 結氷
氷
氷雨

表

ヒョウ
おもて
あらわす
あらわれる

表面, 代表, 発表
表, 表門, 裏表
表す
表れる

⇨ 面
⇨ 現す, 著す
⇨ 現れる

俵

ヒョウ
たわら

一俵, 土俵
俵, 米俵

票

ヒョウ

票決, 投票, 伝票

評

ヒョウ

評価, 評判, 定評

漂	ヒョウ ただよう	漂着, 漂白, 漂流 漂う	
標	ヒョウ	標準, 標本, 目標	
苗	ビョウ なえ なわ	種苗, 痘苗 苗, 苗木 苗代	早苗 (さなえ)
秒	ビョウ	秒針, 秒速, 寸秒	
病	ビョウ ヘイ やむ やまい	病気, 病根, 看病 疾病 病む, 病み付き 病	
描	ビョウ えがく かく	描写, 素描, 点描 描く, 描き出す 描く, 絵描き	⇄ 書く
猫	ビョウ ねこ	愛猫 猫	
品	ヒン しな	品評, 作品, 上品 品, 品物, 手品	
浜 (濱)	ヒン はま	海浜 浜, 浜辺, 砂浜	
貧	ヒン ビン まずしい	貧富, 貧弱, 清貧 貧乏 貧しい, 貧しさ	
賓 (賓)	ヒン	賓客, 主賓, 來賓	
頻 (頻)	ヒン	頻度, 頻発, 頻繁	
敏 (敏)	ビン	敏速, 機敏, 鋭敏	
瓶 (瓶)	ビン	瓶, 瓶詰, 花瓶	
不	フ ブ	不当, 不利, 不賛成 不作法, 不用心	
夫	フ フウ おっと	夫妻, 農夫, 凡夫 夫婦, 工夫 夫	

父	フ ちち	父母, 父兄, 祖父 父, 父親	叔父・伯父 (おじ) 父 (とう) さん
付	フ つける つく	付与, 交付, 給付 付ける, 名付け 付く, 気付く	⇨ 着ける, 就ける ⇨ 着く, 就く
布	フ ぬの	布陣, 綿布, 分布 布, 布地, 布目	
扶	フ	扶助, 扶養, 扶育	
府	フ	府県, 首府, 政府	
怖	フ こわい	恐怖 怖い, 怖がる	
阜	フ		岐阜県
附	フ	附属, 寄附	
訃	フ	訃報	
負	フ まける まかす おう	負担, 負傷, 勝負 負ける, 負け 負かす 負う, 負い目, 背負う	
赴	フ おもむく	赴任 赴く	
浮	フ うく うかれる うかぶ うかべる	浮沈, 浮力, 浮薄 浮く, 浮き, 浮世絵 浮かれる 浮かぶ 浮かべる	浮気 (うわき) 浮 (うわ) つく
婦	フ	婦人, 夫婦, 主婦	
符	フ	符号, 切符, 音符	
富	フ フウ とむ とみ	富強, 富裕, 貧富 富貴 富む, 富み栄える 富	富山 (とやま) 県 「富貴」は, 「フツキ」とも。
普	フ	普通, 普遍, 普請	

腐	フ くさる くされる くさらす	腐心, 腐敗, 陳腐 腐る 腐れ縁, ふて腐れる 腐らす	
敷	フ しく	敷設 敷く, 敷石, 屋敷	棧敷 (さじき)
膚	フ	皮膚, 完膚	
賦	フ	賦役, 月賦, 天賦	
譜	フ	系譜, 楽譜, 年譜	
侮 (侮)	ブ あなどる	侮辱, 輕侮 侮る, 侮り	
武	ブ ム	武力, 武士, 文武 武者人形, 荒武者	
部	ブ	部分, 全部, 本部	部屋 (へや)
舞	ブ まう まい	舞踏, 舞台, 鼓舞 舞う, 舞い上がる 舞, 舞扇	
封	フウ ハウ	封鎖, 封書, 密封 封建的, 素封家	
風	フウ フ かぜ かざ	風力, 風俗, 強風 風情, 中風 風, そよ風 風上, 風車	風邪 (かぜ)
伏	フク ふせる ふす	伏線, 起伏, 潜伏 伏せる, うつ伏せ 伏す, 伏し拝む	
服	フク	服装, 服従, 洋服	
副	フク	副業, 副作用, 正副	
幅	フク はば	幅員, 振幅, 全幅 幅, 横幅	
復	フク	復活, 往復, 報復	
福 (福)	フク	福祉, 福德, 幸福	

腹	フク はら	腹案, 空腹, 山腹 腹, 腹芸, 太っ腹	
複	フク	複数, 複雑, 重複	
覆	フク おおう くつがえす くつがえる	覆面, 転覆 覆う, 覆い 覆す 覆る	
払 (拂)	フツ はらう	払暁, 払底 払う, 払い, 月払い	
沸	フツ わく わかす	沸騰, 沸点, 煮沸 沸く, 沸き上がる 沸かす, 湯沸かし	⇒ 湧く
仏 (佛)	ブツ ほとけ	仏事, 仏像, 念仏 仏, 仏様, 生き仏	
物	ブツ モツ もの	物質, 人物, 動物 食物, 進物, 禁物 物, 物語, 品物	果物 (くだもの)
粉	フン こ こな	粉末, 粉碎, 粉飾 粉, 小麦粉 粉, 粉雪	
紛	フン まぎれる まぎらす まぎらわす まぎらわしい	紛失, 紛争, 内紛 紛れる, 紛れ 紛らす 紛らわす 紛らわしい	
雰	フン	雰囲気	
噴	フン ふく	噴火, 噴出, 噴水 噴く, 噴き出す	⇒ 吹く
墳	フン	墳墓, 古墳	
憤	フン いきどおる	憤慨, 義憤, 発憤 憤る, 憤り	
奮	フン ふるう	奮起, 奮発, 興奮 奮う, 奮い立つ, 奮って [副]	⇒ 震う, 振るう

分

ブン 分解, 自分, 水分
 フン 分別, 分銅, 三十分
 ブ 一分一厘, 五分
 わける 分ける, 引き分け
 わかれる 分かれる
 わかる 分かる
 わかつ 分かつ, 分かち合う

大分 (おおいた) 県

⇨ 別れる

文

ブン 文学, 文化, 作文
 モン 文字, 経文, 天文学
 ふみ 恋文

「文字」は、「モジ」とも。

聞

ブン 新聞, 風聞, 見聞
 モン 聴聞, 前代未聞
 きく 聞く, 人聞き
 きこえる 聞こえる, 聞こえ

⇨ 聴く

丙

ヘイ 丙種, 甲乙丙

平

ヘイ 平面, 平和, 公平
 ビョウ 平等
 たいら 平らな土地, 平らげる
 ひら 平手, 平謝り, 平たい

兵

ヘイ 兵器, 兵隊, 撤兵
 ビョウ 兵糧, 雑兵

併 (併)

ヘイ 併合, 併用, 合併
 あわせる 併せる, 併せて [接]

⇨ 合わせる

並 (竝)

ヘイ 並行, 並列, 並立
 なみ 並の品, 並木, 足並み
 ならべる 並べる, 五目並べ
 ならぶ 並ぶ, 並び
 ならびに 並びに

柄

ヘイ 横柄, 権柄ずく
 がら 柄, 家柄, 身柄
 え 柄

陸

ヘイ 陸下

閉

ヘイ 閉店, 閉口, 密閉
 とじる 閉じる, 閉じ込める
 とぎす 閉ざす
 しめる 閉める

⇨ 締める

	しまる	閉まる	⇨ 締まる
塀 (塀)	ヘイ	塀, 板塀	
幣	ヘイ	貨幣, 紙幣, 御幣担ぎ	
弊	ヘイ	弊害, 旧弊, 疲弊	
蔽	ヘイ	隠蔽	* [(22) ページ参照]
餅 [餅]	ヘイ	煎餅	[餅] = 許容字体,
(餅)	もち	餅屋, 尻餅	* [(22) ページ [餅] 参照]
米	ベイ マイ こめ	米作, 米価, 米食 精米, 新米, 白米 米, 米粒	
壁	ヘキ かべ	壁面, 壁画, 岸壁 壁, 壁土, 白壁	
璧	ヘキ	完璧, 双璧	
癖	ヘキ くせ	習癖, 病癖, 潔癖 癖, 口癖	
別	ベツ わかれる	別離, 区別, 特別 別れる, 別れ	⇨ 分かれる
蔑	ベツ さげすむ	蔑視, 輕蔑 蔑む	
片	ヘン かた	紙片, 破片, 断片 片方, 片手, 片一方	
辺 (邊)	ヘン あたり べ	辺境, 周辺, その辺 辺り 海辺, 岸辺	
返	ヘン かえす かえる	返却, 返事, 返礼 返す, 仕返し 返る, 寝返り	⇨ 帰す ⇨ 帰る
変 (變)	ヘン かわる かえる	変化, 異変, 大変 変わる, 変わり種 変える	⇨ 替わる, 代わる, 換わる ⇨ 替える, 代える, 換える
偏	ヘン かたよる	偏向, 偏見, 偏食 偏る, 偏り	

遍	ヘン	遍歴, 普遍, 一遍	
編	ヘン あむ	編集, 編成, 長編 編む, 手編み	
弁 (辨) (瓣) (辯)	ベン	弁償, 花卉, 雄弁	
便	ベン ビン たより	便利, 便法, 簡便 便乗, 郵便, 定期便 便り, 初便り, 花便り	
勉 (勉)	ベン	勉強, 勉学, 勤勉	
歩 (歩)	ホ ブ フ あるく あゆむ	歩道, 徒歩, 進歩 歩合, 日歩 歩 歩く 歩む, 歩み	
保	ホ たもつ	保護, 保存, 担保 保つ	
哺	ホ	<u>哺乳類</u>	
捕	ホ とらえる とられる とる つかまえる つかまる	捕獲, 捕虜, 逮捕 捕らえる 捕られる 捕る, 捕り物 捕まえる 捕まる	⇨ 捉える ⇨ 取る, 採る
補	ホ おぎなう	補欠, 補充, 候補 補う, 補い	
舗	ホ	舗装, 店舗	<u>老舗 (しにせ)</u>
母	ボ はは	母性, 父母, 祖母 母, 母親	乳母 (うば) 叔母・伯母 (おば) 母屋・母家 (おもや) <u>母 (かあ) さん</u>
募	ボ つのる	募金, 募集, 応募 募る	
墓	ボ	墓地, 墓参, 墓穴	

慕

はか

墓, 墓参り

暮

ボ
したう

慕情, 敬慕, 思慕
慕う, 慕わしい

簿

ボ
くれる
くらす

暮春, 歳暮, 薄暮
暮れる, 暮れ
暮らす, 暮らし

方

ボ

簿記, 名簿, 帳簿

ホウ
かた

方法, 方角, 地方
お乗りの方, 話し方, 敵方

行方 (ゆくえ)

包

ホウ
つつむ

包囲, 包容力, 内包
包む, 包み, 小包

芳

ホウ
かんばしい

芳香, 芳紀, 芳志
芳しい, 芳しさ

邦

ホウ

邦楽, 本邦, 連邦

奉

ホウ
ブ
たてまつる

奉納, 奉仕, 信奉
奉行
奉る

宝 (寶)

ホウ
たから

宝石, 国宝, 財宝
宝, 宝船, 子宝

抱

ホウ
だく
いだく
かかえる

抱負, 抱懐, 介抱
抱く
抱く
抱える, 一抱え

放

ホウ
はなす
はなつ
はなれる
ほうる

放送, 放棄, 追放
放す, 手放す
放つ
放れる
放る

⇔ 離す

⇔ 離れる

法

ホウ
ハツ
ホツ

法律, 文法, 方法
法度
法主

「法主」は、「ホウシュ」とも。

泡

ホウ
あわ

気泡, 水泡, 発泡
泡, 泡立つ

胞

ホウ

胞子, 同胞, 細胞

俸	ホウ	俸給, 年俸, 本俸	
倣	ホウ	模倣	
	ならう	倣う	⇨ 習う
峰	ホウ	秀峰, 霊峰, 連峰	
	みね	峰, 剣が峰	
砲	ホウ	砲撃, 大砲, 鉄砲	
崩	ホウ	崩壊	雪崩 (なだれ)
	くずれる	崩れる, 山崩れ	
	くずす	崩す	
訪	ホウ	訪問, 来訪, 探訪	
	おとずれる	訪れる, 訪れ	
	たずねる	訪ねる	⇨ 尋ねる
報	ホウ	報酬, 報告, 情報	
	むくいる	報いる, 報い	
蜂	ホウ	蜂起	
	はち	蜜蜂	
豊 (豊)	ホウ	豊作, 豊満, 豊富	
	ゆたか	豊かだ	
飽	ホウ	飽和, 飽食	
	あきる	飽きる, 飽き, 見飽きる	
	あかす	……に飽かして	
褒 (褒)	ホウ	褒章, 褒美, 過褒	
	ほめる	褒める	
縫	ホウ	縫合, 縫製, 裁縫	
	ぬう	縫う, 縫い目	
亡	ボウ	亡父, 亡命, 存亡	
	モウ	亡者	
	ない	亡い, 亡き人, 亡くす, 亡くなる	多く文語の「亡き」で使う。 ⇨ 無い
乏	ボウ	欠乏, 貧乏, 耐乏	
	とぼしい	乏しい, 乏しさ	
忙	ボウ	忙殺, 多忙, 繁忙	
	いそがしい	忙しい, 忙しさ	

坊
妨
忘
防
房
肪
某
冒
剖
紡
望
傍
帽
棒
貿
貌
暴
膨

ボウ ボツ	坊主, 朝寝坊, 赤ん坊 坊ちゃん
ボウ さまたげる	妨害 妨げる, 妨げ
ボウ わすれる	忘却, 忘年会, 備忘 忘れる, 物忘れ
ボウ ふせぐ	防備, 堤防, 予防 防ぐ, 防ぎ
ボウ ふさ	独房, 冷房, 僧房 房, 一房, 乳房
ボウ	脂肪
ボウ	某氏, 某国, 某所
ボウ おかす	冒険, 冒頭, 感冒 冒す
ボウ	解剖
ボウ つむぐ	紡績, 混紡 紡ぐ
ボウ モウ のぞむ	望郷, 希望, 人望 所望, 大望, 本望 望む, 望み, 望ましい
ボウ かたわら	傍線, 傍聴, 路傍 傍ら
ボウ	帽子, 脱帽, 無帽
ボウ	棒グラフ, 棒読み, 鉄棒
ボウ	貿易
ボウ	変貌, 美貌
ボウ バク あばく あばれる	暴言, 横暴, 乱暴 暴露 暴く, 暴き出す 暴れる, 大暴れ
ボウ	膨大

⇔ 犯す, 侵す

「大望」は、「タイボウ」とも。

	ふくらむ ふくれる	膨らむ, 膨らみ 膨れる, 青膨れ	
謀	ボウ ム はかる	謀略, 無謀, 首謀者 謀反 謀る	⇨ 計る, 量る, 図る
頰	ほお	頰, 頰張る	* [(22) ページ参照] 「頰」は, 「ほほ」とも。
北	ホク きた	北進, 北方, 敗北 北, 北風, 北半球	
木	ボク モク き こ	木石, 大木, 土木 木造, 樹木, 材木 木, 並木, 拍子木 木立, 木陰	木綿 (もめん)
朴	ボク	純朴, 素朴	
牧	ボク まき	牧場, 牧師, 遊牧 牧場	
睦	ボク	親睦, 和睦	
僕	ボク	僕, 公僕	
墨 (墨)	ボク すみ	筆墨, 白墨, 遺墨 墨, 墨絵, 眉墨	
撲	ボク	撲殺, 撲滅, 打撲	相撲 (すもう)
没	ボツ	没収, 没交渉, 出沒	
勃	ボツ	勃興, 勃発	
堀	ほり	堀, 外堀, 釣堀	
本	ホン もと	本質, 本来, 資本 本, 旗本	⇨ 下, 元, 基
奔	ホン	奔走, 奔放, 出奔	
翻 (翻)	ホン ひるがえる ひるがえす	翻意, 翻訳, 翻刻 翻る 翻す	
凡	ボン	凡人, 凡百, 平凡	

	ハン	凡例	
盆	ボン	盆栽, 盆地, 旧盆	
麻	マ あさ	麻薬, 麻醉, 亜麻 麻	
摩	マ	摩擦, 摩天楼	
磨	マ みがく	研磨 磨く, 磨き粉	
魔	マ	魔法, 悪魔, 邪魔	
毎 (毎)	マイ	毎度, 毎日, 毎々	
妹	マイ いもうと	姉妹, 義妹, 令妹 妹	
枚	マイ	枚数, 枚挙, 大枚	
昧	<u>マイ</u>	<u>曖昧</u> , <u>三昧</u>	
埋	マイ うめる うまる うもれる	埋没, 埋蔵, 埋葬 埋める, 埋め立て, 穴埋め 埋まる 埋もれる, 埋もれ木	
幕	マク バク	幕切れ, 天幕, 暗幕 幕府, 幕末, 幕僚	
膜	マク	膜質, 鼓膜, 粘膜	
枕	<u>まくら</u>	<u>枕</u> , <u>枕元</u>	
又	また	又, 又は	
末	マツ バツ すえ	末代, 本末, 粉末 末子, 末弟 末, 末っ子, 末頼もしい	「末子」, 「末弟」は, 「マツシ」, 「マツテイ」とも。
抹	マツ	抹殺, 抹消, 一抹	
万 (萬)	マン バン	万一, 万年筆, 巨万 万国, 万端, 万全	
満 (滿)	マン みちる みたす	満月, 満足, 充滿 満ちる, 満ち潮 満たす	

慢
漫
未
味

魅
岬
密
蜜
脈
妙
民
眠

矛
務

無

夢

霧

娘

マン 慢性, 怠慢, 自慢
マン 漫画, 漫步, 散漫
ミ 未来, 未滿, 前代未聞
ミ 味覚, 意味, 興味
あじ 味, 味見, 塩味
あじわう 味わう, 味わい
ミ 魅力, 魅惑, 魅する
みさき 岬
ミツ 密約, 嚴密, 秘密
ミツ 蜜, 蜜月
ミヤク 脈絡, 動脈, 山脈
ミヨウ 妙案, 奇妙, 巧妙
ミン 民族, 民主的, 国民
たみ 民
ミン 不眠, 安眠, 睡眠
ねむる 眠る, 眠り
ねむい 眠い, 眠たい, 眠気
ム 矛盾
ほこ 矛, 矛先
ム 事務, 職務, 義務
つとめる 務める, 務め
つとまる 務まる
ム 無名, 無理, 皆無
ブ 無事, 無礼, 無愛想
ない 無い, 無くす, 無くなる
ム 夢幻, 夢中, 悪夢
ゆめ 夢, 夢見る, 初夢
ム 霧笛, 濃霧, 噴霧器
きり 霧, 霧雨, 朝霧
むすめ 娘, 娘心, 小娘

三味線 (しゃみせん)

⇨ 勤める, 努める

⇨ 勤まる

⇨ 亡い

名	メイ ミヨウ な	名誉, 氏名, 有名 名字, 本名, 大名 名, 名前	仮名 (かな) 名残 (なごり)
命	メイ ミヨウ いのち	命令, 運命, 生命 寿命 命, 命拾い	
明	メイ ミヨウ あかり あかるい あかるむ あからむ あきらか あける あく あくる あかす	明暗, 説明, 鮮明 明日, 光明, 灯明 明かり, 薄明かり 明るい, 明るさ 明るむ 明らむ 明らかだ 明ける, 夜明け 明く 明くる日, 明くる朝 明かす, 種明かし	明日 (あす) ⇨ 開ける, 空ける ⇨ 開く, 空く
迷	メイ まよう	迷路, 迷惑, 低迷 迷う, 迷い	迷子 (まいご)
冥	メイ ミヨウ	冥福 冥加, 冥利	
盟	メイ	加盟, 同盟, 連盟	
銘	メイ	銘柄, 碑銘	
鳴	メイ なく なる ならす	鳴動, 悲鳴, 雷鳴 鳴く, 鳴き声 鳴る, 耳鳴り 鳴らす	
滅	メツ ほろびる ほろぼす	滅亡, 消滅, 絶滅 滅びる 滅ぼす	
免 (免)	メン まぬかれる	免許, 免除, 放免 免れる	「まぬがれる」とも。
面	メン おも おもて つら	面会, 顔面, 方面 川の面, 面影, 面長 面, 細面 面, 面魂, 鼻面	真面目 (まじめ) ⇨ 表

綿	メン わた	綿布, 綿密, 純綿 綿, 真綿	木綿 (もめん)
麵 (麵)	メン	麵類	
茂	モ しげる	繁茂 茂る, 茂み	
模	モ ボ	模範, 模型, 模倣 規模	
毛	モウ け	毛髪, 毛細管, 不毛 毛, 毛糸, 抜け毛	
妄	モウ ボウ	妄信, 妄想, 迷妄 妄言	「妄言」は、「モウゲン」とも。
盲	モウ	盲点, 盲従, 文盲	
耗	モウ コウ	消耗 心神耗弱	「モウ」は、慣用音。
猛	モウ	猛烈, 猛獣, 勇猛	猛者 (もさ)
網	モウ あみ	網膜, 漁網, 通信網 網, 網戸	投網 (とあみ)
目	モク ボク め ま	目的, 目前, 項目 面目 目, 目立つ, 結び目 目の当たり, 目深	「面目」は、「メンモク」とも。 <u>真面目 (まじめ)</u>
黙 (黙)	モク だまる	黙殺, 暗黙, 沈黙 黙る, 黙り込む	
門	モン かど	門戸, 門下生, 専門 門, 門口, 門松	
紋	モン	紋章, 指紋, 波紋	
問	モン とう とい とん	問題, 問答, 訪問 問う, 問いただす 問い 問屋	「問屋」は、「といや」とも。
冶	ヤ	<u>冶金</u> , <u>陶冶</u>	<u>鍛冶 (かじ)</u>
夜	ヤ	夜半, 深夜, 昼夜	

	よ よる	夜が明ける, 夜風, 月夜 夜, 夜昼	
野	ヤ の	野外, 野性, 分野 野, 野原, 野放し	野良 (のら)
弥 (彌)	や		弥生 (やよい)
厄	ヤク	厄, 厄年, 災厄	
役	ヤク エキ	役所, 役目, 荷役 役務, 使役, 兵役	
約	ヤク	約束, 約半分, 節約	
訳 (譯)	ヤク わけ	訳文, 翻訳, 通訳 訳, 内訳, 申し訳	
薬 (藥)	ヤク くすり	薬剂, 薬局, 火薬 薬, 飲み薬	
躍	ヤク おどる	躍動, 躍起, 飛躍 躍る, 躍り上がる	⇨ 踊る
闇	やみ	闇夜, 暗闇	
由	ユ ユウ ユイ よし	由来, 経由 自由, 理由, 事由 由緒 ……の由	
油	ユ あぶら	油脂, 油田, 石油 油, 油絵, 水油	⇨ 脂
喩	ユ	比喩	* [(23) ページ参照]
愉	ユ	愉快, 愉悦	
諭	ユ さとす	諭旨, 教諭, 説諭 諭す, 諭し	
輸	ユ	輸出, 輸送, 運輸	
癒	ユ いえる いやす	癒着, 治癒, 平癒 癒える 癒やす	
唯	ユイ	唯一, 唯物論, 唯美主義	

	イ	唯々諾々	
友	ユウ とも	友好, 友情, 親友 友	友達 (ともだち)
有	ユウ ウ ある	有益, 所有, 特有 有無, 有象無象 有る, 有り金	⇨ 在る
勇	ユウ いさむ	勇敢, 勇気, 武勇 勇む, 勇み足, 勇ましい	
幽	ユウ	幽境, 幽玄, 幽霊	
悠	ユウ	悠然, 悠長, 悠々	
郵	ユウ	郵便, 郵送, 郵券	
湧	ユウ わく	湧水, 湧出 湧く	⇨ 沸く
猶	ユウ	猶予	
裕	ユウ	裕福, 富裕, 余裕	
遊	ユウ ユ あそぶ	遊戯, 遊離, 交遊 遊山 遊ぶ, 遊び	
雄	ユウ お おす	雄大, 英雄, 雌雄 雄しべ, 雄牛, 雄々しい 雄, 雄犬	
誘	ユウ さそう	誘惑, 誘発, 勧誘 誘う, 誘い水	
憂	ユウ うれえる うれい うい	憂愁, 憂慮, 一喜一憂 憂える, 憂え 憂い 憂い, 憂き目, 物憂い	⇨ 愁える ⇨ 愁い 「憂き」は、文語の連体形。
融	ユウ	融解, 融和, 金融	
優	ユウ やさしい すぐれる	優越, 優柔, 俳優 優しい, 優しさ 優れる	
与 (與)	ヨ	与党, 授与, 関与	

	あたえる	与える	
予 (豫)	ヨ	予定, 予備, 猶予	
余 (餘)	ヨ あまる あます	余剰, 余地, 残余 余る, 余り 余す	
誉 (譽)	ヨ ほまれ	名誉, 榮譽 誉れ	
預	ヨ あずける あずかる	預金, 預託 預ける 預かる, 預かり	
幼	ヨウ おさない	幼児, 幼虫, 幼稚 幼い, 幼友達	
用	ヨウ もちいる	用意, 使用, 費用 用いる	
羊	ヨウ ひつじ	羊毛, 綿羊, 牧羊 羊	
妖	ヨウ あやしい	妖怪, 妖艶 妖しい	⇨ 怪しい
洋	ヨウ	洋楽, 洋風, 海洋	
要	ヨウ かなめ いる	要点, 要注意, 重要 要 要る	⇨ 入る
容	ヨウ	容易, 容器, 形容	
庸	ヨウ	凡庸, 中庸	
揚	ヨウ あげる あがる	意気揚々, 抑揚, 掲揚 揚げる, 荷揚げ 揚がる	⇨ 上げる, 挙げる ⇨ 上がる, 挙がる
揺 (搖)	ヨウ ゆれる ゆる ゆらぐ ゆるぐ ゆする ゆさぶる	動揺 揺れる, 揺れ 揺り返し, 揺り籠 揺らぐ 揺るぐ, 揺るぎない 揺する, 貧乏揺すり 揺さぶる	

葉	ゆすぶる	揺すぶる	
	ヨウ	葉緑素, 落葉, 紅葉	紅葉 (もみじ)
	は	葉, 枯れ葉, 落ち葉	
陽	ヨウ	陽光, 陰陽, 太陽	
溶	ヨウ	溶解, 溶液, 水溶液	
	とける	溶ける	⇨ 解ける
	とかす	溶かす	⇨ 解かす
	とく	溶く	⇨ 解く
腰	ヨウ	腰痛, 腰部	
	こし	腰, 腰だめ, 物腰	
様 (様)	ヨウ	様式, 様子, 模様	
	さま	様, ○○様	
瘍	ヨウ	潰瘍, 腫瘍	
踊	ヨウ	舞踊	
	おどる	踊る	⇨ 躍る
	おどり	踊り	
窯	ヨウ	窯業	
	かま	窯	
養	ヨウ	養育, 養子, 休養	
	やしなう	養う	
擁	ヨウ	擁護, 擁立, 抱擁	
謡 (謠)	ヨウ	謡曲, 民謡, 歌謡	
	うたい	謡, 素謡	
	うたう	謡う	⇨ 歌う
曜	ヨウ	曜日, 七曜表, 日曜	
抑	ヨク	抑圧, 抑制, 抑揚	
	おさえる	抑える, 抑え	⇨ 押さえる
沃	ヨク	肥沃	
浴	ヨク	浴場, 海水浴	
	あびる	浴びる, 水浴び	浴衣 (ゆかた)
	あびせる	浴びせる	
欲	ヨク	欲望, 食欲, 無欲	

	ほつする ほしい	欲する 欲しい, 欲しがる
翌	ヨク	翌春, 翌年, 翌々日
翼	ヨク つばさ	左翼, 尾翼 翼
拉	ラ	拉致
裸	ラ はだか	裸身, 裸体, 赤裸々 裸, 丸裸
羅	ラ	羅列, 羅針盤, 網羅
来 (來)	ライ くる きたる きたす	来年, 来歴, 往来 来る, 出来心 来る〇日 来す
雷	ライ かみなり	雷雨, 雷名, 魚雷 雷
頼 (賴)	ライ たのむ たのもし たよる	依頼, 信頼, 無頼漢 頼む, 頼み 頼もしい 頼る, 頼り
絡	ラク からむ からまる からめる	連絡, 脈絡 絡む, 絡み付く 絡まる 絡める
落	ラク おちる おとす	落語, 落涙, 集落 落ちる, 落ち着く 落とす, 力落とし
酪	ラク	酪農
辣	ラツ	辣腕, 辛辣
乱 (亂)	ラン みだれる みだす	乱戦, 混乱, 反乱 乱れる, 乱れ 乱す
卵	ラン たまご	卵黄, 鶏卵, 産卵 卵

覧 (覽)	ラン	観覧, 展覽, 一覽	
濫	ラン	濫伐, 濫費, 濫用	
藍	ラン あい	出藍 藍色, 藍染め	
欄 (欄)	ラン	欄干, 欄外, 空欄	
吏	リ	吏員, 官吏, 能吏	
利	リ	利益, 銳利, 勝利	砂利 (じやり)
	きく	利く, 左利き, 口利き	⇨ 効く
里	リ	里程, 郷里, 千里眼	
	さと	里, 里心, 村里	
理	リ	理科, 理由, 整理	
痢	リ	疫痢, 下痢, 赤痢	
裏	リ	裏面, 表裏	
	うら	裏, 裏口	
履	リ	履歴, 履行, 弊履	草履 (ぞうり)
	はく	履く, 履物	
璃	リ	浄瑠璃	
離	リ	離別, 距離, 分離	
	はなれる	離れる, 離れ, 乳離れ	⇨ 放れる
	はなす	離す	⇨ 放す
陸	リク	陸地, 陸橋, 着陸	
立	リツ	立案, 起立, 独立	
	リュウ	建立	
	たつ	立つ, 立場, 夕立	立ち退く (たちのく)
	たてる	立てる, 立て札	⇨ 建つ
			⇨ 建てる
律	リツ	律動, 規律, 法律	
	リチ	律儀	
慄	リツ	慄然, 戦慄	
略	リャク	略称, 計略, 侵略	
柳	リュウ	花柳界, 川柳	

流	やなぎ リュウ ル ながれる ながす	柳, 柳腰 流行, 流動, 電流 流布, 流転, 流罪 流れる, 流れ 流す, 流し	
留	リュウ ル とめる とまる	留意, 留学, 保留 留守 留める, 帯留め 留まる, 歩留まり	⇨ 止める, 泊める ⇨ 止まる, 泊まる
竜 (龍)	リュウ たつ	竜, 竜頭蛇尾 竜巻	
粒	リュウ つぶ	粒子, 粒々辛苦 粒, 豆粒	
隆 (隆)	リュウ	隆起, 隆盛, 興隆	
硫	リュウ	硫安, 硫酸, 硫化銀	硫黄 (いおう)
侶	リョ	僧侶, 伴侶	
旅	リョ たび	旅行, 旅情, 旅券 旅, 旅先, 船旅	
虜 (虜)	リョ	虜囚, 捕虜	
慮	リョ	遠慮, 考慮, 無慮	
了	リョウ	了解, 完了, 校了	
両 (兩)	リョウ	両親, 両立, 千両	
良	リョウ よい	良好, 良心, 優良 良い	野良 (のら) 奈良 (なら) 県 ⇨ 善い
料	リョウ	料金, 料理, 材料	
涼	リョウ すずしい すずむ	涼味, 清涼剤, 納涼 涼しい, 涼しさ 涼む, 夕涼み	
獵 (獵)	リョウ	獵師, 狩獵, 涉獵	
陵	リョウ みささぎ	陵墓, 丘陵 陵	

量

リョウ
はかる

量産, 測量, 度量
量る

⇨ 計る, 測る, 図る, 謀る

僚

リョウ

僚友, 官僚, 同僚

領

リョウ

領土, 要領, 大統領

寮

リョウ

寮生, 寮母, 独身寮

療

リョウ

療養, 医療, 治療

瞭

リョウ

明瞭

糧

リョウ
ロウ
かて

糧食, 糧道
兵糧
糧

力

リョク
リキ
ちから

権力, 努力, 能力
力量, 力作, 馬力
力, 力仕事, 底力

緑 (緑)

リョク
ロク
みどり

緑茶, 緑陰, 新緑
緑青
緑, 薄緑

林

リン
はやし

林業, 林立, 山林
林, 松林

厘

リン

一分一厘

倫

リン

倫理, 人倫, 絶倫

輪

リン
わ

輪番, 一輪, 車輪
輪, 輪切り, 首輪

隣

リン
となる
となり

隣室, 隣接, 近隣
隣り合う
隣, 両隣

臨

リン
のぞむ

臨時, 臨床, 君臨
臨む

瑠

ル

浄瑠璃

涙 (涙)

ルイ
なみだ

感涙, 声涙, 落涙
涙, 涙ぐむ, 涙ぐましい

累

ルイ

累計, 累積, 係累

罌 (壘)	ルイ	罌審, 敵罌, 土罌
類 (類)	ルイ たぐい	類型, 種類, 分類 類い, ○○の類い
令	レイ	令嬢, 法令, 命令
礼 (禮)	レイ ライ	礼儀, 謝礼, 無礼 礼賛, 礼拝
冷	レイ つめたい ひえる ひや ひやす ひやかす さめる さます	冷却, 冷淡, 寒冷 冷たい, 冷たさ 冷える, 底冷え 冷や, 冷や汗, 冷ややかだ 冷やす 冷やかす, 冷やかし 冷める 冷ます, 湯冷まし
励 (勵)	レイ はげむ はげます	励行, 奨励, 精励 励む, 励み 励ます, 励まし
戻 (戻)	レイ もどす もどる	戻入, 返戻 戻す, 差し戻し 戻る, 後戻り
例	レイ たとえる	例外, 例年, 用例 例える, 例え, 例えば
鈴	レイ リン すず	電鈴, 振鈴, 予鈴 風鈴, 呼び鈴 鈴
零	レイ	零下, 零細, 零落
靈 (靈)	レイ リョウ たま	靈感, 靈魂, 靈長類 悪霊, 死霊 霊, 霊屋
隸	レイ	隸書, 隸属, 奴隸
齡 (齡)	レイ	樹齡, 年齡, 妙齡
麗	レイ うるわしい	麗人, 端麗, 美麗 麗しい, 麗しさ

「礼拝」は、「レイハイ」ども。

曆 (曆)	レキ こよみ	曆年, 還曆, 太陽曆 曆, 花曆	
歴 (歴)	レキ	歴史, 歴訪, 経歴	
列	レツ	列外, 列車, 陳列	
劣	レツ おとる	劣等, 卑劣, 優劣 劣る	
烈	レツ	烈火, 壮烈, 猛烈	
裂	レツ さく さける	決裂, 破裂, 分裂 裂く, 八つ裂き 裂ける, 裂け目	⇒ 割く
恋 (戀)	レン こう こい こいしい	恋愛, 恋慕, 失恋 恋い慕う, 恋い焦がれる 恋, 初恋, 恋する 恋しい, 恋しがる	
連	レン つらなる つらねる つれる	連合, 連続, 関連 連なる 連ねる 連れる, 連れ	
廉	レン	廉価, 清廉, 破廉恥	
練 (練)	レン ねる	練習, 試練, 熟練 練る, 練り直す	
錬 (錬)	レン	錬金術, 鍛錬, 精錬	
呂	ロ	<u>風呂</u>	
炉 (爐)	ロ	炉辺, 暖炉, 原子炉	
賂	ロ	<u>賄賂</u>	
路	ロ じ	路上, 道路 家路, 旅路, 山路	
露	ロ ロウ つゆ	露出, 露店, 雨露 披露 露, 夜露	
老	ロウ おいる	老巧, 老人, 長老 老いる, 老い	<u>老舗 (しにせ)</u>

	ふける	老ける, 老け役	
勞 (勞)	ロウ	労働, 勞力, 疲勞	
弄	ロウ もてあそぶ	愚弄, 翻弄 弄ぶ	
郎 (郎)	ロウ	新郎	
朗 (朗)	ロウ ほがらか	朗読, 朗々と, 明朗 朗らかだ, 朗らかさ	
浪	ロウ	浪費, 波浪, 放浪	
廊 (廊)	ロウ	廊下, 回廊, 画廊	
楼 (樓)	ロウ	楼閣, 鐘楼, 望楼	
漏	ロウ もる もれる もらす	漏電, 疎漏, 脱漏 漏る, 雨漏り 漏れる 漏らす	
籠	ロウ かご こもる	籠城 籠 籠もる	
六	ロク む むつ むっつ むい	六月, 六法, 丈六 六月目 六つ切り 六つ 六日	
録 (録)	ロク	録音, 記録, 実録	
麓	ロク ふもと	山麓 麓	
論	ロン	論証, 論理, 議論	
和	ワ オ やわらぐ やわらげる なごむ なごやか	和解, 和服, 柔和 和尚 和らぐ 和らげる 和む 和やかだ	日和 (ひより) 大和 (やまと)
話	ワ	話題, 会話, 童話	

賄

はなす
はなし話す, 話し合い
話, 昔話, 立ち話

脇

ワイ
まかなう収賄, 贈賄
賄う, 賄い

惑

わき脇腹, 両脇ワク
まどう惑星, 迷惑, 誘惑
惑う, 惑い

枠

わく

枠, 枠内, 窓枠

湾 (灣)

ワン

湾内, 湾入, 港湾

腕

ワン
うで腕章, 腕力, 敏腕
腕, 腕前, 細腕

3 付 表

※ 以下に挙げられている語を「構成要素の一部とする熟語」
に用いてもかまわない。

例「河岸(かし)」→「魚河岸(うおがし)」、
「居士(こじ)」→「一言居士(いちげんこじ)」

あす	明日	かわせ	為替
あずき	小豆	かわら	{ 河原 川原
あま	{ 海女 海士	きのう	昨日
いおう	硫黄	きょう	今日
いくじ	意気地	くだもの	果物
いなか	田舎	くろうと	玄人
いぶき	息吹	けさ	今朝
うなばら	海原	けしき	景色
うば	乳母	ここち	心地
うわき	浮気	こじ	居士
うわつく	浮つく	ことし	今年
えがお	笑顔	さおとめ	早乙女
おじ	{ 叔父 伯父	ざこ	雑魚
おとな	大人	さじき	棧敷
おとめ	乙女	さしつかえる	差し支える
おば	{ 叔母 伯母	さつき	五月
おまわりさん	お巡りさん	さなえ	早苗
おみき	お神酒	さみだれ	五月雨
おもや	{ 母屋 母家	しぐれ	時雨
<u>かあさん</u>	<u>母さん</u>	<u>しっぽ</u>	<u>尻尾</u>
かぐら	神楽	しない	竹刀
かし	河岸	<u>しにせ</u>	<u>老舗</u>
<u>かじ</u>	<u>鍛冶</u>	しばふ	芝生
かぜ	風邪	しみず	清水
<u>かたず</u>	<u>固唾</u>	しゃみせん	三味線
かな	仮名	じゃり	砂利
かや	蚊帳	じゅず	数珠

じょうず	上手	のりと	祝詞
しらが	白髪	はかせ	博士
しろうと	素人	はたち	{ 二十 二十歳
しわす (「しはす」とも言う。)	師走	はつか	二十日
すきや	{ 数寄屋 数奇屋	はとば	波止場
すもう	相撲	ひとり	一人
ぞうり	草履	ひより	日和
だし	山車	ふたり	二人
たち	太刀	ふつか	二日
たちのく	立ち退く	ふぶき	吹雪
たなばた	七夕	へた	下手
たび	足袋	へや	部屋
ちご	稚児	まいご	迷子
ついたち	一日	<u>まじめ</u>	<u>真面目</u>
つきやま	築山	まっか	真っ赤
つゆ	梅雨	まっさお	真っ青
でこぼこ	凸凹	みやげ	土産
てつだう	手伝う	むすこ	息子
てんません	伝馬船	めがね	眼鏡
とあみ	投網	もさ	猛者
<u>とうさん</u>	<u>父さん</u>	もみじ	紅葉
とえはたえ	十重二十重	もめん	木綿
どきょう	読経	もより	最寄り
とけい	時計	やおちょう	八百長
ともだち	友達	やおや	八百屋
なこうど	仲人	やまと	大和
なごり	名残	<u>やよい</u>	<u>弥生</u>
なだれ	雪崩	ゆかた	浴衣
にいさん	兄さん	ゆくえ	行方
ねえさん	姉さん	よせ	寄席
のら	野良	わこうど	若人

III 参 考

1 追加候補字種（196字）表

アイーおれ

漢字	音訓	例	備考
挨	アイ	挨拶	
曖	アイ	曖昧	
宛	あてる	宛てる, 宛先	⇨ 当てる, 充てる
嵐	あらし	嵐, 砂嵐	
畏	イ おそれる	畏敬, 畏怖 畏れる, 畏れ	⇨ 恐れる
萎	イ なえる	萎縮 萎える	
椅	イ	椅子	
彙	イ	語彙	* [(23)ページ【剝】参照]
茨	いばら		茨城県
咽	イン	咽喉	
淫	イン みだら	淫欲, 淫乱 淫らだ	* [(22)ページ参照]
唄	うた	小唄, 長唄	⇨ 歌
鬱	ウツ	憂鬱	
怨	エン オン	怨恨 怨念	
媛	エン	才媛	愛媛(えひめ)県
艶(艶)	エン つや	妖艶 艶, 色艶	
旺	オウ	旺盛	
岡	おか		岡山県, 静岡県, 福岡県
臆	オク	臆説, 臆測, 臆病	「臆説」, 「臆測」は, 「憶説」, 「憶測」とも書く。
俺	おれ	俺	

苛
牙
瓦
楷
潰
諧
崖
蓋
骸
柿
顎
葛
釜
鎌
韓
玩
伎
亀 (龜)
毀

カ	苛酷, 苛烈
ガ	牙城, 齒牙
ゲ	象牙
きば	牙
ガ	瓦解
かわら	瓦, 瓦屋根
カイ	楷書
カイ	潰瘍
つぶす	潰す
つぶれる	潰れる
カイ	俳諧
ガイ	断崖
がけ	崖下
ガイ	頭蓋骨
ふた	蓋, 火蓋
ガイ	形骸化, 死骸
かき	柿
ガク	顎関節
あご	顎
カツ	葛藤
くず	葛, 葛湯
かま	釜
かま	鎌, 鎌倉時代
カン	韓国
ガン	玩具, 愛玩
キ	歌舞伎
キ	亀裂
かめ	亀
キ	毀損, 毀誉

* [(22)ページ参照]

畿
白
嗅
巾
僅
錦
惧
串
窟
熊
詣
憬
稽
隙
桁
拳
鍵
舷
股
虎

キ	畿内, 近畿
キユウ うす	白齒, 脱白 石白
キユウ かぐ	嗅覚 嗅ぐ
キン	頭巾, 雑巾
キン わずか	僅差 僅かだ
キン にしき	錦秋 錦絵
グ	危惧
くし	串刺し, 串焼き
クツ	巢窟, 洞窟
くま	熊
ケイ もうでる	参詣 詣でる, 初詣
ケイ	憧憬
ケイ	稽古, 滑稽
ゲキ すき	間隙 隙間
けた	桁違い, 橋桁
ケン こぶし	拳銃, 拳法 握り拳
ケン かぎ	鍵盤 鍵, 鍵穴
ゲン	舷側, 右舷
コ また	股間, 股関節 内股, 大腿
コ とら	虎穴, 猛虎 虎

* [(22) ページ参照]

* [(22) ページ参照]

* [(23) ページ参照]

* [(23) ページ参照]

「隙間」は、「透き間」とも書く。

錮	コ	禁錮	
勾	コウ	勾配、勾留	
梗	コウ	心筋梗塞、脑梗塞	
喉	コウ のど	喉頭、咽喉 喉、喉元	
乞	こう	乞う、命乞い	⇨ 請う
傲	ゴウ	傲然、傲慢	
駒	こま	持ち駒	
頃	ころ	頃、日頃	
痕	コン あと	痕跡、血痕 痕、傷痕	⇨ 跡、後
沙	サ	沙汰	
挫	ザ	挫折、頓挫	
采	サイ	采配、喝采	
塞	サイ ソク ふさぐ ふさがる	要塞 脑梗塞、閉塞 塞ぐ 塞がる	
埼	さい		埼玉県
柵	サク	鉄柵	
刹	サツ セツ	古刹、名刹 刹那	
拶	サツ	挨拶	
斬	ザン きる	斬殺、斬新 斬る	⇨ 切る
恣	シ	恣意的	* [(22)ページ参照]
摯	シ	真摯	
餌 [餌]	ジ えさ	好餌、食餌 餌	[餌]=許容字体、* [(22)ページ参照]

鹿
叱
嫉
腫
呪
袖
羞
蹴
憧
拭
尻
芯
腎
須
裾
凄
醒
脊
戚

え	餌食
しか	鹿
か	鹿の子
シツ	叱責
しかる	叱る
シツ	嫉妬
シュ	腫瘍
はれる	腫れる, 腫れ
はらす	腫らす
ジュ	呪縛, 呪文
のろう	呪う
シュウ	領袖
そで	袖, 半袖
シュウ	羞恥心
シュウ	一蹴
ける	蹴る, 蹴散らす
ショウ	憧憬
あこがれる	憧れる, 憧れ
シヨク	払拭
ふく	拭く
ぬぐう	拭う
しり	尻, 尻込み, 目尻
シン	芯
ジン	腎臓, 肝腎
ス	必須
すそ	裾, 裾野
セイ	凄惨, 凄絶
セイ	覚醒
セキ	脊髓, 脊柱
セキ	親戚

「憧憬」は、「ドウケイ」とも。

尻尾（しっぽ）

「肝腎」は、「肝心」とも書く。

煎	セン いる	煎茶 煎る, 煎り豆	* [(22)ページ参照]
羨	セン うらやむ うらやましい	羨望 羨む 羨ましい	
腺	セン	前立腺, 涙腺	
詮	セン	詮索, 所詮	* [(23)ページ参照]
箋	セン	処方箋, 便箋	* [(22)ページ参照]
膳	ゼン	膳, 配膳	
狙	ソ ねらう	狙撃 狙う, 狙い	
遡 [遡]	ソ さかのぼる	遡及, 遡上 遡る	[遡] = 許容字体, * [(20)ページ参照]
曾 (曾)	ソウ ゾ	曾祖父, 曾孫 未曾有	
爽	ソウ さわやか	爽快 爽やかだ	
瘦 (瘦)	ソウ やせる	瘦身 痩せる	
踪	ソウ	失踪	
捉	ソク とらえる	捕捉 捉える	⇨ 捕らえる
遜 [遜]	ソン	謙遜, 不遜	[遜] = 許容字体, * [(20)ページ参照]
汰	タ	沙汰	
唾	ダ つば	唾液; 唾棄 唾, 眉唾	固唾 (かたず) 「唾」は、「つばき」とも。
堆	タイ	堆積	
戴	タイ	戴冠, 頂戴	
誰	だれ	誰	
旦	タン	一旦, 元旦	

綻
緻
耐
貼
嘲
抄
椎
爪
鶴
諦
溺
填
妬
賭
藤
瞳
栃
頓
貪

ダン	旦那
タン	破綻
ほころびる	綻びる
チ	緻密, 精緻
チュウ	焼酎
チョウ	貼付
はる	貼る
チョウ	嘲笑, 自嘲
あざける	嘲る
チョク	進抄
ツイ	椎間板, 脊椎
つめ	爪, 生爪
つま	爪先, 爪弾く
つる	鶴, 千羽鶴
テイ	諦観, 諦念
あきらめる	諦める
デキ	溺愛, 溺死
おぼれる	溺れる
テン	装填, 補填
ト	嫉妬
ねたむ	妬む
ト	賭場, 賭博
かける	賭ける, 賭け
トウ	葛藤
ふじ	藤, 藤色
ドウ	瞳孔
ひとみ	瞳
とち	
トン	頓着, 整頓
ドン	貪欲

「貼付」は、「テンプ」とも。
⇔ 張る

* [(22) ページ参照]

* [(23) ページ参照]

* [(22) ページ参照]

* [(22) ページ参照]

* [(22) ページ参照]

⇔ 掛ける, 懸ける, 架ける

栃木県

井	むさぼる	食る	
	どんぶり	井, 井飯	
	どん	牛井, 天井	
那	ナ	刹那, 旦那	
奈	ナ	奈落	
梨	なし	梨	
謎 [謎]	なぞ	謎	[謎] = 許容字体, *[(20)ページ参照]
鍋	なべ	鍋, 鍋料理	
匂	におう	匂う, 匂い	⇨ 臭う
虹	にじ	虹	
捻	ネン	捻挫, 捻出	
罵	バ	罵声, 罵倒	
	ののしる	罵る	
剥	ハク	剥製, 剥奪	* [(23) ページ参照]
	はがす	剥がす	
	はぐ	剥ぐ	
	はがれる	剥がれる	
	はげる	剥げる	
箸	はし	箸	* [(22)ページ [賭] 参照]
汜	ハン	汎濫	
汎	ハン	汎用	
阪	ハン	阪神, 京阪	大阪 (おおさか) 府
斑	ハン	斑点	
眉	ビ	眉目, 焦眉	
	ミ	眉間	
	まゆ	眉毛	
膝	ひざ	膝, 膝頭	
肘	ひじ	肘, 肘掛け	
阜	フ		岐阜県

訃	フ	訃報	
蔽	ヘイ	隱蔽	* [(22) ページ参照]
餅 [餅] (餅)	ヘイ もち	煎餅 餅屋, 尻餅	[餅]=許容字体, * [(22)ページ【餌】参照]
璧	ヘキ	完璧, 双璧	
蔑	ベツ さげすむ	蔑視, 輕蔑 蔑む	
哺	ホ	哺乳類	
蜂	ホウ はち	蜂起 蜜蜂	
貌	ボウ	變貌, 美貌	
頰	ほお	頰, 頰張る	* [(22) ページ参照] 「頰」は、「ほほ」とも。
睦	ボク	親睦, 和睦	
勃	ボツ	勃興, 勃發	
昧	マイ	曖昧, 三昧	
枕	まくら	枕, 枕元	
蜜	ミツ	蜜, 蜜月	
冥	メイ ミョウ	冥福 冥加, 冥利	
麵 (麵)	メン	麵類	
冶	ヤ	冶金, 陶冶	鍛冶 (かじ)
弥 (彌)	ヤ		弥生 (やよい)
闇	やみ	闇夜, 暗闇	
喩	ユ	比喩	* [(23) ページ参照]
湧	ユウ わく	湧水, 湧出 湧く	⇔ 沸く
妖	ヨウ	妖怪, 妖艶	

	あやしい	妖しい	⇨ 怪しい
瘍	ヨウ	潰瘍, 腫瘍	
沃	ヨク	肥沃	
拉	ラ	拉致	
辣	ラツ	辣腕, 辛辣	
藍	ラン	出藍	
	あい	藍色, 藍染め	
璃	リ	浄瑠璃	
慄	リツ	慄然, 戦慄	
侶	リョ	僧侶, 伴侶	
瞭	リョウ	明瞭	
瑠	ル	浄瑠璃	
呂	ロ	風呂	
賂	ロ	賄賂	
弄	ロウ	愚弄, 翻弄	
	もてあそぶ	弄ぶ	
籠	ロウ	籠城	
	かご	籠	
	こもる	籠もる	
麓	ロク	山麓	
	ふもと	麓	
脇	わき	脇腹, 両脇	

追加及び削除字種の一覧

<現行「常用漢字表」に追加する字種(196字)>

挨	曖	宛	嵐	畏	萎	椅	彙	茨	咽	淫	唄	鬱
怨	媛	艷	旺	岡	臆	俺	苛	牙	瓦	楷	潰	諧
崖	蓋	骸	柿	顎	葛	釜	鎌	韓	玩	伎	亀	毀
畿	白	嗅	巾	僅	錦	惧	串	窟	熊	詣	憬	稽
隙	桁	拳	鍵	舷	股	虎	錮	勾	梗	喉	乞	傲
駒	頃	痕	沙	挫	采	塞	埼	柵	刹	拶	斬	恣
摯	餌	鹿	叱	嫉	腫	呪	袖	羞	蹴	懂	拭	尻
芯	腎	須	裾	淒	醒	脊	戚	煎	羨	腺	詮	箋
膳	狙	遡	曾	爽	瘦	踪	捉	遜	汰	唾	堆	戴
誰	且	綻	緻	耐	貼	嘲	抄	椎	爪	鶴	諦	溺
填	妬	賭	藤	瞳	析	頓	貪	井	那	奈	梨	謎
鍋	勺	虹	捻	罵	剝	箸	汜	汎	阪	斑	眉	膝
肘	阜	訃	蔽	餅	璧	蔑	哺	蜂	貌	頰	睦	勃
昧	枕	蜜	冥	麵	冶	弥	闇	喻	湧	妖	瘍	沃
拉	辣	藍	璃	慄	侶	瞭	瑠	呂	賂	弄	籠	麓
脇												

<現行「常用漢字表」から削除する字種(5字)>

勺 錘 銑 脹 勺

2 「改定常用漢字表」に関する試案」からの変更点一覧 (前文・字種・音訓・語例・備考欄・付表など)

I 前文「基本的な考え方」の記述の変更

以下の1～7の変更箇所については、「付(157ページ～)」を参照。

1 (5)ページ:「(4)漢字を手書きすることの重要性」

- 8行目の末尾「反復」を削除し、9行目の「重要」を「必要」に変更。
- 13行目「…させるだけではなく」を「…させるだけでなく」に変更。

2 (7)ページ:「(1)基本的な性格」

- 最後の1文「なお、情報機器の利用が…(略)…でもない。」の前に、漢字表が制限的な性格でないこと、必要に応じて振り仮名の使用を考慮すべきこと、平成22年実施の意識調査の結果を参考とすること、を趣旨とする記述を追加。
- 最後の1文中の「漢字表に掲げるすべての字」を「漢字表に掲げるすべての漢字」と変更。

3 (9)ページ:「(1)字種選定の考え方・選定の手順」

- 冒頭に、字種選定の前提となった「基本的認識」を簡単に記述した1文と、それに続く接続詞「そのため」を追加。
- 7行目「出現頻度数だけでなく」を「出現頻度数だけでなく」に変更。

4 (11)ページ:「(2)字種選定における判断の観点と検討の結果」

- 末尾に、その後の検討状況についての記述、平成22年の2月から3月に実施した意識調査の結果についての記述、「碍」の字の扱いについての記述を追加。

5 (12)ページ:「(4)音訓の選定」

- 最後の1文の「…で述べた意見募集」を「…で述べた2度の意見募集」に、「再度の見直し」を「2度の見直し」に、それぞれ変更。

6 (14)ページ:「(2)追加字種における字体の考え方」

1)「② 国語施策としての一貫性を大切にする。」

- 一つ目の「・」の末尾に、「このことは、…(略)…変わるものではない。」という1文を追加。

2)「③ 「改定常用漢字表」の「目安」としての性格を考慮する。」

- 二つ目の「・」の2文目の末尾、「極めて大きな問題となる。」の「極めて」を削除。

3)「④ JIS規格(JIS X 0213)における改正の経緯を考慮する。」

- 「・」の「…改正されていること、また、この改正を…」の「…改正され」以下の記述を「…改正され、印刷標準字体及び簡易慣用字体が既に採用されていることを考慮する必要がある。」と変更。

7 (16)ページ:「(2)学校教育における漢字指導」

- 冒頭の1文「…考え方を継承する。」を「…考え方を継承し、改定常用漢字表の趣旨を学校教育においてどのように具体化するかについては、これまでどおり教育上の適切な措置にゆだねる。」と変更。

8 (17) ページ：「(付) 字体についての解説」

1) 「第1 明朝体のデザインについて」

- 「明朝体のデザインについて」の解説文の末尾に、改定常用漢字表においてデザイン差字形を示していることの趣旨を明確にする意味で記述を追加した。上記の記述に加えて、明朝体のデザイン差と、筆写の楷書における字形差との関係について述べた1文を更に追加。
- (18)ページの「(1) 点か、棒(画) に関する例」に「蔑 蔑」を追加。
- (18)ページの「(7) はねるか、とめるかに関する例」の後に「(8) その他」を立てて、「次」「姿」を例示。
- (18)ページの「3 点画の性質について」の後に「4 特定の字種に適用されるデザイン差について」を立てて、その解説文を示すとともに、ここに該当する「牙」「韓」「茨」「叱」「析」を明示。

2) 「第2 明朝体と筆写の楷書との関係について」

- 「明朝体と筆写の楷書との関係について」の解説文の3行目「字体としては同じであっても、」の次に「1, 2に示すように」を挿入。また、5行目「以下に、…」の前に、手書き文字と印刷文字とで字体の違いに及ぶ場合があることを記述した1文を追加。さらに、解説文の6行目「その例を示す」を「それぞれの例を示す」と変更。
- (22)ページの「3 筆写の楷書では、筆写字形の習慣に従って書くことがあるもの」を「3 筆写の楷書字形と印刷文字字形の違いが、字体の違いに及ぶもの」と変更。また、「※」の注記を解説文としての記述に変更。
- (22)ページの3「(1) 方向に関する例」の「茨」を削除して、「恣」「蔽」を追加。また、字の並べ方を音の五十音順に変更。
- (22)ページの3「(2) 点画の簡略化に関する例」に掲げる字の並べ方を音の五十音順に変更。
- (23)ページの3「(3) その他」の「蔑」を削除。また、字の並べ方を音の五十音順に変更。

II 追加候補字種にかかわる変更

<字種の追加・削除>

- 「改定常用漢字表」に関する試案(= 2,136字種) から変更なし。

<音訓の追加・削除>

- 1 剝(訓：「はげる」「はがれる」を追加)
- 2 媛(訓：「ひめ」を削除)
- 3 阪(訓：「さか」を削除)

<語例欄の変更>

- 1 韓(語例に「韓国」を追加)
- 2 類(訓：「たぐい」の語例「類, ○○の類」を、「類い, ○○の類い」と変更)

<備考欄の変更>

- 1 媛(備考欄に「愛媛(えひめ)県」を追加)
- 2 阪(備考欄に「大阪(おおさか)府」を追加)
- 3 備考欄の「*」の後に、参照すべきページ数を明記。

Ⅲ 現行「常用漢字表」にかかわる変更

<字種・音訓の追加・削除>

- 「改定常用漢字表」に関する試案」から変更なし。

<語例欄の変更>

- 1 破（語例に「破棄」を追加）
- 2 屈（語例に「理屈」を追加）
- 3 従（訓「したがう」の語例「従って〔接〕」を削除）

<備考欄の変更>

- 鳥（備考欄に「鳥取（とっとり）県」を追加）

Ⅳ 字体にかかわる変更・その他

<字体・字形の変更>

- 1 字体については、「改定常用漢字表」に関する試案」から変更なし。
- 2 字形については、必要と判断される一部の字形を修正。

<その他>

- 1 漢字表の配列順について、一部修正。
- 2 「異字同訓」の漢字の用法例（追加字種・追加音訓関連）」の変更
(1) 「作る」の文例「小説を作る」を、「詩を作る」に変更。
(2) 項目として、「わく（沸く・湧く）」「かける（掛ける・懸ける・架ける・賭ける）」を追加。

Ⅴ 本表「表の見方」にかかわる変更

- 1 上記Ⅰ～Ⅳの変更に合わせて、記述を修正した。
- 2 「表の見方」の「6」の2行目「…を示すために添えたものであるが、」を「…を示すために、参考として添えたものであるが、」と変更。
- 3 「表の見方」の「付」の2行目「…しか用いることができない場合については、当該の字体の使用を妨げるものではない。」という記述を「…を使用することは差し支えない」と変更。

付 前文「基本的な考え方」の修正箇所

※ 以下で、下線を付した部分が修正箇所である。

1 情報化社会の進展と漢字政策の在り方

(1) 改定常用漢字表作成の経緯

改定常用漢字表の作成は、「はじめに」で述べたように平成17年3月30日の文部科学大臣諮問に基づくものである。この諮問に添えられた理由には、

種々の社会変化の中でも、情報化の進展に伴う、パソコンや携帯電話などの情報機器の普及は人々の言語生活とりわけ、その漢字使用に大きな影響を与えている。このような状況にあつて「法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安」である常用漢字表（昭和56年内閣告示・訓令）が、果たして、情報化の進展する現在においても「漢字使用の目安」として十分機能しているのかどうか、検討する時期に来ている。

常用漢字表の在り方を検討するに当たっては、JIS漢字や人名用漢字との関係を踏まえて、日本の漢字全体をどのように考えていくかという観点から総合的な漢字政策の構築を目指していく必要がある。その場合、これまで国語施策として明確な方針を示してこなかった固有名詞の扱いについても、基本的な考え方を整理していくことが不可欠となる。

また、情報機器の広範な普及は、一方で、一般の文字生活において人々が手書きをする機会を確実に減らしている。漢字を手で書くことをどのように位置付けるかについては、情報化が進展すればするほど、重要な課題として検討することが求められる。検討に際しては、漢字の習得及び運用面とのかかわり、手書き自体が大切な文化であるという二つの面から整理していくことが望まれる。（平成17年3月30日文部科学大臣諮問理由）

と述べられている。

分科会においては、上述の理由を踏まえて、「総合的な漢字政策」の核となるものが「国語施策として示される漢字表」であること、また、昭和56年に制定された現行の常用漢字表が近年の情報機器の広範な普及を想定せずに作成されたものであることから、「漢字使用の目安」としては見直しが必要であることを確認した。このため、常用漢字表の内容に急激な変化を与えて社会的な混乱を来すことのないよう留意しながら、常用漢字表に代わる漢字表を作成することとした。

(2) 国語施策としての漢字表の必要性

国語施策として示される漢字表は、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示すものであるが、情報機器による漢字使用が一般化し、社会生活で目にする漢字の量が確実に増えていると認められる現在、このよう

な目安としての漢字表があることは大きな意味がある。すなわち一般の社会生活における漢字使用を考えるとときには「コミュニケーションの手段としての漢字使用」という観点が極めて重要であり、その観点を十分に踏まえて作成された漢字表は、国民の言語生活の円滑化、また、漢字習得の目標の明確化に寄与すると考えられるためである。

言語生活の円滑化とは、当該の漢字表に基づく表記をすることによって、我が国の表記法として広く行われている漢字仮名交じり文による文字言語の伝達をより分かりやすく、効率的なものとすることができ、同時に、表現そのものの平易化にもつながるということである。このことは、情報機器の使用による漢字の多用化傾向が認められる現在の情報化社会の中で、〈漢字使用の目安としての漢字表〉が存在しない状況を想像してみれば明らかである。

また、情報機器の広範な普及によって、書記環境は大きく変わったが、読む行為自体は基本的に変わっていない。端的に言えば、現時点において情報機器は「読む行為」よりも「書く行為」を支援する役割が大きい。情報機器が広く普及し、その使用が一般化した時代の漢字使用の特質は、この点と密接にかかわるものである。その意味で、情報化社会においては、これまで以上に「読み手」に配慮した「書き手」になるという注意深さが求められる。情報化時代と言われる現在は、これまでと比較して、受け取る情報量が圧倒的に増えているということからも、この考え方の重要性は了解されよう。

(3) J I S 漢字と、国語施策としての漢字表

現在、多くの情報機器に搭載されている J I S 漢字の数は、第 1 水準、第 2 水準合わせて 6355 字あり、現行の常用漢字表に掲げる 1945 字の 3 倍強となっている。さらに、既に 1 万字を超える漢字 (J I S 第 1 ~ 第 4 水準の漢字数は 10050 字) を搭載している情報機器も急速に普及しつつある。情報機器を利用することで、このような多数の漢字が簡単に使える現在、常用漢字表の存在意義がなくなったのではないかという見方もある。

しかし、このことは、既に述べたことから明らかなように、一般の社会生活における「漢字使用の目安」を定めている常用漢字表の意義を損なうものではない。むしろ簡単に漢字が使えることによって、漢字の多用化傾向が認められる中では、「一般の社会生活で用いる場合の、効率的で共通性の高い漢字を収め、分かりやすく通じやすい文章を書き表すための漢字使用の目安 (「常用漢字表」の答申前文)」となる常用漢字表の意義はかえって高まっていると考えるべきである。改定常用漢字表に求められる役割もこれと同様のものである。

現在の情報化社会の中で大きな役割を果たしている J I S 漢字については、その重要性を十分認識しつつ、一般のコミュニケーションにおける漢字使用という観点から、「国語施策としての漢字表」を確実に踏まえた対応が必要である。すなわち、分かりやすい日本語表記に不可欠な「国語施策としての漢字表」に基づいて、情報機器に搭載されている〈多数の漢字を適切に選択しつつ使いこなしていく〉という考え方を多くの国民が基本認識として持つ必要がある。

(4) 漢字を手書きすることの重要性

漢字を手で書くことをどのように位置付けていくかについては、情報機器の利用が一般化する中で、早急に整理すべき課題である。その場合、文部科学大臣の諮問理由で述べられていたように、「漢字の習得及び運用面とのかかわり、手書き自体が大切な文化であるという二つの面から整理していく」必要がある。

このうち前者については、漢字の習得時と運用時に分けて考えることができる。情報機器を利用する場合にも、後述するように、情報機器の利用に特有な漢字習得が行われていると考えられるが、情報機器の利用が今後、更に日常化・一般化しても、習得時に当たる小学校・中学校では、それぞれの年代を通じて書き取りの練習を行うことが必要である。それは、書き取り練習の中で繰り返し漢字を手書きすることで、視覚、触覚、運動感覚など様々な感覚が複合する形でかかわることになるためである。これによって、脳が活性化されるとともに、漢字の習得に大きく寄与する。このような形で漢字を習得していくことは、漢字の基本的な運筆を確実に身に付けさせるだけでなく、将来、漢字を正確に弁別し、的確に運用する能力の形成及びその伸長・充実に結び付くものである。

運用時については、近年、手で書く機会が減り、情報機器を利用して漢字を書くことが多いが、その場合は複数の変換候補の中から適切な漢字を選択できることが必要となる。この選択能力は、基本的には、習得時の書き取り練習によって、身に付けた種々の感覚が一体化されることで、瞬時に、漢字を図形のように弁別できるようになることから獲得されていくものであると考えられる。

情報機器の利用は、複数の変換候補の中から適切な漢字を選択することにより、それ自体が特有の漢字習得につながっている。この場合、様々な感覚が複合する形でかかわる書き取りの反復練習とは異なって、視覚のみがかかわった習得となる。今後、情報機器の利用による習得機会は一層増加すると考えられるが、視覚のみがかかわる漢字習得では、主に漢字を図形のように弁別できる能力を強化することにしかならず、繰り返し漢字を手書きすることで身に付く、漢字の基本的な運筆や、図形弁別の根幹となる認知能力などを育てることはできない。

以上のように、漢字を手書きすることは極めて重要であり、漢字を習得し、その運用能力を形成していく上で不可欠なものとして位置付けられる。

平成14年度に実施した文化庁の「国語に関する世論調査」の中で、「あなたの経験から漢字を習得する上で、どのようなことが役に立ちましたか。」と尋ねているが、第1位は「何度も手で書くこと」(74.3%)であり、上述の考えを裏付ける結果となっている。

後者の、手書き自体が大切な文化であるということに関連する調査として、同じ平成14年度実施の文化庁「国語に関する世論調査」の中で、「あなたは、漢字についてどのような意識を持っていますか。」ということを探っている。この結果は、「日本語の表記に欠くことのできない大切な文字である。」を選んだ人が71.0%で最も多く、逆に、最も少なかったのは「ワープロなどがあるので、これからは漢字を書く必要は少なくなる。」の3.4%であった。漢字を書く必要性は今後もなくなると考えている人が多数を占めていることは注目に値する。パソコンや携帯電話などの情報機器の使用が日常化し、一般化する中で、手書きの重要性が再認識され

つつあるが、一方で、手書きでは相手（＝読み手）に申し訳ないといった価値観も同時に生じていることに目を向ける必要がある。

上述のような状況を踏まえて、効率性が優先される実用の世界は別として、＜手で書くということは日本の文化としても極めて大切なものである＞という考え方を社会全体に普及していくことが重要である。また、手で書いた文字には、書き手の個性が現れるが、その意味でも、個性を大事にしようとする時代であるからこそ、手で書くことが一層大切にされなければならないという考え方が強く求められているとも言えよう。情報機器が普及すればするほど、手書きの価値を改めて認識していくことが大切である。

（５）名付けに用いる漢字

人名用漢字は、平成16年9月27日付けの戸籍法施行規則の改正により、それ以前と比較して、その数が大幅に増えた。このこと自体は名付けに用いることのできる漢字の選択肢が広がったということであるが、一方で、このような状況を踏まえると、名の持つ社会的な側面に十分配慮した、適切な漢字を使用していくという考え方がこれまで以上に社会全体に広がっていく必要がある。具体的には「子の名というものは、その社会性の上からみて、常用平易な文字を選んでつけることが、その子の将来のためである」ということは、社会通念として常識的に了解されることであろう。（国語審議会「人名漢字に関する声明書」、昭和27年）」という認識を基本的に継承し、

- ① 文化の継承、命名の自由という観点を踏まえつつも、社会性という観点を併せ考え、読みやすく分かりやすい漢字を選ぶ。
- ② その漢字の意味や読み方を十分に踏まえた上で、子の名にふさわしい漢字を選ぶ。

という考え方が社会一般に共有される必要がある。

（６）固有名詞における字体についての考え方

固有名詞（人名・地名）における漢字使用については、特にその字体の多様性が問題となるが、その中でも姓や名に用いている漢字の字体には強いこだわりを持つ人が多い。そこに用いられている各種の異体字は、その個人のアイデンティティーの問題とも密接に絡んでおり、基本的には尊重されるべきである。しかしながら、一般の社会生活における「コミュニケーションの手段としての漢字使用」という観点からは、その個人固有の字体に固執して、他人にまで、その字体の使用を過度に要求することは好ましいことではない。

公共性の高い、一般の文書等での漢字使用においては、「1字種1字体」が基本であることを確認していくことは「コミュニケーションの手段としての漢字使用」という観点からは極めて大切である。姓や名だけでなく、新たに地名を付ける場合などにおいても、漢字の持つ社会的な側面を併せ考えていくという態度が社会全体の共通認識となっていくことが何より重要である。

2 改定常用漢字表の性格

(1) 基本的な性格

改定常用漢字表は、現行の常用漢字表と同じく、法令・公用文書・新聞・雑誌・放送等、一般の社会生活で用いる場合の、効率的で共通性の高い漢字を収め、分かりやすく通じやすい文章を書き表すための、新たな漢字使用の目安となることを目指したものである。一般の社会生活における漢字使用とは、義務教育における学習を終えた後、ある程度実社会や学校での生活を経た人を対象として考えたもので、この点も現行の常用漢字表と同様である。端的には、

- 1 法令、公用文書、新聞、雑誌、放送等、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示すものである。
- 2 科学、技術、芸術その他の各種専門分野や、個々人の表記にまで及ぼそうとするものではない。ただし、専門分野の語であっても、一般の社会生活と密接に関連する語の表記については、この表を参考とすることが望ましい。
- 3 固有名詞を対象とするものではない。ただし、固有名詞の中でも特に公共性の高い都道府県名に用いる漢字及びそれに準じる漢字は例外として扱う。
- 4 過去の著作や文書における漢字使用を否定するものではない。
- 5 運用に当たっては、個々の事情に応じて、適切な考慮を加える余地のあるものである。

という性格の漢字表と位置付けて作成するものである。また、「漢字使用の目安」における「目安」についても、現行の常用漢字表と同趣旨のものである。具体的には、「① 法令・公用文書・新聞・雑誌・放送等、一般の社会生活において、この表を無視してほしいままに漢字を使用してもよいというのではなく、この表を努力目標として尊重することが期待されるものであること。」「② 法令・公用文書・新聞・雑誌・放送等、一般の社会生活において、この表を基に、実情に応じて独自の漢字使用の取決めをそれぞれ作成するなど、分野によってこの表の扱い方に差を生ずることを妨げないものであること。」（「常用漢字表」答申前文）という意味の語として用いているものである。

上述のように、改定常用漢字表は一般の社会生活における漢字使用の目安となることを目指すものであるから、表に掲げられた漢字だけを用いて文章を書かなければならないという制限的なものでなく、必要に応じ、振り仮名等を用いて読み方を示すような配慮を加えるなどした上で、表に掲げられていない漢字を使用することもできるものである。文脈や読み手の状況に応じて、振り仮名等を活用することについては、表に掲げられている漢字であるか否かにかかわらず、配慮すべきことであろう。このような配慮をするに当たっては、文化庁が平成22年2月から3月に実施した追加及び削除字種にかかわる国民の意識調査の結果も参考となろう。

なお、情報機器の使用が一般化・日常化している現在の文字生活の実態を踏まえるならば、漢字表に掲げるすべての漢字を手書きできる必要はなく、また、それを求めるものでもない。

(2) 固有名詞に用いられる漢字の扱い

改定常用漢字表の中に、専ら固有名詞（主に人名・地名）を表記するのに用いられる漢字を取り込むことは、一般用の漢字と固有名詞に用いられる漢字との性格の違いから難しい。したがって、これまでどおり漢字表の適用範囲からは除外する。ただし、都道府県名に用いる漢字及びそれに準じる漢字は例外として扱う。

適用の対象としない理由は、既に述べた両者の性格の違いからということであるが、もう少し具体的に述べれば、使用字種及び使用字体の多様性に加え、使用音訓の多様性までもが絡んでくるためである。一般の漢字表記にはほとんど使われず、固有名詞の漢字表記にだけ使われる〈固有名詞用の字種や字体及び音訓〉はかなり多いというのが実情である。

3 字種・音訓の選定について

(1) 字種選定の考え方・選定の手順

現行の常用漢字表に掲げる漢字と、現在の社会生活における漢字使用の実態との間にはずれが生じており、このずれを解消するという観点から、字種の選定を行うこととした。そのため改定常用漢字表における字種としては、基本的に、一般社会においてよく使われている漢字（＝出現頻度数の高い漢字）を選定することとし、具体的には、最初に常用漢字を含む 3500 字程度の漢字集合を特定し、そこから、必要な漢字を絞り込むこととした。この選定過程では、以下の①を基本として、②以下の項目についても配慮しながら、単に漢字の出現頻度数だけではなく、様々な要素を総合的に勘案して選定していくことを基本方針とした。

- ① 教育等の様々な要素はいったん外して、日常生活でよく使われている漢字を出現頻度数調査の結果によって機械的に選ぶ。
- ② 固有名詞専用字ということで、これまで外されてきた「阪」や「岡」等についても、出現頻度数が高ければ、最初から排除はしない。（これについては最終的に上記 2 の (1) 3 のように扱うこととした。）
- ③ 出現頻度数が低くても、文化の継承という観点等から、一般の社会生活に必要と思われる漢字については取り上げていくことを考える。
- ④ 漢字の習得の観点から、漢字の構成要素等を知るための基本となる漢字を選定することも考える。

①の考え方に基づいた漢字集合を特定するために、以下のような「漢字出現頻度数調査」を実施した。

	対象総漢字数	調査対象としたデータ
A 漢字出現頻度数調査(3)※1	49,072,315	書籍 860 冊分の凸版組版データ
B 上記Aの第2部調査	3,290,795	Aのうち教科書分の抽出データ
C 漢字出現頻度数調査(新聞)※2	3,674,613	朝日新聞 2 か月分の紙面データ
D 漢字出現頻度数調査(新聞)※2	3,428,829	読売新聞 2 か月分の紙面データ
E 漢字出現頻度数調査(ウェブサイト)※3	1,390,997,102	ウェブサイト調査の抽出データ

※1 Aの調査対象総文字数は「169,050,703」。また、Bとは別に、第3部として月刊誌4誌の抽出調査も実施している。これらの組版データは、いずれも平成16年、17年、18年に凸版印刷が作成したものである。

※2 C、Dは、いずれも平成18年10月1日～11月30日までの朝刊・夕刊の最終版を調査したデータである。

※3 調査全体の漢字数は「3,128,388,952」。このうち「電子掲示板サイトにおける投稿本文」のデータを除いたもの。

これらの調査結果のうち、Aを基本資料、B以下を補助資料と位置付けて、上記の 3500 字の漢字集合に入った漢字の 1 字 1 字について、改定常用漢字表に入れるべきかどうかを判断した。実際に検討した漢字は、調査Aにおいて、常用漢字としては、最も出現順位の低かった「銑」(4004 位)と同じ出現回数を持つ漢字までとしたので、4011 字に上る。

この漢字集合に入った漢字については、常用漢字であるか、表外漢字であるかによって、次のような方針に従い、かつ常用漢字表における字種選定の考え方を参考としながら選定作業を進めた。

<方針：常用漢字・表外漢字の扱い>

- ① 常用漢字のうち、2500位以内のものは残す方向で考える（個別の検討はしない）。
- ② 常用漢字で、2501位以下のものは「候補漢字A」とし、個別に検討を加える（→該当する常用漢字は6.0字）。
- ③ 表外漢字のうち、1500位以内の漢字を「候補漢字S」とし、個別に検討する。
- ④ 表外漢字のうち、1501～2500位のものを「候補漢字A」とし、個別に検討する。
- ⑤ 表外漢字のうち、2501～3500位のものを「候補漢字B」とし、個別に検討する。

なお、3501～4011位までの表外漢字のうち、特に検討する必要を認めた漢字については「候補漢字B」に準じて扱うこととした。また、常用漢字の異体字（「嶋」、「國」など）は検討対象から外した。候補漢字については、

- ・候補漢字S：基本的に新漢字表に加える方向で考える。
- ・候補漢字A：基本的に残す方向で考えるが、不要なものは落とす。
- ・候補漢字B：特に必要な漢字だけを拾う。

と考えたが、これは、検討を効率的に進めるための便宜的な区分であり、実際には対象漢字の1字1字を常用漢字表の選定基準に照らしつつ総合的に判断した。選定基準の3に関して、都道府県名に用いる漢字及びそれに準じる漢字は例外とした。

<選定基準：昭和56年3月23日国語審議会答申「常用漢字表」前文>

字種や音訓の選定に当たっては、語や文を書き表すという観点から、現代の国語で使用されている字種や音訓の実態に基づいて総合的に判断した。主な考え方は次のとおりである。

- 1 使用度や機能度（特に造語力）の高いものを取り上げる。なお、使用分野の広さも参考にする。
- 2 使用度や機能度がさほど高くなくても、概念の表現という点から考えた場合に、仮名書きでは分かりにくく、特に必要と思われるものは取り上げる。
- 3 地名・人名など、主として固有名詞として用いられるものは取り上げない。
- 4 感動詞・助動詞・助詞のためのものは取り上げない。
- 5 代名詞・副詞・接続詞のためのものは広く使用されるものを取り上げる。
- 6 異字同訓はなるべく避けるが、漢字の使い分けのできるもの及び漢字で書く習慣の強いものは取り上げる。
- 7 いわゆる当て字や熟字訓のうち、慣用の久しいものは取り上げる。

なお、当用漢字表に掲げてある字種は、各方面への影響も考慮して、すべて取り上げた。

(2) 字種選定における判断の観点と検討の結果

上記(1)に述べた作業の結果、現行の常用漢字表に追加する字種の候補として220字、現行の常用漢字表から削除する字種の候補として5字を選定した。その後、『出現文字列頻度数調査』を用いて、追加候補及び削除候補の1字1字の使用実態を確認しながら、追加字種候補を188字とした。『出現文字列頻度数調査』とは、(1)の「漢字出現頻度数調査A」に出現している漢字のうち、検討対象とした漢字を中心として前後1文字(全体で3文字)の文字列を抽出し、当該の漢字の出現状況を見ようとしたものである。この『出現文字列頻度数調査』によって、当該の漢字の出現状況が明らかになり、その漢字の具体的な使われ方を正確に確認することができた。その上で、当該の漢字を追加候補とするかどうかについては、基本的には前述の常用漢字表の選定基準と重なるものであるが、以下のような観点に照らして判断した。

<入れると判断した場合の観点>

- ① 出現頻度が高く、造語力(熟語の構成能力)も高い
→ 音と訓の両方で使われるものを優先する(例:眉, 溺)
- ② 漢字仮名交じり文の「読み取りの効率性」を高める
→ 出現頻度が高い字を基本とするが、それほど高くなくても漢字で表記した方が分かりやすい字(例:謙遜の「遜」、堆積の「堆」)
→ 出現頻度が高く、広く使われている代名詞(例:誰, 俺)
- ③ 固有名詞の例外として入れる
→ 都道府県名(例:岡, 阪)及びそれに準じる字(例:畿, 韓)
- ④ 社会生活上よく使われ、必要と認められる
→ 書籍や新聞の出現頻度が低くても、必要な字(例:訃報の「訃」)

<入れないと判断した場合の観点>

- ① 出現頻度が高くても造語力(熟語の構成能力)が低く、訓のみ、あるいは訓中心に使用(例:濡, 覗)
- ② 出現頻度が高くても、固有名詞(人名・地名)中心に使用(例:伊, 鴨)
- ③ 造語力が低く、仮名書き・ルビ使用で、対応できると判断(例:醬, 顛)
- ④ 造語力が低く、音訳語・歴史用語など特定分野で使用(例:菩, 揆)

188字の追加字種候補を選定した後、追加字種の音訓を検討する過程で、字種についても若干の見直し(追加4字, 削除1字)を行い、「新常用漢字表(仮称)」に関する試案では191字を追加することとした。さらに、平成21年3月から4月に実施した、一般国民及び各府省等を対象とした意見募集で寄せられた意見を踏まえて再度の見直し(追加9字, 削除4字)を行い、「改定常用漢字表」に関する試案では196字を追加字種とした。また、平成21年11月から12月には2度目の意見募集を実施し、寄せられた意見を精査した上で更に検討を加えたが、本答申案(素案)でも、この196字の追加字種をそのまま踏襲することとした。

さらに、選定した196字の追加字種と5字の削除字種については、平成22年の2月から3月に、意識調査（16歳以上の国民約4100人から回答）を実施し、その結果は、字種の選定が妥当であったことを裏付けるものと言えよう。

なお、2度の意見募集に際し、関係者から追加要望のあった「碍（障碍）」は、上述の字種選定基準に照らして、現時点では追加しないが、政府の「障がい者制度改革推進本部」において、「「障害」の表記の在り方」に関する検討が行われているところであり、その検討結果によっては、改めて検討することとする。

（3）字種選定に伴って検討したその他の問題

字種の選定に伴って、検討の過程では、「準常用漢字（仮称＝情報機器を利用して書ければよい漢字）」や「特別漢字（仮称＝出現頻度は低くても日常生活に必要な漢字）」を設定するかどうか、また、現行の常用漢字表にある「付表」（当て字や熟字訓などを語の形で掲げた表）に加え、例えば、「挨拶」の「挨」と「拶」のように、「挨拶」という特定の熟語でしか使われない＜頻度の高い表外漢字の熟語＞や、「元旦」のように表外漢字の「旦」を含む熟語等について、その特定の語に限って常用漢字と同様に認める熟語の表を「付表2（仮称）」あるいは「別表（仮称）」として設定するかかなどについても時間を掛けて検討したが、最終的にはなるべく単純明快な漢字表を作成する＜という考え方を優先し、これらについては設定しないこととした。

（4）音訓の選定

「新常用漢字表（仮称）」に関する試案で追加字種とした191字については、既に述べた「常用漢字表の選定基準」及び『出現文字列頻度数調査』の結果を併せ見ながら、採用すべき音訓を決めた。また、現行の常用漢字表にある字についても、その音訓をすべて再検討し、現在の文字生活の実態から考えて必要な音訓を追加し、必要ないと判断された訓（疲：つからす）を削除した。「付表」についても同様の観点から再検討し、若干の手直しを施した。

なお、音訓の選定に当たっては、独立行政法人国立国語研究所から提供を受けた資料（『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の生産実態サブコーパス・書籍データのうち、平成20年9月9日の時点で、利用可能な約1730万語のデータに基づく調査結果）を併せ参照した。

その後、（2）の「字種選定における判断の観点と検討の結果」で述べた2度の意見募集によって寄せられた意見を踏まえ、音訓についても2度の見直しを行い、必要な音訓の追加及び削除を行った。

4 追加字種の字体について

(1) 字体・書体・字形について

字体・書体・字形については、現行常用漢字表の「字体は文字の骨組みである」という考え方を踏襲し、この3者の関係を分析・整理した「表外漢字字体表」(国語審議会答申,平成12年12月)の考え方に従っている。以下に、3者の関係を改めて述べる。

文字の骨組みである字体とは、ある文字をある文字たらしめている点画の抽象的な構成の在り方のことで、他の文字との弁別にかかわるものである。字体は抽象的な形態上の観念であるから、これを可視的に示そうとすれば、一定のスタイルを持つ具体的な文字として出現させる必要がある。

この字体の具体化に際し、視覚的な特徴となって現れる一定のスタイルの体系が書体である。例えば、書体の一つである明朝体の場合は、縦画を太く横画を細くして横画の終筆部にウロコという三角形の装飾を付けるなど、一定のスタイルで統一されている。すなわち、現実の文字は、例外なく、骨組みとしての字体を具体的に出現させた書体として存在しているものである。書体には、印刷文字で言えば、明朝体、ゴシック体、正楷書体、教科書体等がある。

また、字体、書体のほかに字形という語があるが、これは印刷文字、手書き文字を問わず、目に見える文字の形そのものを総称して言う場合に用いる。総称してというのは、様々なレベルでの文字の形の相違を包括して称するということである。したがって、「論」と「論」などの文字の違いや「談(明朝体)」と「談(ゴシック体)」などの書体の違いを字形の相違と言うことも可能であるし、同一字体・同一書体であっても生じ得るような微細な違いを字形の相違と言うことも可能である。

なお、ここで言う手書き文字とは、主として、楷書(楷書に近い行書を含む。)で書かれた字形を対象として用いているものである。

(2) 追加字種における字体の考え方

現行常用漢字表では、「主として印刷文字の面から現代の通用字体(答申前文)」が示され、筆写における「手書き文字」は別のこととしている。本試案でも、この考え方を踏襲し、本表の漢字欄には、印刷文字としての通用字体を示した。具体的には、「表外漢字字体表」の「印刷標準字体」と、「人名用漢字字体」を通用字体として掲げた。ただし、同表で「簡易慣用字体」とした「曾」「瘦」「麵」はその字体を掲げ、人名用漢字字体の「瘦」は「瘦」を掲げた関係で採用していない。なお、現行の常用漢字表制定時に追加した95字については、表内の字体に合わせ、一部の字体を簡略化したが、今回は追加字種における字体が既に「印刷標準字体」及び「人名用漢字字体」として示され、社会的に極めて安定しつつある状況を重視し、そのような方針は採らなかった。より具体的に述べれば、以下のとおりである。

① 当該の字種における「最も頻度高く使用されている字体」を採用する。

- ・ 「表外漢字字体表」の「印刷標準字体」及び「人名用漢字字体」がそれに該当する。(「表外漢字字体表」の「簡易慣用字体」を採用するものは、頻度数に優先して、生活漢字としての側面を重視したことによる。)

- 教科書や国語辞典をはじめ、一般の書籍でも当該字種の字体として広く用いられている。例えば、上述の「漢字出現頻度数調査A」では、
 (類：8回，類：6685回) (亀：6695回，龜：4回)
 (遡：2回，遡：753回) (餌：3回，餌：1377回)
 という結果（出現回数）となっている。
- 情報機器でも近い将来この字体に収束していくものと考えられる。

② 国語施策としての一貫性を大切にする。

- 今回、追加する字種の標準の字体が、既に「印刷標準字体」及び「人名用漢字字体（＝昭和26年以降平成9年までに示された字体。なお、平成16年9月に追加された人名用漢字においては、印刷標準字体がそのまま採用されている。）」として示されており、表内に入るからといって、その標準の字体を変更することは、安定している字体の使用状況に大きな混乱をもたらすことが予想される。このことは、表外に出る漢字にも同様に当てはまることであり、標準の字体は表内か表外かで変わるものではない。
- 社会的な慣用（字体の安定性）を重んじ、一般の文字生活の現実を混乱させないという考え方が国語施策の基本的な態度である。

③ 「改定常用漢字表」の「目安」としての性格を考慮する。

- 目安としての漢字表である限り、表外漢字との併用が前提となる。この点から表内の字体の整合を図る意味が、制限漢字表であった当用漢字表に比べて相対的に低下している。
- 今後、常用漢字が更に増えたとしても表外漢字との併用が前提となる。その表外漢字の字体は基本的に印刷標準字体であるので、表内に入れば、字体を変更するということが繰り返されると、社会における字体の安定性という面で大きな問題となる。

④ J I S規格（JIS X 0213）における改正の経緯を考慮する。

- 表外漢字字体表の「答申前文」にある以下の記述に沿って、J I S規格（JIS X 0213）が平成16年2月に改正され、印刷標準字体及び簡易慣用字体が既に採用されていることを考慮する必要がある。

今後、情報機器の一層の普及が予想される中で、その情報機器に搭載される表外漢字の字体については、表外漢字字体表の趣旨が生かされることが望ましい。このことは、国内の文字コードや国際的な文字コードの問題と直接かかわっており、将来的に文字コードの見直しがある場合、表外漢字字体表の趣旨が生かせる形での改訂が望まれる。改訂に当たっては、関係各機関の十分な連携と各方面への適切な配慮の下に検討される必要がある。 (平成12年12月8日 国語審議会答申「表外漢字字体表」前文)

- ・ 今回、字体を変更することは、表外漢字字体表に従って改正された文字コード及びそれに基づいて搭載される情報機器の字体に大きな混乱をもたらすことになる。

また、個々の漢字の字体については、現行の常用漢字表同様、印刷文字として、明朝体が現在最も広く用いられているので、便宜上、そのうちの一種を例に用いて示した。このことは、ここに用いたものによって、現在行われている各種の明朝体のデザイン上の差異を問題にしようとするものではない。この点についても、現行の常用漢字表と同様である。（「(付) 字体についての解説」参照）

なお、現行の常用漢字表に示されている通用字体については一切変更しないが、これも上記の理由（特に①及び②）に基づく判断である。

（3）手書き字形に対する手当て等

上記（2）で述べた方針を採った場合、現行の常用漢字表で示す「通用字体」と異なるものが一部採用されることになる。特に「しんにゅう」「しょくへん」については、同じ「しんにゅう／しょくへん」でありながら、現行の「讠／食」の字形に対して「讠／食」の字形が混在することになる。

この点に関し、印刷文字に対する手当てとしては、

「しんにゅう／しょくへん」にかかわる字のうち、「讠／食」の字形が通用字体であるものについては、「讠／食」の字形を角括弧に入れて許容字体として併せ示した。当該の字に関して、現に印刷文字として許容字体を用いている場合、通用字体である「讠／食」の字形に改める必要はない。

という「字体の許容」を行い、更に当該の字の備考欄には、角括弧を付したものが「許容字体」であることを注記した。「字体の許容」を適用するのは、具体的には「遜（遜）・遡（遡）・謎（謎）・餌（餌）・餅（餅）」の5字（いずれも括弧の中が許容字体）である。

また、手書き字形（＝「筆写の楷書字形」）に対する手当てとしては、「しんにゅう」「しょくへん」に限らず、印刷文字字形と手書き字形との関係について、現行常用漢字表にある「(付) 字体についての解説」、表外漢字字体表にある「印刷文字字形（明朝体字形）と筆写の楷書字形との関係」を踏襲しながら、実際に手書きをする際の参考となるよう、更に具体例を増やして記述した。

「しんにゅう」の印刷文字字形である「讠／讠」に関して付言すれば、どちらの印刷文字字形であっても、手書き字形としては同じ「讠」の形で書くことが一般的である、という認識を社会全般に普及していく必要がある。（「(付) 字体についての解説」参照）

5 その他関連事項

以上のとおり改定常用漢字表を作成することに伴って、これに関連する漢字政策の定期的な見直しの必要性や、学校教育にかかわる漢字指導の扱いなどの問題については、次のように考えた。

(1) 漢字政策の定期的な見直し

現代のような変化の激しい時代にあつては、「言葉に関する施策」についても、定期的な見直しが必要である。特に漢字表のように現在進行しつつある書記環境の変化と密接にかかわる国語施策については、この点への配慮が必要である。今後、定期的に漢字表の見直しを行い、必要があれば改定していくことが不可欠となる。

この意味で、定期的・計画的な漢字使用の実態調査を実施していくことが重要である。漢字表の改定が必要かどうかについては、その調査結果を踏まえ、

① 言語そのものの変化という観点

② 言語にかかわる環境の変化という観点

という二つの観点に基づいて、社会的な混乱が生じないように、慎重に判断すべきである。なお、②の変化とは具体的には、情報機器の普及によって生じた書記手段の変化等を指すものである。

(2) 学校教育における漢字指導

現行常用漢字表の「答申前文」に示された以下の考え方を継承し、改定常用漢字表の趣旨を学校教育においてどのように具体化するかについては、これまでどおり教育上の適切な措置にゆだねる。

常用漢字表は、その性格で述べたとおり、一般の社会生活における漢字使用の目安として作成したものであるが、学校教育においては、常用漢字表の趣旨、内容を考慮して漢字の教育が適切に行われることが望ましい。

なお、義務教育期間における漢字の指導については、常用漢字表に掲げる漢字のすべてを対象としなければならないものではなく、その扱いについては、従来の漢字の教育の経緯を踏まえ、かつ、児童生徒の発達段階等に十分配慮した、別途の教育上の適切な措置にゆだねることとする。

(昭和56年3月23日国語審議会答申「常用漢字表」前文)

(3) 国語の表記にかかわる基準等

現行の常用漢字表の実施に伴い、各分野で行われてきている国語の表記や表現についての基準等がある場合、改定常用漢字表の趣旨・内容を踏まえ、かつ、各分野でのこれまでの実施の経験等に照らして、必要な改定を行うなど適切な措置を取ることが望ましい。

3 現行「常用漢字表」からの変更点一覧

I 字種について

<字種の追加・削除>

- 196字を追加し、5字を削除（具体的には、153 ページ「追加及び削除字種の候補漢字一覧」を参照）。

II 音訓について

<音訓の変更>

- 1 側（訓：かわ）→「がわ」と変更。

<音訓の追加>

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 委（訓：ゆだねる） | 15 逝（訓：いく） |
| 2 育（訓：はぐくむ） | 16 拙（訓：つたない） |
| 3 応（訓：こたえる） | 17 全（訓：すべて） |
| 4 滑（音：コツ） | 18 創（訓：つくる） |
| 5 関（訓：かかわる） | 19 速（訓：はやまる） |
| 6 館（訓：やかた） | 20 他（訓：ほか） |
| 7 鑑（訓：かんがみる） | 21 中（音：ジュウ）【1字下げ】 |
| 8 混（訓：こむ） | 22 描（訓：かく） |
| 9 私（訓：わたし） | 23 放（訓：ほうる） |
| 10 臭（訓：におう） | 24 務（訓：つとまる） |
| 11 旬（音：シュン） | 25 癒（訓：いえる・いやす） |
| 12 伸（訓：のべる） | 26 要（訓：かなめ） |
| 13 振（訓：ふれる） | 27 絡（訓：からめる） |
| 14 粹（訓：いき） | 28 類（訓：たぐい） |

<音訓の削除>

- 1 畝（訓：せ）
2 疲（訓：つからす）
3 浦（音：ホ）

<語例欄・備考欄の変更>

- 1 愛（＝都道府県名）：<愛媛（えひめ）県>と注記。
2 音（＝語例の変更）：音「イン」の語例にある「音信不通」を「母音」に変更し、備考欄の「音信不通」についての注記を削除。
3 堪（＝語例の追加）：音「カン」の語例として「堪能」を追加し、その備考欄に<「堪能」は、「タンノウ」とも。>と注記。
4 岐（＝都道府県名）：<岐阜（ぎふ）県>と注記。
5 屈（＝語例の追加）：語例「理屈」を追加。
6 児（＝都道府県名）：<鹿児島（かごしま）県>と注記。
7 滋（＝都道府県名）：<滋賀（しが）県>と注記。
8 十（＝備考欄に注記）：音「ジツ」の備考欄に<「ジュツ」とも。>と注記。
9 従（＝語例欄の変更）：訓「したがう」の語例「従って〔接〕」を削除。
10 昭（＝語例の追加）：語例「昭和」を追加。

- 11 城 (=都道府県名) : <茨城 (いばらき) 県, 宮城 (みやぎ) 県>と注記。
 12 神 (=都道府県名) : <神奈川 (かながわ) 県>と注記。
 13 側 (=音訓の変更) : 訓「かわ」を「がわ」と変更し, 「がわ」の備考欄に<「かわ」とも。>と注記。
 14 鳥 (=都道府県名) : <鳥取 (とっとり) 県>と注記。
 15 透 (=語例欄の変更) : 訓「すく」の語例にある「透き間」を削除。
 16 破 (=語例の追加) : 語例「破棄」を追加。
 17 富 (=都道府県名) : <富山 (とやま) 県>と注記。
 18 分 (=都道府県名) : <大分 (おおいた) 県>と注記。
 19 良 (=都道府県名) : <奈良 (なら) 県>と注記。
 20 力 (=字音の動詞化) : 音「リキ」を動詞「力む」と使うことも可能であることを「表の見方」に明記(「愛⇨愛する」, 「案⇨案じる」などと同様の扱い)。

III 付表について

<現行付表の変更>

- 1 居士 (付表: こじ) ⇒ 「一言居士」を「居士」に変更
- 2 五月 (付表: さつき) ⇒ 「五月晴れ」を「五月」に変更
- 3 お母さん (付表) ⇒ 「お母さん」を「母さん」に変更
- 4 お父さん (付表) ⇒ 「お父さん」を「父さん」に変更
- 5 海女 (付表: あま) ⇒ 「海女」を「海女, 海士」に変更

<付表に追加>

- | | |
|-------------|------------|
| 1 鍛冶 (かじ) | 2 固唾 (かたず) |
| 3 尻尾 (しっぽ) | 4 老舗 (しにせ) |
| 5 真面目 (まじめ) | 6 弥生 (やよい) |

<付表の語の扱いの変更>

- 付表の語を「構成要素の一部とする熟語」に用いてもよいことを明記
 (例) 「河岸 (かし)」を「魚河岸 (うおがし)」, 「心地 (ここち)」
 を「居心地 (いごこち)」として使用

4 「異字同訓」の漢字の用法例（追加字種・追加音訓関連）

あたる・あてる

当たる・当てる……ボールが体に当たる。任に当たる。予報が当たる。出発に当たって。胸に手を当てる。日光に当てる。当て外れ。
充てる……建築費に充（当）てる。保安要員に充（当）てる。
宛てる……恩師に宛てて手紙を書く。本社に宛てられた書類。

あと

跡……車輪の跡。苦心の跡が見える。父の跡を継ぐ。
痕……傷痕が痛む。壁に残る弾丸の痕。手術の痕（跡）。

あやしい

怪しい……挙動が怪しい。空模様が怪しい。怪しい人影を見る。
妖しい……妖しい魅力。妖しく輝く瞳。

いく

行く……電車で行く。早く行こう。仕事帰りに図書館に行った。
逝く……ぽっくり逝く。多くの人に惜しまれながら逝った。

うた

歌……歌を歌う。美しい歌声が響く。
唄……小唄の師匠。長唄を習う。馬子唄が聞こえる。

おそれる

恐れる……死を恐れる。報復を恐れて逃亡する。失敗を恐れるな。
畏れる……師を畏れ敬う。神を畏（恐）れる。畏（恐）れ多いお言葉。

かかる・かける

掛かる・掛ける……迷惑が掛かる。腰を掛ける。保険を掛ける。壁掛け。掛け売り。
懸かる・懸ける……月が中天に懸かる。優勝が懸かる。賞金を懸ける。命を懸けて。
架かる・架ける……橋が架かる。橋を架ける。電線を架ける。
係る……本件に係る訴訟。係り結び。係員。
賭ける……大金を賭ける。人生を賭（懸）けた勝負。名誉を賭（懸）けて誓う。

かく

書く……小説を書く。日記を書く。小さな字で書かれた本。
描く……油絵を描く。ノートに地図を描く。

きる

切る……野菜を切る。期限を切る。電源を切る。縁を切る。
斬る……刀で斬（切）る。敵を斬（切）り殺す。世相を斬（切）る。

こう

請う……許可を請（乞）う。紹介を請（乞）う。案内を請（乞）う。
乞う……乞う御期待。命乞いをする。雨乞いの儀式。慈悲を乞う。

こたえる

答える……質問に答える。正確に答える。
応える……期待に応える。時代の要請に応える。

こむ

混む……電車が混(込)む。混(込)み合う店内。人混(込)みを避ける。
込む……負けが込む。手の込んだ細工を施す。仕事が立て込む。

つくる

作る……米を作る。規則を作る。詩を作る。刺身に作る。生け作り。
造る……船を造る。庭園を造る。酒を造る。
創る……新しい文化を創(作)る。画期的な商品を創(作)り出す。

つとまる

勤まる……彼にはこの会社は勤まらない。私にも十分勤(務)まる仕事だ。
務まる……彼には主役は務まらないだろう。会長が務まるかどうか不安だ。

とらえる

捕らえる……犯人を捕らえる。獲物の捕らえ方。
捉える……文章の要点を捉える。問題の捉え方が難しい。

におい・におう

匂い・匂う……梅の花の匂い。香水がほのかに匂う。
臭い・臭う……魚の腐った臭い。生ごみが臭う。

のべる

延べる……出発の期日を延べる。布団を延べる。金の延べ棒。
伸べる……手を伸べて助け起こす。救いの手を伸べる。

はやまる

早まる……出発時間が早まる。順番が早まる。早まった行動。
速まる……回転のスピードが速まる。脈拍が速まる。

はる

張る……氷が張る。テントを張る。策略を張り巡らす。張りのある声。
貼る……ポスターを貼る。切手を貼り付ける。タイル貼(張)りの壁。

ほか

外……思いの外に到着が早かった。想像の外の事件が起こる。
他……この他に用意するものはあるか。他の人にも尋ねる。

わく

沸く……湯が沸く。風呂が沸く。すばらしい演技に場内が沸く。
湧く……温泉が湧く。勇気が湧く。観客から盛大な拍手が湧(沸)く。

< 参考資料 >

文化審議会国語分科会委員名簿

平成17年5月16日～平成22年5月19日

(敬称略・五十音順)

- | | |
|------------------------|---------------------------------------|
| 足立直樹
(平成19年7月から) | 凸版印刷株式会社代表取締役社長、
社団法人日本印刷産業連合会常務理事 |
| 阿辻哲次 | 京都大学大学院教授 |
| * 阿刀田高
(平成19年2月まで。* | 小説家
*:平成19年2月まで<分科会長>) |
| 井田由美 | 日本テレビ放送網株式会社報道局解説委員 |
| 市川團十郎
(平成21年2月まで) | 歌舞伎俳優、社団法人日本俳優協会財務理事 |
| 伊藤和子
(平成21年5月から) | 愛知県教育委員会事務局学習教育部生涯学習監 |
| 伊東祐郎
(平成21年3月から) | 東京外国語大学教授 |
| 井上洋
(平成20年3月から) | 社団法人日本経済団体連合会社会広報本部長 |
| 岩淵匡
(平成19年2月まで) | 早稲田大学教授 |
| 岩見宮子
(平成19年7月から) | 社団法人国際日本語普及協会専務理事 |
| 内田伸子 | お茶の水女子大学大学院教授 |
| 大原穰子
(平成19年2月まで) | ドラマの方言指導 |
| 沖森卓也
(平成19年7月から) | 立教大学教授 |
| 尾崎明人
(平成19年7月から) | 名古屋外国語大学教授 |
| 甲斐睦朗
(平成21年2月まで) | 京都橘大学教授 |
| 加藤早苗
(平成20年3月から) | 株式会社インターカルト日本語学校代表取締役 |
| 金武伸弥 | 前社団法人日本新聞協会用語専門委員 |
| 蒲谷宏
(平成19年2月まで) | 早稲田大学教授 |
| 菊地康人
(平成19年2月まで) | 東京大学教授 |
| 小池保
(平成19年2月まで) | 元NHKアナウンサー・解説委員、尚美学園大学教授 |
| 坂本恵
(平成19年2月まで) | 東京外国語大学教授 |
| 笹原宏之
(平成19年7月から) | 早稲田大学教授 |
| 佐藤郡衛
(平成19年7月から) | 東京学芸大学副学長・理事 |

	佐藤元伸 (伊奈 かつぺい) (平成19年2月まで)	青森放送株式会社ラジオ局副参事
	陣内正敬 (平成19年2月まで)	関西学院大学教授
	杉戸清樹	独立行政法人国立国語研究所名誉所員
	高木展郎 (平成21年3月から)	横浜国立大学教授
	武元善広 (平成19年7月から)	東京書籍株式会社取締役
	出久根達郎 (平成19年7月から)	作家, 社団法人日本文藝家協会理事
	東倉洋一	国立情報学研究所副所長
	中神 優 (平成20年3月から平成21年3月まで)	愛知県地域振興部国際監
	中野佳代子 (平成19年7月から)	財団法人国際文化フォーラム理事兼事務局長
	納屋 信 (平成19年7月から)	日本文化大学准教授
	西澤良之 (平成20年3月から)	独立行政法人国際交流基金参与兼 日本語試験センター所長
副会長	西原鈴子 (平成19年7月から<副会長>)	前東京女子大学教授
	長谷川英一 (平成19年7月から)	社団法人電子情報技術産業協会常務理事
	濱田博信 (平成19年7月から)	株式会社講談社取締役, 社団法人日本書籍出版協会常務理事
分科会長	林 史典 (平成20年3月から<分科会長>)	聖徳大学教授
	* 前田富祺 (* :平成19年7月から平成20年2月まで<分科会長>)	大阪大学名誉教授
	松岡和子 (平成21年2月まで)	翻訳家, 演劇評論家
	松村由紀子	前目黒区立第八中学校長
	邑上裕子 (平成19年7月から)	新宿区立落合第四小学校長
	やすみ りえ (平成21年3月から)	川柳作家
	山内純子 (平成19年2月まで)	全日本空輸上席執行役員客室本部長
	山田 泉 (平成19年7月から)	法政大学教授

※ 職名等は, 平成22年5月19日現在。ただし, 平成19年2月, 平成21年2月及び平成21年3月までの委員については, その時点のものである。

漢字小委員会委員名簿

平成17年5月16日～平成22年5月19日

(敬称略・五十音順。*は、漢字小委員会ワーキンググループ委員)

阿 辻 哲 次*	京都大学大学院教授
阿刀田 高 (平成19年2月まで)	小説家
岩 淵 匡 (平成19年2月まで)	早稲田大学教授
内 田 伸 子 (平成19年7月から)	お茶の水女子大学大学院教授
沖 森 卓 也* (平成19年7月から)	立教大学教授
甲 斐 睦 朗 (平成21年2月まで)	京都橘大学教授
金 武 伸 弥	前社団法人日本新聞協会用語専門委員
笹 原 宏 之* (平成19年7月から)	早稲田大学教授
高 木 展 郎 (平成21年3月から)	横浜国立大学教授
武 元 善 広 (平成19年7月から)	東京書籍株式会社取締役
出久根 達 郎 (平成19年7月から)	作家, 社団法人日本文藝家協会理事
東 倉 洋 一	国立情報学研究所副所長
納 屋 信 (平成19年7月から)	日本文化大学准教授
副主査 林 史 典*	聖徳大学教授
主 査 前 田 富 祺*	大阪大学名誉教授
松 岡 和 子 (平成21年2月まで)	翻訳家, 演劇評論家
松 村 由 紀 子	前目黒区立第八中学校校長
邑 上 裕 子 (平成19年7月から)	新宿区立落合第四小学校校長
やすみ りえ (平成21年3月から)	川柳作家

※ 職名等は、平成22年5月19日現在。ただし、平成19年2月及び平成21年2月までの委員については、その時点のものである。

16 庁文第 257 号
平成 17 年諮問第 15 号

文化審議会

次の事項について、別紙理由を添えて諮問します。

- 敬語に関する具体的な指針の作成について
- 情報化時代に対応する漢字政策の在り方について

平成 17 年 3 月 30 日

文 部 科 学 大 臣 中 山 成 彬

(理 由)

○ 敬語に関する具体的な指針の作成について

国際化・情報化の進展，価値観の多様化等の社会変化は，人々の言語生活や言葉遣いにも様々な影響を与えている。端的に言えば，このような社会変化に伴って，人々の言葉遣いもまた大きく多様化している。このことは，言葉の持つ豊かさとしてとらえることができる一方で，コミュニケーションを円滑化し，人間関係を構築していくことを一層難しくしている要因ともなっている。

敬語は，我が国の大切な文化として受け継がれてきたものであり，社会生活において多様な人間関係を構築し，維持・発展させていく上で，極めて重要な位置を占めている。今後，上述の社会変化が進み，人々の言語生活や言葉遣いが多様化すればするほど，社会生活を送る上で「コミュニケーションを円滑化し，人間関係を構築していく」という敬語の機能が重要な意味を持つ。

このような敬語の機能を十分生かすには，当然のことながら，その適切な運用が前提となるものであるが，文化庁の「国語に関する世論調査」の結果によれば，現在は，敬語の必要性を多くの人々が感じつつ，必ずしも適切に運用されているとは言いがたい状況にある。この点を踏まえ，敬語が必要だと感じているけれども，現実の運用に際しては困難を感じている人たちに対して，敬語の適切な運用に資する具体的で分かりやすい指針を作成することが必要であると考える。

○ 情報化時代に対応する漢字政策の在り方について

種々の社会変化の中でも，情報化の進展に伴う，パソコンや携帯電話などの情報機器の普及は人々の言語生活とりわけ，その漢字使用に大きな影響を与えている。このような状況にあって「法令，公用文書，新聞，雑誌，放送など，一般の社会生活において，現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安」である常用漢字表（昭和56年内閣告示・訓令）が，果たして，情報化の進展する現在においても「漢字使用の目安」として十分機能しているのかどうか，検討する時期に来ている。

常用漢字表の在り方を検討するに当たっては，JIS漢字や人名用漢字との関係を踏まえて，日本の漢字全体をどのように考えていくかという観点から総合的な漢字政策の構築を目指していく必要がある。その場合，これまで国語施策として明確な方針を示してこなかった固有名詞の扱いについても，基本的な考え方を整理していくことが不可欠となる。

また、情報機器の広範な普及は、一方で、一般の文字生活において人々が手書きをする機会を確実に減らしている。漢字を手で書くことをどのように位置付けるかについては、情報化が進展すればするほど、重要な課題として検討することが求められる。検討に際しては、漢字の習得及び運用面とのかかわり、手書き自体が大切な文化であるという二つの面から整理していくことが望まれる。

以上のような観点から、「敬語に関する具体的な指針の作成」及び「情報化時代に対応する漢字政策の在り方」について、それぞれ検討する必要がある。

文部科学大臣諮問理由説明

平成17年3月30日

1 このたびの諮問を行うに当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

委員の皆様におかれましては、御多用中にもかかわらず御出席いただきまして誠にありがとうございます。平成13年に設置されましたこの文化審議会には、これまでに「文化を大切に作る社会の構築について」など三つの御答申をおまとめいただいたほか、各分科会においても精力的な御審議が行われていると伺っております。

文化審議会で御検討いただきます様々な課題は、いずれも我が国の文化の振興にとって重要な事項でございますが、とりわけ、国語、すなわち私たち日本人の母語である日本語の問題は、全国民に直接かかわる問題であり、我が国の文化や社会の基盤にもかかわる極めて重要な問題であると考えております。

国語の問題に関しては、昨年2月に「これからの時代に求められる国語力について」の御答申をいただきましたが、その中に述べられている「現在の我が国の状況を考えるとき、今日ほど国語力の向上が強く求められている時代はない。」という御認識は、そのまま今の私の認識でもございます。

本年2月、文化審議会国語分科会が「国語分科会で今後取り組むべき課題について」の御報告をおまとめになりました。国語、言葉の問題は、極めて広範にわたり、多様な問題が存在いたします。しかしながら、それぞれの問題の緊急性、重要性にはおのずと濃淡があることは申すまでもありません。

分科会の御報告は、問題の緊急性、重要性から見て、「敬語に関する具体的な指針の作成について」及び「情報化時代に対応する漢字政策の在り方について」の二つの課題を今後取り組むべき大事な課題であると指摘されています。様々な課題の中からこれらの二つについて御提言いただいたことに、私は分科会各委員の御見識の高さを感じた次第であります。

本日の諮問は、この国語分科会のおまとめになった御報告に沿って二つの課題の検討をお願いするものであります。

2 今後、御審議を進めていただくに当たり、二つの諮問事項について私の考えているところを若干申し述べたいと存じます。

(1) まず初めに、敬語の具体的な指針の作成に関連して申し上げます。

敬語は、我が国の大切な文化として受け継がれてきたものであるとともに、社会生活における人々のコミュニケーションを円滑にし、人間関係を構築していく上で欠くことのできないものであります。

最初をお願いしたいことは、現在の社会生活に不可欠な存在である敬語を、現時点で、どのように位置付け、そして、それをどのように将来の社会にまで引き継い

でいくのかという観点を指針作成に当たって大事にさせていただきたいということがあります。

すなわち、作成される指針は、現在の人々の言語生活に資するだけでなく、将来の敬語の在り方にも影響を与えるものであるという点を十分に踏まえて、検討をお願いしたいということがあります。このことは伝統的な敬語の使い方だけが正しく望ましいという意味では決してありません。むしろ、大切な文化だからこそ、使いやすく分かりやすい敬語の在り方や使い方をお示しいただきたいというのが私の率直な気持ちであります。

(2) 次に、情報化時代に対応する漢字政策の在り方に関連して申し上げます。

パソコンや携帯電話等の情報機器の急速な普及によって、人々の文字環境は大きく変化してきています。これらの情報機器には驚くほどの数の漢字が搭載されており、その結果、社会生活で目にする漢字の数も確実に増えているように感じられます。このような変化に伴って、人々の漢字使用にかかわる意識もどちらかと言えば、より多くの漢字を使いたいという方向に動きつつあるように見受けられます。このこと自体は決して悪いこととは思いません。しかしながら、法令・公用文書・新聞・雑誌・放送など、一般の社会生活における漢字使用を考えるとときには、意思疎通の手段としての漢字という観点が極めて重要であり、単純に漢字の数が多ければ多いほどよいとするわけには行きません。

情報化の急速な進展によってもたらされたこのような社会変化の中で、人々の共通の理念となるような「漢字にかかわる基本的な考え方」を整理し、提示していく必要があるのではないかと感じております。端的には、日本の漢字をどのように考えていくのか、この点について、大局的な見地に立った御判断をお示しいただければ大変に有り難いと存じます。

常用漢字表の見直しにしても、固有名詞の取扱いにしても、手書きをどのように位置付けるかにしても、正にこの基本理念に基づいて検討されるべき課題であろうと考えます。甚だ難しいお願いではありますが、このことの重要性にかんがみて御検討のほどよろしくお願いいたします。

3 以上、今回の御審議に当たり、特に御検討をお願いしたい点について申し上げましたが、幅広い視野の下に、忌憚たんのない御審議をしてくださるようお願い申し上げます、私のごあいさつといたします。

審 議 経 過

【文化審議会】

第39回：平成17年 3月30日（水）東京會館・ゴールドルーム 10:30-11:30

- 文部科学大臣から「敬語に関する具体的な指針の作成」及び「情報化時代に対応する漢字政策の在り方」について諮問

第40回：平成18年 2月 3日（金）如水會館・オリオンルーム 14:00-16:00

- 国語分科会（敬語小委員会及び漢字小委員会）の検討状況を報告

第41回：平成18年 2月17日（金）東京會館・ゴールドルーム 10:30-12:00

- 文化審議会会長の選出
- 文化審議会運営規則等について

第42回：平成19年 2月 2日（金）東京會館・ゴールドルーム 10:30-12:00

- 「敬語の指針」を答申，国語分科会漢字小委員会の検討状況を報告

第43回：平成19年 2月16日（金）東京會館・シルバールーム 10:30-12:00

- 文化審議会会長の選出
- 文化審議会運営規則等について

第44回：平成19年 6月29日（金）アーバンネット大手町ビル・スタールーム 14:00-16:00

- 文化政策部会の設置等

第45回：平成20年 2月 1日（金）文部科学省・3F1特別会議室 14:00-16:00

- 国語分科会（漢字小委員会及び日本語教育小委員会）の検討状況を報告

第46回：平成20年 2月14日（木）文部科学省・3F1特別会議室 10:30-12:15

- 文化審議会会長の選出
- 文化審議会運営規則等について

第47回：平成21年 1月29日（木）文部科学省・3F1特別会議室 10:00-11:45

- 国語分科会（漢字小委員会及び日本語教育小委員会）の検討状況を報告
- ※ 国語分科会漢字小委員会からは「新常用漢字表（仮称）」に関する試案について報告

第48回：平成21年 2月18日（水）文部科学省・3F1特別会議室 10:30-12:05

- 文化審議会会長の選出
- 文化審議会運営規則等について

第49回：平成22年 2月 1日（月）文部科学省・3F1特別会議室 15:02-16:38

- 国語分科会（漢字小委員会及び日本語教育小委員会）の検討状況を報告
- ※ 国語分科会漢字小委員会からは「改定常用漢字表」に関する試案について報告

第50回：平成22年 2月10日（水）旧文部省庁舎・第2講堂 12:02-13:26

- 文化審議会会長の選出
- 文化審議会運営規則等について

第51回：平成22年 6月〇〇日（ ）

- 「改定常用漢字表」に関する答申について

【文化審議会国語分科会】

第29回：平成17年 5月16日（月）東京會館・ゴールドルーム 10:00-12:25

- 文化審議会国語分科会長の選出
- 文化審議会国語分科会運営規則等について
- 「敬語に関する具体的な指針の作成」及び「情報化時代に対応する漢字政策の在り方」について

第30回：平成17年 7月 5日（火）丸ビル・コンファレンススクエア ROOM4 14:00-16:00

- 「敬語に関する具体的な指針の作成」及び「情報化時代に対応する漢字政策の在り方」について

第31回：平成18年 1月30日（月）東京會館・ゴールドルーム 10:00-12:00

- 「敬語に関する具体的な指針の作成」及び「情報化時代に対応する漢字政策の在り方」について

第32回：平成18年 3月27日（月）如水會館・オリオンルーム 11:00-12:30

- 文化審議会国語分科会長の選出
- 文化審議会国語分科会運営規則等について

第33回：平成18年10月23日（月）如水會館・オリオンルーム 14:00-16:10

- 「敬語の指針（報告案）」について

第34回：平成19年 1月15日（月）如水會館・オリオンルーム 10:00-13:00

- 「敬語の指針（案）」について
- 漢字小委員会のまとめについて

第35回：平成19年 7月25日（水）（財）都道府県會館・401号室 10:30-12:00

- 文化審議会国語分科会長の選出
- 文化審議会国語分科会運営規則等について

第36回：平成19年12月10日（月）学術総合センター・中会議場 3・4 10:00-12:10

- 漢字政策の在り方について
- 日本語教育の在り方について

第37回：平成20年 1月28日（月）文部科学省・3F・1特別会議室 10:00-12:05

- 漢字小委員会の今期のまとめについて
- 日本語教育小委員会の今期のまとめについて

第38回：平成20年 3月19日（水）文部科学省・3F1特別会議室 10:00-11:35

- 文化審議会国語分科会長の選出
- 文化審議会国語分科会運営規則等について

第39回：平成20年 7月31日（木）東海大学校友会館・阿蘇の間 14:00-15:45

- 漢字小委員会における審議状況について
- 日本語教育小委員会における審議状況について
- 平成19年度「国語に関する世論調査」について

第40回：平成21年 1月27日（火）文部科学省・3F1特別会議室 14:00-15:25

- 漢字小委員会の今期のまとめについて
（「新常用漢字表（仮称）」に関する試案（案））
- 日本語教育小委員会の今期のまとめについて
（国語分科会日本語教育小委員会における審議について（案））

第41回：平成21年 3月24日（火）グランドアーク半蔵門・華 13:30-15:00

- 文化審議会国語分科会長の選出
- 文化審議会国語分科会運営規則等について

第42回：平成21年11月10日（火）旧文部省庁舎・第2講堂 10:00-12:00

- 漢字小委員会における審議状況について
- 日本語教育小委員会における審議状況について

第43回：平成22年 3月 4日（木）旧文部省庁舎・第2講堂 11:30-12:20

- 文化審議会国語分科会長の選出
- 文化審議会国語分科会運営規則等について

第44回：平成22年 5月19日（木）旧文部省庁舎・第2講堂 10:00-

- 「改定常用漢字表」に関する答申案（案）について
- 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案
について（案）について

【漢字小委員会】

第1回：平成17年 9月13日（火）三菱ビル・コンファレンススクエア M+ミッドビル 1+2 10:00-12:00

- 主査，副主査の選出
- 漢字小委員会の議事の公開について
- 漢字政策の在り方全般について

第2回：平成17年10月31日（月）古河総合ビル・F2会議室 10:00-12:00

- 漢字政策の在り方全般について

第3回：平成17年11月29日（月）古河総合ビル・F2会議室 10:00-12:00

- JIS漢字を中心とした漢字政策の在り方について

第4回：平成17年12月16日（金）古河総合ビル・F2会議室 10:00-12:00

- 人名用漢字を中心とした漢字政策の在り方について

第5回：平成18年 1月20日（月）文部科学省ビル・10F3会議室 14:00-16:00

- 固有名詞の漢字を中心とした漢字政策の在り方について

第6回：平成18年 4月24日（月）三菱ビル・M1会議室 10:00-12:00

- 主査・副主査の選出
- 漢字小委員会の議事の公開について
- 漢字政策の在り方全般について

第7回：平成18年 5月24日（水）パレスビル・3-E会議室 14:00-16:00

- 総合的な漢字政策の在り方について

第8回：平成18年 6月13日（火）丸ビル・コンファレンススクエア ROOM1 10:00-12:00

- 固有名詞の漢字を中心とした漢字政策の在り方について

第9回：平成18年 7月10日（月）三菱ビル・M1会議室 10:00-12:00

- 固有名詞の漢字を中心とした漢字政策の在り方について

第10回：平成18年 9月11日（月）三菱ビル・M1会議室 10:00-12:00

- 固有名詞の漢字を中心とした漢字政策の在り方について

第11回：平成18年10月24日（火）三菱ビル・M1会議室 10:00-12:00

- 新聞における漢字表記及び情報化と漢字政策の在り方について

第12回：平成18年11月20日（月）丸ビル・コンファレンススクエア ROOM2 10:00-12:00

- 新常用漢字表（仮称）の基本的な性格について

第13回：平成18年12月19日（火）丸の内仲通りビル・K2会議室 10:00-12:00

○漢字選定の方針及び漢字の読み・書きについて

第14回：平成19年1月9日（火）三菱ビル・M1会議室 10:00-12:10

○今期漢字小委員会のまとめについて

第15回：平成19年7月25日（水）（財）都道府県会館・401号室 13:00-15:00

○主査・副主査の選出

○漢字小委員会の議事の公開について

○漢字小委員会の進め方等について

○漢字小委員会におけるこれまでの議論について

第16回：平成19年9月10日（月）三菱ビル・M1会議室 10:00-12:00

○これまでの漢字施策について

○漢字小委員会におけるこれまでの議論について

第17回：平成19年10月17日（水）三菱ビル・M1会議室 10:00-12:15

○新常用漢字表（仮称）の基本的性格について

○平成18年度「国語に関する世論調査」について

○漢字小委員会ワーキンググループの設置について

第18回：平成19年11月1日（木）経済産業省別館・1020会議室 14:00-16:30

○新常用漢字表（仮称）の基本的性格について

第19回：平成19年12月5日（水）経済産業省別館・1014会議室 14:00-16:20

○新常用漢字表（仮称）における漢字選定について

第20回：平成20年1月9日（水）文部科学省・3F1特別会議室 10:00-12:25

○これまでの漢字小委員会における審議について

第21回：平成20年5月12日（月）経済産業省別館・1038会議室 14:00-16:00

○主査、副主査の選出

○漢字小委員会の議事の公開について

○新常用漢字表（仮称）の字種選定について

第22回：平成20年5月26日（月）経済産業省別館・1014会議室 14:00-16:00

○新常用漢字表（仮称）の字種選定について

第23回：平成20年6月16日（月）文部科学省・16F特別会議室 14:00-16:00

○新常用漢字表（仮称）の字種選定について

第24回：平成20年 7月15日（火）文部科学省・16F特別会議室 14:00-16:10

○新常用漢字表（仮称）の字種選定について

第25回：平成20年 9月22日（月）経済産業省別館・1020会議室 10:00-12:15

○追加字種の音訓について

第26回：平成20年10月21日（火）文部科学省・3F1特別会議室 14:10-16:00

○追加字種の音訓について

○異字同訓の漢字の用法について

第27回：平成20年11月11日（火）学術総合センター・中会議場1・2 14:00-16:20

○追加字種の字体について

第28回：平成20年11月25日（火）東海大学校友会館・富士の間 10:00-12:00

○追加字種の字体について

第29回：平成20年12月16日（火）経済産業省別館・1028会議室 14:00-16:20

○追加字種の字体について

第30回：平成21年 1月16日（金）旧文部省庁舎・第2講堂 14:00-16:30

○「新常用漢字表（仮称）」に関する試案の「基本的な考え方」について

第31回：平成21年 4月28日（火）文部科学省・講堂 10:00-11:25

○主査，副主査の選出

○漢字小委員会の議事の公開について

○漢字小委員会の進め方等について

第32回：平成21年 5月13日（水）文部科学省・講堂 10:00-12:15

○「新常用漢字表（仮称）」に関する試案の「基本的な考え方」に対して寄せられた意見の扱いについて

第33回：平成21年 6月 2日（火）文部科学省・16F特別会議室 10:00-12:05

○「新常用漢字表（仮称）」に関する試案の「基本的な考え方」に対して寄せられた意見の扱いについて

第34回：平成21年 7月17日（金）文部科学省・3F1特別会議室 14:00-17:00

○「新常用漢字表（仮称）」に関する試案の「字種」「音訓」に対して寄せられた意見の扱いについて

○国語教育から見た「新常用漢字表（仮称）」に関する試案について

第35回：平成21年 7月28日（火）文部科学省・3F1特別会議室 10:00-12:00

- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案の「字体」に対して寄せられた意見の扱いについて
- 「新常用漢字表（仮称）」の名称について

第36回：平成21年 9月 8日（火）東海大学校友会館・望星の間 10:00-12:10

- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案に対する内閣法制局からの意見の扱いについて
- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案の修正について

第37回：平成21年10月23日（金）学術総合センター・特別会議室 101-103 10:00-12:00

- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案の修正について
- 「新常用漢字表（仮称）」の名称について

第38回：平成22年 1月19日（火）文部科学省・16F特別会議室 10:00-12:10

- 「改定常用漢字表」に関する試案の「基本的な考え方」及び「字種の追加・削除」に対して寄せられた意見の扱いについて
- 平成21年度「国語に関する世論調査」（文化庁国語課）を活用して、追加及び削除候補字種を中心とした漢字意識調査の実施について

第39回：平成22年 1月29日（金）文部科学省・16F特別会議室 14:00-16:10

- 「改定常用漢字表」に関する試案の「音訓関係」、「字体」及び「その他」に対して寄せられた意見の扱いについて

第40回：平成22年 3月24日（水）文部科学省・3F1特別会議室 10:00-11:50

- 主査、副主査の選出
- 漢字小委員会の議事の公開について
- 漢字小委員会の進め方等について
- 「改定常用漢字表」に関する試案の「基本的な考え方」及び「表の見方」の修正について

第41回：平成22年 4月13日（火）文部科学省・3F1特別会議室 10:00-11:50

- 「改定常用漢字表」に関する試案の「字種・音訓・語例・字体等」の修正について
- 平成21年度「国語に関する世論調査」（文化庁国語課）における漢字意識調査の結果（速報値）について

第42回：平成22年 4月23日（金）文部科学省・第1講堂 10:00-11:50

- 「改定常用漢字表」に関する答申案（素案）について

【漢字小委員会・懇談会】

第1回：平成20年10月27日（火）文部科学省・16F特別会議室 14:00-17:15

○字体に関するヒアリング（国語教育関係，書籍出版関係，情報機器関係）

第2回：平成20年12月16日（火）経済産業省別館・1028会議室 16:25-16:45

○漢字小委員会の運営について

第3回：平成21年 6月22日（月）グランドアーク半蔵門・光 13:00-17:05

○字体に関するヒアリング（文字コード関係，フォント関係）

【漢字小委員会ワーキンググループ】

第1回：平成19年11月26日（月）三菱ビル・M2会議室 9:30-16:50

○追加字種の選定について

第2回：平成19年12月 5日（水）経済産業省別館・1014会議室 16:20-17:00

○国語分科会総会に提出する資料について

第3回：平成19年12月10日（月）学術総合センター・中会議場3・4 13:00-17:00

○追加字種の選定について

第4回：平成19年12月19日（水）

「丸の内仲通りビル・K3会議室」及び「三菱ビル・M2会議室」 11:30-18:10

○「国語分科会漢字小委員会における審議について（案）」について

○追加字種の選定について

第5回：平成20年 1月23日（水）

「文部科学省・3F1特別会議室」及び「文部科学省・16F特別会議室」 9:50-17:20

○「国語分科会漢字小委員会における審議について（案）」について

○追加字種の選定について

第6回：平成20年 3月11日（火）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 10:05-17:05

○追加字種の選定について

第7回：平成20年 3月17日（月）文部科学省・16F特別会議室 10:10-17:25

○追加字種の選定について

第8回：平成20年 3月18日（火）文部科学省・16F特別会議室 10:00-15:50

○追加字種の選定について

第9回：平成20年 3月26日（水）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 10:00-16:20

○追加字種の選定について

第10回：平成20年 4月24日（木）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 10:00-17:10

○追加字種の選定について

第11回：平成20年 4月30日（水）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 10:00-17:00

○漢字小委員会に提出する資料について

○「別表（付表2）」について

第12回：平成20年 5月21日（水）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 9:30-14:15

- 追加字種の選定について
- 「別表」の扱いについて

第13回：平成20年 6月 2日（月）旧文部省庁舎・文化庁第2会議室 13:00-20:40

- 追加字種の選定について

第14回：平成20年 6月 3日（火）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 10:00-17:15

- 追加字種の選定について

第15回：平成20年 6月 6日（金）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 10:00-14:10

- 漢字小委員会に提出する資料について

第16回：平成20年 7月 3日（木）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 10:00-17:00

- 漢字小委員会に提出する資料について
- 追加字種の選定について

第17回：平成20年 8月 7日（木）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 10:00-16:50

- 追加字種の音訓について

第18回：平成20年 8月27日（水）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 10:00-17:10

- 追加字種の音訓について

第19回：平成20年 9月 3日（水）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 10:00-17:10

- 漢字小委員会に提出する資料について
- 追加字種の音訓について
- 現行常用漢字の音訓について

第20回：平成20年10月 7日（火）旧文部省庁舎・文化庁第2会議室 14:20-19:50

- 追加字種の音訓について
- 現行常用漢字の音訓について

第21回：平成20年10月 8日（水）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 9:50-16:45

- 漢字小委員会に提出する資料について
- 追加字種の音訓について
- 現行常用漢字の音訓について

第22回：平成20年10月28日（水）旧文部省庁舎・文科省第1会議室 9:30-12:50

- 追加字種の音訓について
- 現行常用漢字の音訓について
- 現行常用漢字表の「備考」欄について
- 現行常用漢字表の「付表」について

第23回：平成20年10月31日（金）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 10:00-16:00

- 漢字小委員会に提出する資料について
- 追加字種の字体について

第24回：平成20年11月11日（火）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 17:00-18:30

- 追加字種の字体について

第25回：平成20年11月19日（水）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 11:10-16:40

- 追加字種の字体について

第26回：平成20年11月25日（火）旧文部省庁舎・文化庁第2会議室 13:00-15:00

- 追加字種の字体について
- 「字体についての解説」について

第27回：平成20年12月 8日（月）旧文部省庁舎・文科省第1会議室 10:00-17:10

- 漢字小委員会に提出する資料について
- 追加字種の字体について
- 「字体についての解説」について

第28回：平成20年12月16日（火）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 17:00-18:05

- 同日に開催された漢字小委員会の審議について

第29回：平成21年 1月 6日（火）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 11:00-18:05

- 漢字小委員会に提出する資料について
- 試案の「はじめに」「前文」「表の見方」について

第30回：平成21年 1月20日（火）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 11:00-18:00

- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案（案）」について

第31回：平成21年 4月28日（火）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 11:45-16:50

- 同日に開催された漢字小委員会の審議について
- 今後の漢字小委員会の進め方について
- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案」に対して寄せられた意見の扱いについて

第32回：平成21年 5月13日（水）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 12:25-16:55

- 同日に開催された漢字小委員会の審議について
- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案」に対して寄せられた意見の扱いについて

第33回：平成21年 5月26日（火）文部科学省・3F3特別会議室 10:00-16:55

- 今後の漢字小委員会の進め方について
- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案」に対して寄せられた意見の扱いについて

第34回：平成21年 6月 2日（火）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 13:00-16:55

- 同日に開催された漢字小委員会の審議について
- 今後の漢字小委員会の進め方について
- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案」に対して寄せられた意見の扱いについて

第35回：平成21年 7月 1日（水）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 9:55-16:30

- 漢字小委員会懇談会で示された課題について
- 今後の漢字小委員会の進め方について
- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案」に対して寄せられた意見の扱いについて

第36回：平成21年 7月 8日（水）国立教育政策研究所・第1特別会議室 9:55-17:15

- 平成21年度国語に関する世論調査の問いについて
- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案」に対して寄せられた意見の扱いについて

第37回：平成21年 8月 5日（水）旧文部省庁舎・文科省第3会議室 10:05-15:35

- 情報機器関係者からの文字コードと字体の問題についての聞き取り
- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案」に対して寄せられた意見の扱いについて

第38回：平成21年 8月10日（月）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 9:55-19:50

- 今後の漢字小委員会の進め方について
- 漢字表で使用するフォントについて
- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案」に対して寄せられた意見の扱いについて
- 平成21年度国語に関する世論調査の問いについて

第39回：平成21年 8月11日（火）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 9:55-16:50

- 平成21年度国語に関する世論調査の問いについて
- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案」に対して寄せられた意見の扱いについて
- 漢字小委員会に提出する資料について

第40回：平成21年 9月30日（水）旧文部省庁舎・文化庁第2会議室 9:55-16:10

- 漢字表の名称について
- 「新常用漢字表（仮称）」に関する試案」の修正について
- 内閣法制局から提出された意見について
- フォントのデザインについて

第41回：平成21年12月16日（水）文部科学省・3F3特別会議室 12:55-15:35

- 「改定常用漢字表」に関する試案」に対して寄せられた意見について（中間状況）
- 「改定常用漢字表」に関する試案」に対して寄せられている、字種及び字体に関する意見の扱いについて

第42回：平成22年 1月 8日（金）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 10:00-20:35

- 「改定常用漢字表」に関する試案」に対して寄せられた意見の扱いについて
- 今後の漢字小委員会の進め方について

第43回：平成22年 1月19日（火）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 13:00-17:35

- 同日に開催された漢字小委員会の審議について
- 「改定常用漢字表」に関する試案」の修正について

第44回：平成22年 2月 4日（木）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 10:05-17:40

- 「改定常用漢字表」に関する試案」に対して寄せられた意見の扱いについて
- 平成21年度「国語に関する世論調査」（文化庁国語課）の問い案について

第45回：平成22年 2月16日（火）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 10:00-17:55

- 平成21年度「国語に関する世論調査」（文化庁国語課）の問い案について
- 「改定常用漢字表」に関する試案」に対して寄せられた意見の扱いについて

第46回：平成22年 3月 9日（火）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 13:05-20:35

- 「改定常用漢字表」に関する試案」の修正について

第47回：平成22年 3月10日（水）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 10:40-14:30

- 「改定常用漢字表」に関する試案」の修正について

第48回：平成22年 4月 7日（水）旧文部省庁舎・文化庁第1会議室 10:00-17:40

- 「罫」の扱いについて
- 平成21年度「国語に関する世論調査」（文化庁国語課）の調査結果（速報値）について
- フォントのデザイン差の扱い等について
- 漢字小委員会に提出する配布資料について

第49回：平成22年 5月10日（月）旧文部省庁舎・文化庁特別会議室 14:05-17:40

- 「改定常用漢字表」に関する答申案（素案）の修正について